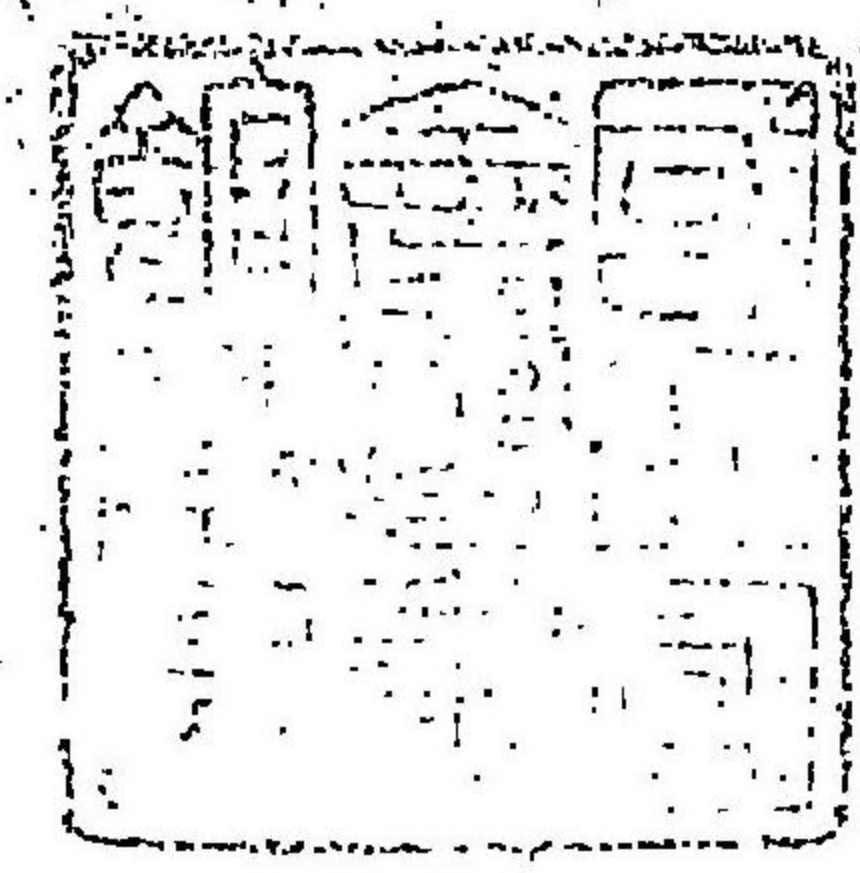


語法指南
全

815-09329



語法指南(日本文典摘録)

假名音

○五十音圖 平假名 片假名

五音十圖

名 假 平

和行	良行	也行	末行	波行	奈行	多行	左行	加行	阿行	阿段
わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ	以段
ゐ	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い	宇段
う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	衣段
ゑ	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え	於段
を	ろ	よ	も	ほ	の	ど	そ	こ	お	

假名ニ變體ノモノモ多クレド此ニハ略ス。

名 假 片

ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
井	リ	イ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
ウ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
エ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
オ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

あ、い、う、え、おノ縦ノ行ヲ阿行ト名ツケ、か、き、く、け、こノ行ヲ加行ト名ツケ、其以下、左行、多行、奈行、波行、末行、也行、良行、和行、皆之ニ倣ヘ。

あ、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わノ横ノ段ヲ阿段ト名ツケ、い、き、し、ち、に、ひ、み、い、り、ぬ、段ヲ伊段ト名ツケ、以下、宇段、衣段、於段、皆之ニ倣ヘ。



337376

○單音、母韻、發聲、熟音 阿行ノ五音ハ、喉ヨリ單一ニ出ツ、コレヲ單音ト名
 ヅク。加行以下、九行ノ諸音ハ、其行毎ニ、各、其音ヲ呼ビ發ス一種ノ聲アリテ、
 コレヲ發聲(Consonant)ト名ヅケ、單音、ソノ韻トナリ、發聲ト單音ト、相熟シ
 テ、始メテ音ト成ル、此ノ故ニ、加行以下ノ九行四十五音ヲ、熟音(Syllable)ト名
 ズク。單音ハ斯ク發聲ノ韻トモナルガ故ニ、亦、母韻(Vowel)ノ稱アリ。

○單音、熟音又ハ、發聲(子韻トモイフモノ)ノ名稱及ビ、假名ト洋字トノ發聲、母韻ノ辨委シク
 ハ、文典ニ讓ル。

○發聲ノ、喉、舌、齒、鼻等ニ關スル解モ、辭書ニ用ナケレバ、此ニ略ス。

五十音圖ノ中ニ、阿行ノイ、う、えト、也、行ノい、えト、和行ノう、ト、同形ノ字重出
 ス。此ノ各二音ハ、各、甚ダ相近ケレバ、古來、字ヲ相通ハシテ用井來レリ。サ
 レド、阿行ナルハ、單音ニテ、也、行、ナルハ、別ニ、其各行ノ發聲アル熟音ナ
 レバ、各、相異ナルベキ理アリト知ルベシ。(其證例ノ委シキコトハ、文典ニ讓レ
 リ)

又、今世口語ノ發音ニテハ、和行ノゐ、る、を、ハ、其發聲、默シテ、韻ノミ發シ、單音
 ノい、え、おニ異ナラズ。然レドモ、古ヘハ、明ニ其發音ヲ別テリ、サレバ、コソ、
 別ニ、其假名モアルナレ。

半母韻 然レドモ、也、行ノ音ノ發聲ハ、甚ダ單音ノいニ似テ、和行ノ音ノ發聲
 ハ、甚ダ單音ノウニ近ク、更ニコレニ母韻ヲ添ヘテ、二母韻相重ナリテ發スル
 モノノ如シ、サレバ、拗音ノきや、まゆ、ちよ、くわ等(下ニ詳ナリ)ノ韻トモナル。
 此故ニ、也、行、和行、ノ音ヲ、半母韻(Semi vowel)トモ名ヅク。

○鼻聲、促聲 五十音ノ外ニ、一ツノ聲アリ、ん(平假名)ン(片假名)ト、づ(平假名)ヅ(片
 假名)トナリ。んハ、鼻ヨリ出デテ、撥ヌルガ如キ聲ナレバ、鼻聲ト名ヅク、此聲、
 獨リ出デズ、必ズ、他ノ音ノ下ニ附キテ出ツ、ねん(懸ぬきん)づ(抽ぶん)てん
 (交典)ノ如シ。づハ、口ニ促マルガ如クシテ出ヅル聲ナレバ、促聲ト名ヅク、此
 聲モ、獨リ發スルコト能ハズ、必ズ、他ノ二音ノ間ニ挟マリテ發ス、もづ(も)も(最
 うづたへ)誦(も)つたし(全)ノ如シ。此づ、づ、ハ、多行ノ音ノつ、ッ、ト、形相似タレ

ト相對セシメテ「か、く、こ」が「か、こ」又ハ「さ、ず、ぞ」等ノ音ヲ直音ト稱ス。其他ハ準ヘテ知ルベシ。拗音ハ、發聲ト半母韻ト相合シテ成ル、而シテ、其各行ノ發聲ハ、其直音ノ發聲ニ同ジ。此音ハ、二字相連チテ寫スガ故ニ、書記ノ上ニテ、動モスレバ、直音ノ二字ナルト、紛ヒ易シ、因テ、字間ノ右旁ニ、小線ヲ付シテ別ツ、いしや、石屋い、志や、醫者ノ如シ。

○以上、鼻聲、促聲、濁音、拗音、ノ事ニ就キテハ、古今ニ變アリ、中外ノ音ニ異ナル所アリ、且、假名ノ成形等ニ至リテモ、大ニ辨ズベキ事アレド、辭書ニ用無クレバ、スベテ略セリ。

○轉呼音 假名ヲ其本分ノ音ニ呼バズシテ、他ノ音ニ轉呼スルコトアリ、コレヲ轉呼音トス。

○ばノ假名ヲ記シテ、わノ如ク轉ジテ呼ブコトアリ。又、ひ、ふ、へ、ほヲ記シテ、い、う、え、おノ如ク呼ブコトアリ、是ハ、發聲、默シテ、母韻ノミ發スルナリ。此轉呼音ハ、他ノ音ノ後ニアリテ發ス、開口ニ發スルコトナシ。

- いば(器)
- いひ(飯)
- いひ(飯)
- くふ(食)
- うへ(上)
- かほ(顔)

- くば(藥)
- あはし(透)
- かはる(變)
- かひ(頁)
- あたひ(價)
- たひら(平)
- すふ(吸)
- ゆふ(夕)
- あやふし(危)
- かへる(歸)
- おほし(多)
- はへ(屨)
- かなへ(懸)
- かへる(歸)
- おほし(多)
- まほ(藥)

○阿、段ノ音、衣、段ノ音ハ、清、濁、共ニ下ニ、う、又ハ、ふ(轉呼音ノ)ヲ承クレバ、於、段ノ音ノ如ク轉呼スルコトアリ、是ハ、發聲ヲ存シテ、母韻ヲ變フルナリ。此轉呼音、開口ニモ發シ、他ノ音ノ後ニテモ發ス。左ノ如シ。

- あうむ(鷓鴣)
- かう(音)
- さうし(草紙)
- たうけ(陸)
- なう(腦)
- あふみ(近江)
- さかふ(逆)
- よふらふ(候)
- たふとし(實)
- そなふ(備)
- えう(櫻)
- けうし(教師)
- せうと(兄弟)
- てうづ(手水)
- ねう(ち(鏡鏡))
- えふ(藥)
- けふ(今日)
- せふ(羨)
- てふ(ト云)
- みやう(明)
- めうが(藥荷)

やうか(八日)
 らう(半)
 とらふ(捕)
 りやう(雨)
 わう(王)
 むらう(光)
 れうり(料理)
 うれふ(愛)
 むら(醉)

○其委々キコトハ文典ニ譲ル尙後ノ索引指南ノ條ヲ見ヨ。

連聲 又、む、及、び、つ(音便ニテ促聲ト爲リ)ぬ(音便ニテ鼻聲ト爲リ)ノ音ハ、其發聲チ、下ニ來レル他ノ母韻、又ハ、半母韻、ト合ハセテ、轉呼セシムルコトアリ、コレヲ連聲トイフ。

さむゑ(三位) おむやう(陰陽師)
 ほつゝ(發意) けつゝ(麻陰) けつゝ(關係) せつゝ(舌音)
 ぜんあく(善惡) ぜんあく(銀杏) えんゝん(延引) うんゝん(云云)
 いんゝん(因縁) まんゝん(萬葉) くわんゝん(觀音) さんゝん(算用)
 けんゝん(元和) まんゝん(親王) さんゝん(輪廻) あんゝん(安穩)

又、き、く、ノ音チ、促聲ノ如ク轉呼スルコトアリ、亦、連聲ナリ。

せきけう(石橋) せきかう(石菴) せきあく(石斛)
 ぱくか(薄荷) かくけ(脚氣) かくかう(學校) にくけ(肉桂)

○轉呼音ハ、元ト、一種ノ音便ナルベケレド、書ニ筆スル上ニテ、音便ハ、音ヲ變フンバ字ヲモ變フルニイヒ、轉呼音ハ、音ヲ變フルド字ヲ變ヘヌニイフ、是レ、相異ナル所ナリ。

○右ノ外ニ、通音通韻ノ事、音便ニ、聲音ノ延、約、略、加、轉、等ノ事アリ。然レドモ、是等ハ、音ヲ變フルバ字ヲモ變ヘテ記スモノニテ、各一個ノ語ト見做スベク、即チ辭書ニハ、各自ニ掲ゲ出スモノナルニ、今、其理由ノミ説カムモ、不用ナルベシ、因テ、爰ニハ略セリ。

○漢字ノ字形音韻等ノ事、一切不用ナレバ容セリ。

言語

此篇ニハ、八品詞ノ目ヲ、名詞、動詞、形容詞、助動詞、副詞、接續詞、天稱連波、感動詞、ト立テタリ。此他ニ接頭語(Pref.)、接尾語(Suff.)アリ、又國語ニ、一種特別ナル發語、枕詞アリ、次ヲ逐ヒテ説クベシ。

國語ノ代名詞、數詞ハ、文中ニアリテ、其位置用法、正ニ名詞ト異ナラザレバ、名詞ニ附屬スベキ

モノナリ。又國語ノ形容詞ハ、語尾ノ變化モアリ、法(Mood)モアリテ、文章ノ末ヲモ結ブコト、恰モ動詞ノ如ク、西洋ノ形容詞トハ、甚ダ異ナルモノナリト知ルベシ。又、助動詞モ、語尾ノ變化ヲモ法ヲモ具ヘテ、而シテ、其狀ノ動詞ノ如キアリ、形容詞ノ如キアリ、サレバ、固ヨリ、舊説ノ如ク、天爾遠波ノ中ニ混ゼシムヘキニアラズ、サレバトテ、コレヲ動詞ニ附屬セシメ難キコトモアリ、因テ獨立セシメタリ。分詞ハ、動詞ノ法ノ中ニアリ。洋語ノ前置詞トイフモノ、我ニアリテハ、多クハ名詞ノ後ニアリテ、位置正ニ相反セリ、即チ、名詞ノ後ニ付クヘキ同趣ノ語ト共ニ、天爾遠波ノ中ニアリ。國語ニ冠詞無シ。

洋語ニ、名詞ノ格(Case)トイフモノ、我が、の、よ、を、等ニ當ルガ如クナレドモ、我がが、の、よ、を、等ハ、同語ノ上ニモ、所用ノ場合ニ因リテ、種種ノ意義ヲ起シ、彼ノ謂ハ、ユル格ニ當ルモアリ、當ラヌモアリ、サレバ、が、の、よ、を、等ヲ取りテ、概シテ格ナリト定ムヘキニアラズ、故ニ、天爾遠波トテ、別ニ一門ニ立ツナリ。

又、我が名詞代名詞ニハ、洋語ニ謂ハ、ユル男女中ノ性(Gender)無シ。又、單複ノ數(Number)モ、種種ノ接頭語、接尾語、ナド添ヘ、或ハ、同語ヲ重ネナドシテ、其別ヲ示スコトナキニシモアラネド、各語ノ用法、區區ニシテ、サレバ、一定ノ通則ナク、又、區別セズシテモ、前後ノ文勢ニテ、單複ヲ意解シ、且、區別シテモ、コレニ應ズル動詞、形容詞等ニ、其影響ヲ及ボスコトナシ、故ニ特ニ説

クニトヲ要セズ。動詞、形容詞ニモ、性モ、數モ、(人稱 Person)モ、無ク。

〇一箇ノことば(Word)ニ、名詞、動詞、ナドイフ如ク、詞ノ字ヲ當ツルハ、妥當ナラズ、從來、體言用言、ナド呼ベル言ノ字、正ニ相當シ、サレド、今ハ、姑ク本文ノ如シ。

名詞(體言ノ一)

名詞ハ、有形無形ノ事物ノ名稱ヲイフ語ナリ。例ヘハ、日、月、牛、馬、聲、色、黒、白、禍、福、憂、樂等ノ如シ。其中ニ、人名、地名、其他、一事一物ニ限レル名稱ヲバ、個有名詞ト名ツク、賴朝、義經、池月、磨墨、髭切、膝丸、武藏、相模、富士、利根等ノ如シ。コレニ對シテ、固有ナラヌ其他ノ一切ノ名詞ヲ普通名詞トイフ。

○普通、固有ノ別、英語ノ如キハ、書記ノ上ニ、頃字ヲ用井ルト、用井ザルト、ナドノ定メアレド、國語ニテハ、サル事モ無シ。但シ辭書ノ採集ニ區別シ、又、地名、姓氏等ニ、松林、遠山ナドノ普通ト紛レ易キモノナドモアレバ、注意シテハアルベキナリ。

○國語ノ名詞ニハ、洋語ノ如キ男、女、中ノ性モ無ク、單複數ノ別ニモ、一定ノ則無ク、又名詞ノトイフ、モノノ意義モ、別ニ天爾遠波アリテ、其語ニ存スレバ、本文ノ外ニハ、別ニ説クベキ事モ

ナシ。但シ熟語トナルトキ、希ニ其語尾或ハ全體ヲ變ズル者アリ、たけむら(竹藪)ノたかむらトナリ、ふねばた(舟端)ノふなばたトナリ、きかけ(樹陰)ノこかけトナルガ如シ然レドモ、斯ク變ズル語甚ダ少キノミナラズ、其變ズベキ語モ、アラユル場合、皆變ズルニアラズ、慣用スル所ニ定マリアリテ、一般ノ通則ナラズ、而シテ、其變化シ、慣用スルホドノモノハ、皆一熟語トシテ辭書ニ擧ゲタリ、サレバ、今ハ、別ニ説カズ。

○代名詞 代名詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ名ニ代ヘテ、其レヲ指シテイフ語ナリ。例ヘバ、人、事、物、地位、方向、等ノ、各其名アルニ代ヘテ、「我」「汝」「是」レ夫レ「此處」「彼方」ナドイフガ如シ。

○人ニ就キテ用井ル代名詞ヲ、人代名詞トイフ。而シテ、其稱スル人ノ位置ニ因リテ、別ヲ起ス、コレヲ人稱トイフ。其人稱ノ第一ナルヲ自稱トス、話ス人、自ラ、己ガ名ニ代ヘテ用井ルモノナリ、即チ「我」「行カム」ノ我ノ如シ。第二ナルヲ對稱トス、我ト相對シ我ガ話シ掛グル人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、即チ「我」「汝」ト俱ニ行カムノ汝ノ如シ。第三ナルヲ他稱トス、二人ノ間ニ話シ出ス他ノ人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、即チ「我」「汝」ト俱ニ「彼」ヲ訪ハムノ彼

ノ如シ。又、別ニ、不定稱アリ、他稱ノ中ニテ、其レト定メヌ人、又ハ、其名ヲ知ラヌ人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、即チ「誰」ヲカ訪ハム「誰」ニカアラムノ誰ノ如シ。

自稱	對稱	他稱	不定稱
われ	なむぢ	かれ あれ	たれ (たれ)

人代名詞ノ尋常ナルモノハ、右ノ如シ。此外ニモ、古今、雅俗、尊卑ニ用井分クルモノ、尙甚ダ多シ。左ニ、其中ノ若干ヲ擧グ。

(自稱) 吾(吾ガ妻) 吾(吾ガ君) 吾(妹とあれどいるこの山) 醫、朕、妾、僕、己、
某、余、身、ナド。

(對稱) 汝(汝ガ待ツ君) 汝(なれをしどあはれと思ふ) 汝、汝、吾主、御身、御事、
吾殿、御邊、君、其許、ナド。

(他稱) 彼(彼ハ誰) そやつ、かやつ、あやつ、ナド。

(不定稱) 誰(誰ガ、誰ソ)、某(某ナニガ、何某ナド)。

右ノ外、漢文、書狀文、口語ノ上ナドニハ、尙多シ、委シクハ文典ニ譲レリ。

○事物、地位、方向等ニ就キテ用非ル代名詞ニハ、近稱、中稱、遠稱、不定稱ノ別アリ。近稱ハ、最モ近キニイフ、是、此處、此方、ノ如シ。中稱ハ、稍、離レタルニイフ、其、其處、其方、ノ如シ。遠稱ハ、遠キニイフ、彼、彼處、彼方、ノ如シ。不定稱ハ、其レト定メヌ、又ハ、知ラヌニイフ、何、何處、ノ如シ。

	近稱	中稱	遠稱	不定稱
事物	あれ、み	それ、そ	あれ、あ、かれ、か	いづれ、なに、いづれ、なに
地位	あなた	あなた	あなた、あなた、あなた	いづかた、いづかた
方向	あち	そち	あち	いづち、いづち

○凡ソ、代名詞ハ、名詞ノ地位ニ代リテ立ツモノナルニ、み、そ、あ、か等ヲ、天爾

遠波ノト連テテ用非ルキニハ、別ニ一種ノ意義ヲ起シ、其名詞ニハ代ハラズシテ、其名詞ノ上ニ立チテ、唯、其名詞ヲ指シ示スコトアリ、コレヲ指示代名詞(Demonstrative)トイフ。例ヘバ、常ノ代名詞ナレバ、「人ハ」花ヲ「ナド」ノ「人」花ニ代ハリテ「是ハ」其「下」ナルニ、指示代名詞ハ、其「人」花ヲ存シテ、更ニ其上ニ立チ、「此ノ人ハ」其ノ花ヲ「下」其「人」花ヲ指シ示ス意ヲナス、而シテ、是レニモ、近稱、中稱、遠稱、不定稱、ノ別アリ。

	近稱	中稱	遠稱	不定稱
もの	その	あの	あのかの	いづれの

○數詞 數詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ數ヲイフ語ナリ、其用法、文中ニアリテ、正ニ名詞ニ同ジ。

- ひとり ふたつ みつ よつ 五つつ むつ
- ななつ やつ はみのつ とを はたち みそぢ

(不定稱) 誰(誰ガ、誰ソ)、某(某ナリ、某ナド)。

右ノ外、漢文、書狀文、口語ノ上ナドニハ、尙多シ、委シクハ文典ニ譲レリ。

○事物、地位、方向等ニ就キテ用非ル代名詞ニハ、近稱、中稱、遠稱、不定稱ノ別アリ。近稱ハ、最モ近キニイフ、是、此處、此方、ノ如シ。中稱ハ、稍、離レタルニイフ、其、其處、其方、ノ如シ。遠稱ハ、遠キニイフ、彼、彼處、彼方、ノ如シ。不定稱ハ、其レト定メヌ、又ハ、知ラヌニイフ、何、何處、ノ如シ。

	近稱	中稱	遠稱	不定稱
事物	みれ	それ	あれ	いづれ
地位	み	そ	あ	なに
方向	みなた	そなた	あなた	いづれ
	みち	そち	あち	いづち

○凡ソ、代名詞ハ、名詞ノ地位ニ代リテ立ツモノナルニ、み、そ、あ、か等ヲ、天爾

遠波ノト連テ用非ルヤニハ、別ニ一種ノ意義ヲ起シ、其名詞ニハ代ハラズシテ、其名詞ノ上ニ立チテ、唯、其名詞ヲ指シ示スコトアリ、コレヲ指示代名詞(Demonstrative)トイフ。例ヘバ、常ノ代名詞ナレバ、「人ハ」花ヲ「ナド」ノ「人」花ニ代ハリテ、「是ハ」其ヲ「下ナルニ、指示代名詞ハ、其「人」花」ヲ存シテ、更ニ其上ニ立チ、「此ノ人ハ」其ノ花ヲ「下、其「人」花」ヲ指シ示ス意ヲナス、而シテ、是レニモ、近稱、中稱、遠稱、不定稱、ノ別アリ。

	近稱	中稱	遠稱	不定稱
もの	その	あの	いづれの	

○數詞 數詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ數ヲイフ語ナリ、其用法、文中ニアリテ、正ニ名詞ニ同ジ。

- ひとり ふたり みつ よつ 五つ むつ
- ななり やつ 六つ 七つ 八つ ちつ
- ななり やつ 六つ 七つ 八つ ちつ
- ななり やつ 六つ 七つ 八つ ちつ

詞動則規

(格正)

詞動則規不

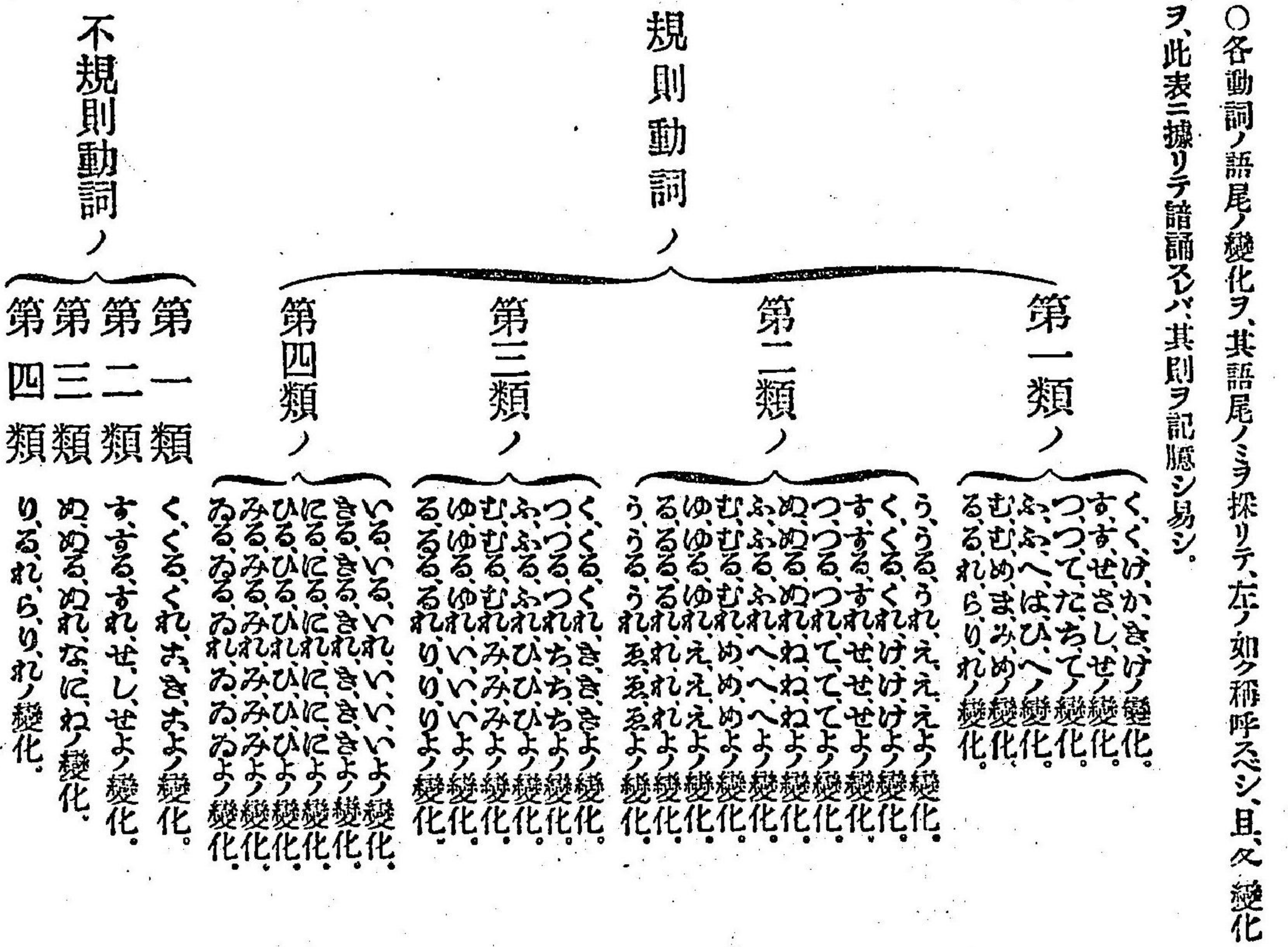
(格變)

類四第 (用活段一)		類三第 (用活段二中)		類二第 (格變行左)		類一第 (格變行加)	
(一) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(二) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(三) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(四) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(五) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(六) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(七) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(八) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(九) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十一) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十二) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十三) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十四) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十五) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十六) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十七) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十八) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(十九) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる
(二十) 居(ゐる)	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる	ゐる

○欄上三四段活用(下二段活用)下二横記シ、又欄右ノ直説法、分詞法ノ下三截斷終止連體下下括弧内ニ記シタルハ、スレテ舊稱トテ對照ナリ。○文ニ様掛リ結ビ事ハ、文章論ニ屬スキトシテ、動詞ノ處ニテハ、説カサルナリ、故ニ表中ニ其記載ナシ。
 ○此表ハ、從來用言活用圖トテテラテトハ、名稱次第甚ダ異テ所アリ。又舊圖ニハ、各變化ニ連續スキ助動詞、天爾遠波ヲ、一々各欄内ニ分載セテ、此圖ニ除ケリ。是等事ハ、委シク此動詞ノ條ニ未辨シテナリ。

第一表ノ説明

○前表中、規則動詞ノ各類中ニ、又各數種アル、(一)(二)(三)等ヲ標テ知ルシ、而シテ、其各種ノ處ニ舉ゲタル動詞ハ、其同種中ニ一語ヲ採リテ、例トシテ舉ゲタル事ト知ルシ。例ハ、規則第一類ノ(一)ノゆゑ、其語尾、く、け、かき、けトナル、是レト同ジシ、おどろく、驚はく、吐きく、吐く、吐く、吹等、枚舉スベカラズ、是等ノ語尾、皆、く、け、かき、けトナル。又(二)ノおどろく、吐きく、吐く、吹等、枚舉スベカラズ、是等ノ語尾、皆、く、け、かき、けトナル。又(三)ノおどろく、吐きく、吐く、吹等、枚舉スベカラズ、是等ノ語尾、皆、く、け、かき、けトナル。以下、第二類、第三類、第四類ニ亘リテ、皆、此定ナリト知ルシ。
 ○不規則動詞ハ、アラユル動詞中ニ就キテ、僅ニ九語アルニシテ、表中ニハ、ソノ限リヲ舉ゲタリ。サレバ、規則動詞ノ方ノ、各種中ニ二語ツツ抽キテ舉ゲタルトハ、異ナル所アリト知ルシ。
 ○表中、各變化ノ中ニ、往往、同形ヲ重出セルアリ。然レドモ、是等ハ、形ハ同ジケレド、其意義ハ異ナル事ナリ、其異ナル所以ハ、同ジ段ノ他類ノ變化ニ照シテ見バ、其形ヲ異ニスル事アルニテ知ルシ、且、他ノ助動詞、天爾遠波等ニ連續スル通則ニ至リテモ、各異ナル所アリ。尙、後ノ助動詞、其他ノ條ニ説クシ。
 ○表ノ第五ノ段ニ、折説法、熟語法、名詞法ノ三法ヲ併セテ、常アルトナリタルハ、表ノ方ニ省略シタル所アルニ起レリ、正シクハ、表ニ三ノ段ヲ増シテ、全表ヲ八段トシ、段毎ニ二法ツツ當ベキナリ。然レドモ、今ハ、表ノ面ノ裏トナラヌヲ恐レ、又、語尾ノ變化ヲ暗記セシメ、三長クテラマテ、簡ニ從ヒテ、略キテ三法ヲ一處ニ當アルトセリ、且、其變化ノ形、規則ノ八類ニ亘リテ、三法、共各同ジシモノナリ。



動詞ノ活用ニ関スルハ、其ノ動詞ノ種類ニ依リテ、其ノ活用ノ法ニ異ナリ。其ノ大要ヲ述ベルニ、動詞ノ種類ハ、自動詞ト他動詞トニ分ケル。自動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トセズ。他動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トス。又、動詞ノ活用ノ法ハ、其ノ動詞ノ種類ニ依リテ、其ノ活用ノ法ニ異ナリ。其ノ大要ヲ述ベルニ、動詞ノ種類ハ、自動詞ト他動詞トニ分ケル。自動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トセズ。他動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トス。

第一節ノ動詞ノ活用ノ法ハ、其ノ動詞ノ種類ニ依リテ、其ノ活用ノ法ニ異ナリ。其ノ大要ヲ述ベルニ、動詞ノ種類ハ、自動詞ト他動詞トニ分ケル。自動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トセズ。他動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トス。又、動詞ノ活用ノ法ハ、其ノ動詞ノ種類ニ依リテ、其ノ活用ノ法ニ異ナリ。其ノ大要ヲ述ベルニ、動詞ノ種類ハ、自動詞ト他動詞トニ分ケル。自動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トセズ。他動詞ハ、其ノ動作ノ主トシテ、他ノ事物ヲ必要トス。

動詞ノ種類	自動詞	他動詞	自動詞	他動詞	自動詞	他動詞
活用ノ法	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ
例	飛ぶ	飛ぶ	飛ぶ	飛ぶ	飛ぶ	飛ぶ

動詞(用言作用言活語)

動詞ハ、名詞ノ後ニ附キテ、其動作ヲイフ語ナリ。例ヘバ、「花飛ぶ」「蝶驚く」「春去る」「夏来る」「飛ぶ」「驚く」「去る」「来る」「花」「蝶」「春」「夏」ノ動作ヲイフガ如シ。又希ニ、現象ヲイフモノアリ。例ヘバ、「此ニ人あり」「志其父ニ似る」「あり」「下」「似る」「下」「人」「下」「志」「下」ノ現象ヲイフガ如シ。

○動詞ノ性 アラユル動詞ヲ、其性質ニテ別チテ、自動性ト他動性ト、ノ二種トス。

自動性 自ラ動作シテ、他ノ事物ヲ處分スルコトナキ意ノモノヲ、自動性トス。例ヘバ、「花飛ぶ」「蝶驚く」「飛ぶ」「驚く」ノ如シ。其動作、ソノママニテ通ズ。

自動性ノ動詞ヲ略シテハ、自動詞トモイフ。

他動性 動作ノ他ノ事物ヲ處分スル意アルモノヲ、他動性トス。例ヘバ、「蠶ハ、絲ヲ吐く」「蜂ハ、蜜ヲ釀す」ノ吐く「釀す」ノ如シ。コレヲ、唯「蠶ハ吐く」「蜂

ハ、醸す「ト」ノミイヒテハ、其意未ダ全ク通ゼズ、必ズ「何を」「ト」間ハルベシ、然ルトキハ、其處分ズベキモノヲ擧ゲテ「絲を」或ハ「蜜を」ト答ヘズハアルベカラズ、而シテ後ニ、其意ヲ全ウス。他動性ノ動詞ヲ、他動詞トモイフ。

○國語ノ動詞ニハ、自動ノ上ニモ完了語(Complement)ヲ要スルアリ、(父に似る馬に乘る、ノ類)他動ノ上ニモ完了語、一ツニテ足ルアリ、(絲を吐く、蜜を醸す、ノ類)一ツヲ要スルアリ、(志を父に似す物を馬に載す、ノ類)自他ニ、各單複ノ別アリ。然レモ、是等ノ解、辭書ニ用ナク、レバ、略セリ、詳ナルハ、文典ニ譲ル。

○語根、語尾、變化 動詞ハ、其動作ノ意ヲ、數様ニ現ハサムトシ、又ハ、他ノ語ニ連續セムトスルガ爲ニ、其語ノ末ヲ變フ。例ヘバ、

ゆ_ク行 　ゆ_け 　ゆ_か 　ゆ_き
ま_かす_仕 　ま_かする 　ま_かす_れ 　ま_かせ

此ノゆ、又ハ、ま_か、ノ如ク、變ハラザル部ヲ、語根(Root)トイヒ、く_け、か_き、又ハ、す_{する}、す_れ、せ、ノ如ク、變ハル部ヲ、語尾トイヒ、而シテ、其變ハルヲ、變

化トイフ。又、一音ノ動詞ハ、其全體ヲ變フ。例ヘバ、

う_得 　え 　ふ_歴 　へ
く_來 　き 　す_爲 　せ 　し

○規則動詞、不規則動詞 アラユル動詞ノ變化ノ狀、亦、種種ナリ。其狀ノ異同ヲ類別スレバ、八類トナル。其中ノ四類ニハ、所屬ノ動詞多クシテ、他ノ四類ニハ、甚ダ少シ。其多キ方ニ屬スルヲ、規則動詞ト名ツケ、少キ方ニ屬スルヲ、不規則動詞ト名ツク。其別、左ノ如シ。

- 規則動詞
- 第一類 六種
 - 第二類 十種
 - 第三類 六種
 - 第四類 六種
- 不規則動詞
- 第一類 一種
 - 第二類 一種
 - 第三類 一種
 - 第四類 一種

○規則第一類 此類ノ變化ニ屬スルモノハ、表ニ示セルガ如ク、六種ニ限ル。

此各種ノ動詞ハ、其語尾ノ變化ヲノミ唱フレバ、「く、け、か、き、け、す、せ、さ、し、せ」つ、つて、た、ち、て」ナドトナリテ、其變化ノ語路、口調、相似タレバ、同類トス。以下、第二、三、四類ノ各種モ、スベテ、此規定ニテ、其語尾ノ變化ノ口調ノ相似タルニ因テ、類聚シタルモノナリ。而シテ、表ニ擧ゲタル動詞ハ、其各種中ノモノナ、一語ツツ擧ゲタルナリ。又、アラユル動詞ノ中ニテ、此第一類變化ニ屬スルモノ、最モ多シ、因テ、之ヲ第一トス。

規則第二類 此類ノ變化ニ、十種アリテ、其狀ハ、「う、うる、うれ、え、えよ、て、くる、くれ、け、けよ、す、する、すれ、せ、せよ」ナドト、其口調ヲ同ジウス。此變化ニ入ル動詞ハ、第一類ニ次ギテ多シ、因テ、コレヲ第二トス。

規則第三類 此類ノ變化ハ、六種ニ限ル。其變化ノ狀、上半ニテハ、「く、くる、くれ、つ、つる、つれ」ナドトナリテ、第二類ト相同ジケレド、下半ハ、「い、いノ韻ニテ、「き、きよ、ち、ちよ」ナドトナリテ、第二類ノえノ韻(け、けよ)「て、てよ」トナルト異ナリ。此類ノ變化ノ動詞、甚ダ多カラズ、故ニ、コレヲ第三トス。

ス。

規則第四類 此變化モ、六種ニ限ル。此變化ハ、下半ニテハ、「き、きよ、ひ、ひよ」ノ如ク、第三類ニ似タレド、上半ニテハ、「き、きよ、ま、まよ、ひ、ひよ」ナドトナリテ、相異ナリ。此類ノ變化ノ動詞ノ數、僅ニ十數語ニ出デズ、因テ、第四トス。

〇第四類變化ハ、元來、語數モ極メテ少キノミナラズ、他ノ助動詞(らむ、らじ、べしナド)ニ連續スルニモ、他類ト變則ナルコトアリ、或ハ、不規則動詞ニ入ルベキモノナラムカ、尙委シクハ、文典ニ載ル。

然レドモ、口語ニアリテハ、規則動詞第三類ノい、く、生、おつ、落、さふ、強等ナ、い、きる、おちる、まひる、ナドトスルガ、定マリナリ。關東、近畿ヲ初トシテ、全國六七分ハ然リ、次ノ變體モ同ジ。サテ、此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レリト覺シキあきる、應、かうじる、増長たい、ちる、退治たりる、足、ナドモアリ、是等ノ變化ハ、正ニ此第四類ノ變化ト同ジクシテ、其語モ、頗ル多シ。

變體 又規則動詞第二類ノウ、得、うく、受、まかす、任等ヲモ、口語ニテハ、える、うける、まかせる、トス。此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レルける、懸、いせる、摺、懸、はせる、(續)裂、はねる、(放)懸、もめる、(所)接、ナドモアリテ、其語亦多シ。此類ノ語尾ノ變化ハ、「ける、ける、けれ、け、けよ」「せる、せる、せれ、せ、せよ」「ねる、ねる、ねれ、ね、ねよ」「ナドトナリテ、其韻ニ「い」「え」「ト」ノ差ハアレド、其變化ノ狀態ハ、規則動詞ノ第四類ニ似タリ、因テ、其類ノ變體トス。

○不規則第一類 此變化ハ、唯、一種ニテ、且、く、來、トイフ動詞一語ニ限ル。其變化ハ、く、くる、くれ、さ、さよ、トナリテ、其狀、頗ル、規則動詞第二類ナル(一)ノ「く」(生)ニ似タレドモ、下半ノ「き、せ、せよ、ト」ハナラテ、さ、さよ、トナルガ、不規則ナルナリ。

不規則第二類 此類ノ變化モ、唯、一種ニテ、其語モ、す、(愈)おはす、(御)座ノ二語ニ限ル。此類ノ變化ハ、す、する、すれ、せ、し、せよ、トナリテ、規則動詞第二類ノ(三)ノ「まかす」(任)ニ似タレドモ、下半ハ「せ、し、せよ」ニテ、「せ、せ、せよ」「ナラヌガ

變ナリ。

不規則第三類 此變化モ、唯一種ニテ、亦、いぬ、(往)まぬ、(死)ノ二語ノミナリ。但シ、助動詞ノぬ、ユレニ同ジ) 此變化ノ狀ハ、上半、ぬ、ぬる、ぬれハ、規則動詞第二類ナル(五)ノかぬ(兼)ニ似タレド、下半ノな、は、ぬハ、第一類變化ノ口調ニ似タリ。又アラユル動詞中ニテ、六變化ヲ、殊體ニテ具備スルハ、此類ノ變化ニ限ル。

不規則第四類 此變化モ、亦一種ニテ、其語ハ、あり、(有)ざり、(居)はべり、(倦)いぢぞかり、(在)ノ四ニ限ル。(但シ、助動詞ノなり、たり、せり、けり、めり、ノ類、ユレニ同ジ) 此ノ類ノ語尾ノ變化ハ、甚ダ、規則第一類ノ(六)ノさる、(去)ニ似タレドモ、彼ハ「る、る、れ、らり、れ」「トナルニ、此ハ「り、る、れ、らり、れ」「ナルガ、異ナリ。且凡ソ、日本ノ動詞ハ、其本體、ウノ韻ニ終ハルチ通則トスルニ、此二類ノミハ、イノ韻ニ終ハルチ、殊ニ異ナリトス。

以上、不規則四類ノ動詞ハ、合セテ九語ナリ。アラユル動詞中ニテ、此不規則

類ニ入ルベキハ、僅ニ此ノ九語ニ限ルト知ルベシ。凡ソ、不規則動詞ハ、四類共ニ、其變化ノ狀規則動詞ト異ナルヲ、上ニ言ヘルガ如クナルノミナラズ、他ノ助動詞ト連續スル通則ニ至リテモ、皆、多少、規則動詞ト異ナル所アリ、尙後ノ助動詞ノ條ニ説クヲ見ヨ。又、不規則動詞ノ四類ノ順序ハ、五十音ノ順ニ依ル。

○動詞ノ法 動詞ノ變化ニ因リテ、語氣ニ種種ノ態度ヲ生ズ、コレヲ法トイフ。其法、七種アリ、即チ、

- (一) 直説法
- (二) 分詞法
- (三) 接續法
- (四) 折説法
- (五) 熟語法
- (六) 名詞法
- (七) 命令法 (第一表ト參照スベシ)

○此法ノ事ニ就キテハ、國語ト、洋語トノ間ニ、其趣ヲ異ニスルコトアリ、委シクハ、未ニ辨ズベシ。又、法トイフモノハ、語氣ノ態度ナレバ、法ト稱セムヨリハ、態ノ字ヲ當テテ、直説態、命令態、ナドトセバ、妥當ナラム。然レドモ、今ハ姑ク改メズ。又、從來截斷言、連續言ナドト、言ノ字ヲ當テタルモ、妥當ナラズ、此事モ、後ニ言フベシ。

今、左ニ、規則動詞ノ四類中ヨリ、各一語ヲ出シテ、七種ノ法ヲ説明カスベシ、他ハ之ニ準ヘテ知ルベシ。

(一) 直説法 動作ヲ、ソノママニ説キテ、文章ノ末ヲ結ブ法ニテ、コレヲ動詞ノ本體トス。例ヘバ、

書ヲ讀む。 事ヲ勤む。 花、落つ。 月ヲみる。

尋常ハ、此ノ第二變化ノ直説法ヲ以テ、文章ノ末ヲ結ブ。然ルニ、文中ニ、天爾

遠波ノぞ、なむ、や、か、ノ入ルキハ、第二變化ヲ直説法トシテ結ブ。例ヘバ、

書ヲぞ讀む。 事ヲぞ勤む。 花ぞ落つる。 月ヲぞみる。

書ヲなむ讀む。 事ヲなむ勤む。 花なむ落つる。 月ヲなむみる。

書ヲや讀む。 事ヲや勤む。 花や落つる。 月ヲやみる。

何ヲか讀む。 何ヲか勤む。 孰レか落つる。 何ヲかみる。

又、天爾遠波ノみそノ入ルトキハ、第三變化ヲ直説法トシテ結ブ。例ヘバ、

書ヲみそ讀め。 事ヲみそ勤むれ。 花みそ落つれ。 月ヲみそみれ。

右ノ如ク、ぞ、なむ、や、か、ヲ結ブニ、第二變化ヲ用井、あそヲ結ブニ、第三變化ヲ用井ル。諸ノ動詞、又ハ、形容詞、助動詞、スベテ然リ。

○右ノ三種ノ結法ノ事ハ、文章論ニテ委シク説クコトトシタリ、尙、文典ニ詳ニス。

(二) 分詞法 他ノ名詞ノ上ニ連ル法ニテ、即チ、動詞ノ、分レテ形容詞ノ形容法(後ニイフ)ノ如クナルモノナリ。例ヘバ、

己ガ讀む書。 我ガ勤むる事。 花落つる時。 月ヲみる人。

或ハ獨立ニモ用井テ、

讀む書。 勤むる人。 落つる花。 みる物。

此法ハ、其下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ、(Understood)直ニ名詞ノ如ク用井ルアリ。例ヘバ、

讀む事ト書ク、事トナ學ブ。 人ノ勤むる態ニ倣フ。

花ノ開ク(頃)ヨリ落つる(頃)マデ。 みる事ヲ好マズ。

(三) 接續法 此法ハ、豫想ノ語句ヲ設ケテ、他ノ主トスル語句ニ、接續附加セ

シムル時ニ起ルモノニテ、はヲ加フ。而シテ、其中ニ「已」ニ然ル「ニイフト」ト「將」ニ然ラムトスル「ニイフト」ノ別アリテ、コレヲ「將然」トイフ。(第一表ト參照スベシ)

已然

將然

多ク書ヲ讀めば、能ク、智識ヲ増ス。多ク書ヲ讀まば、能ク、智識ヲ増サム。

事ヲ勤むれば、功、成ル。 事ヲ勤めば、功、成ラム。

花、落つれば、實、生ズ。 花、落ちば、實、生セム。

月ヲみれば、物ヲ思フ。 月ヲみば、物ヲ思ハム。

此ノ「已然」ナルハ、意義、一轉シテ「讀ムニ」勤ムルニ」落ツルニ」見ルニ」ナドノ意ヲナスコトアリ、「善クみれば」誤ナリキ」ナドノ如シ。又「讀ムニ」因テ」勤ムルニ」因テ」落ツルニ」因テ」見ルニ」因テ」ノ意ヲナスコトアリ、「智ヲ増スハ」書ヲ讀めば」ナリ」ノ如シ。

(四) 折說法 此法ハ、文章ノ間ニアリテ、其意ヲ暫シ言止シ置キテ、其後ニ來

ル他ノ動詞ノ法ニ照應シテ、其意ヲ共ニスルモノナリ。例ヘバ、

書ヲ讀み、道ヲ學ブ。 事ヲ勤め、功ヲ成ス。

月ヲみ、且、古ヘテ懷フ。

コレヲ、句毎ニ分タバ、「書ヲ讀む、又道ヲ學ブ、事ヲ勤む、又功ヲ成ス」ナドト直説スベキヲ、姑ク「讀み、勤め」ト言止シテ、下ノ「學ブ」又ハ「成ス」ニ照應シテ、直説ノ意ヲ終フルモノナリ。

此法、又、數語、連用スルコトアリ、又、數語ヲ隔テテ照應スルコトアリ。例ヘバ、

書ヲ讀み、(讀む)又、事ヲ勤め、(勤む)又、理ヲ究め、(究む)而シテ、説ヲ立テ、(立つ)而シテ、(詳ニ)コレヲ文章ニ著シ、(著す)又、コレヲ印行シ、(印行す)且、弘ク、コレヲ世ニ示す。

其他、尙、種種ニシテ、凡テ、其下ニ來ル語ト意ヲ共ニス。事ヲ勤め、(たる)功ヲ成シ、(たる)能ク其名ヲ揚げたる人。夙ニ起き、(て)夜ニ寐ぬて、財ニ富み、(たれば)且、學ニ長けたれば、

○此法舊説ニテハ、連用言トシテ、次ニ説ク熟語法ト混シタリ。サレド、勤め行フ、落ち入ル、ナド用井ル、勤め落ちト、我ハ勤め、彼ハ怠ル、花、落ち鳥啼ク、ナド用井ル、勤め落ちトハ、其用法、太ダ異ナリ、一ハ、全ク熟シテ一語ノ如クナレド、一ハ、各自ニ動作シテ、或ハ勤め、或ハ怠ル、此ハ落ち、彼ハ啼ク、ノ意トナレバナリ。又云、折説ノ字面ハ、直説法ニ對シテ付シタルモノナレド、未ダ此法ノ意ヲ盡サザルガ如シ、適當ナル語ヲ得バ改ムベシ。

(五) 熟語法 他語ト組立テテ、一熟語トスル時ノ法ナリ。例ヘバ、「落ツ」ト「入ル」トヲ組立ツルキ「落ツ入ル」トハナラデ「落ち入ル」トナルガ如シ。

他ノ動詞ト組立ツルモノハ、 他ノ動詞ト組立ツルモノハ、

讀み果ツ。 勤め爲ス。 落ち入ル。 み渡ス。

又、數語ヲ連ヌルアリ。 讀み聞せ奉ル。 飛び立ち去ル。 打ち連れ立ち給フ。

他ノ名詞ト合フモノハ、 讀み人。 勤め事。 落ち葉。 み物。

又、形容詞ト合フコトモアリ。

讀み憂シ。 勤め難シ。 落ち易シ。 み苦シ。

○此法ヲ從來連用言トイヘリ。他ノ用言動詞ニ連ル故ノ稱ナリ。然レドモ、讀み人落ち葉ノ如ク名詞ト連リテ熟語トナルモノモ、全ク是レナレバ、此ノ讀み落ち等ヲ、名詞ナリトイフハ、肯ハレズ、必ズ、用言ニ連ルトノミモ言ヒ難シ、因テ今ハ別名ヲ下セリ。

但シ、不規則動詞ノ第三類ナルオト、第四類ナルありトハ、他語ヲ冠シテ熟語トナルコトナシ、「釣りす」「狩りす」「喜びあり」「隔テあり」「ナドト連リテモ、其上ナルハ、名詞法ニテ、「釣りナす」「狩リナす」「喜ビノある」「隔テノある」ノ意トナル。

○隔テあり、分チあり、任ガセあり、ナドト、熟語法ニ用井ルハ、誤ナリ、尙、其辨ノ詳ナルコトハ、文典ニ譲ル。

(六) 名詞法 動詞ノ名詞トナル法ナリ。例ヘバ、

讀みヲ覺ユ。 勤めヲ怠ル。 落ちヲ拾フ。 花みニ行ク。

(七) 命令法 此法ハ、他ニ動作ヲ命ズルモノナリ。例ヘバ、

書ヲ讀め。 事ヲ勤めよ。 落ちよ。 みよ。

○此法ハ、變化ノ類ニ因リテ、よテ添フルアリ、添ヘヌアリ(讀め、ヲ、讀めよ、讀めや、ナドトモ用井ルコトアルハ、感動詞ノよ、や、ヲ添ヘタルナリ、又、讀みぬ、ナド添フルハ、助動詞ノぬ、命令法ナリ)、又、今ハ、添フレドモ、古ハ添ヘザリシモアリ(勤め、モロモロ、馬暫止め、早く手ニ居よ、見ニ來、吉ク爲、ナド)、委シクハ、文典ニ譲ル。

○洋語ノ動詞ニ Mood(姑ク英語ニテ配ス、下同)トイフモノ、即チ、此篇ニイフ動詞ノ法ナリ。然レドモ、彼我ノ語性ニ就キテ、頗ル其趣ヲ異ニスルコトアリ。又、洋語ノ動詞ニハ、Voice(口氣ト譯ス)Tense(時ト譯ス)トイフモノアルガ、我が動詞ニテハ、是等ノ意義ハ、他ノ助動詞ト連帶關係シテ始メテ起ルガ故ニ、今ハ、助動詞ノ條ニテ説クコトトセリ。左ニ是等ノ異同ヲ辨ゼ Mood. トイフ語ヲ、辭書ニ據リテ其意義ヲ求ムルニ、動詞ノ變化ニ因リテ生ズル語氣ノ態度ナリ、トアリ、一動詞ノ其語體ヲ變マテ成ルモノナリ。羅旬ノ動詞ニハ、直説法、可成法、(Potential) 接續法、命令法、不定法、名詞法、分詞法、等アリテ、其法ハ、スベテ、一動詞ノ語體ニ具備スルモノニテ、其語體ヲ變マテナドシテ、能ク衆法ヲ現ハシ、他ノ助動詞ナド添ヘテ成ルニアラズ。而シテ、右ノ諸法ノ中ニテ、直説法、接續法、命令法、名詞法、分詞法、等ハ、我カ動詞ニイフト、粗同ク、其ニ、語體ヲ變マテ成ル。然ルニ、其不定法トイフモ

ノハ、動詞ノ單行スル時ノ法ナルガ、我が動詞ニハ無シ、又、可成法トイフモノモ、事ヲ爲シ得ル
 意ヲイフ法ナルガ、亦、我が動詞ニハ無シ、但シ、助動詞ノる、らる、讀マる、勤メらる、ノ如シ、ヲ添
 フレバ、其意ニ充ツルコトヲ得ベシ。

西洋諸國ノ文法ハ、大率、羅甸ノ文法ニ倣ヒテ作りシモノナリト云フ。英國ノ動詞ニモ、羅甸ノ
 如ク、直說法、可成法、接續法、命令法、不定法、及ヒ、分詞法、名詞法、(此ニ法ハ、法トハセズシテ、單
 ニ分詞ト立ツルモノ、往往アリ)等ヲ立ツ。然ルニ其可成法ハ、動詞ノ體ノ變化ニハアラデ、動
 詞ノ前ニ、別ニ助動詞ヲ加ヘ、又、接續法モ、多クハ、動詞ノ前ニ、別ニ接續詞ヲ加ヘテ、其意義ヲ
 成サシメ、其可成、接續、ノ意義ハ、動詞ノ語體ニハ存セズシテ、添ヘタル助動詞、接續詞ノ方ニ存
 スルモノノ如シ、(我が接續法ノ末ノハ)モ、他語ヲ加フルニ似タレドモ、尙、前ニハアラデ、後ニ
 リテ語尾ヲ補フモノニテ、且、變化スルコトモ無シ、猶、命令法ノ末ノよ、ノ如シ)サレバ、英ノ動
 詞ニイヘル可成法、接續法ハ、其語體ニハ具ヘヌテ、他語ヲ加ヘテ、羅甸ノ法ニ擬シテ作爲セル
 ナリ、是等ハ、英ノ語學者ガ、無用ノ模擬トイフベク、既ニ、其國ノ學士中ニモ、コレヲ法ナラズト
 論ズルアリ、然ルニ、今日、洋文法ヲ以テ、國文法ヲ論ズルモノ、讀マる、勤メらる、等ヲ、可成
 法ト立ツルアリ、亦、右ノ謬見ヲ遺傳セルナリ。或云、英ノ助動詞ハ、動詞ト密着スルモノニテ、
 其前ニ居リ後ニ居ルヲ問ハズ、合シテ一語ト見ルベキナリト。今、姑ク、英ノ動詞ハ、或ハ然ラズ
 トストモ、我が助動詞ハ、大ニ異ナルモノニテ、變化アリ法アルコト、粗、動詞ニ同タク、例ハ、
 「勤メらる」トイヘバ、直說法トナリ、勤メらるる」トイヘバ、分詞法トナリ、勤メらるれば」トイヘ

バ、接續法トナル。サレバ、此ノるるヲ、助動詞ナラズトシテ、「勤メらる」ト密着セル、勤ム」ノ可
 成法ナリトセバ、其變化ノるる、らるれば、ヲバ如何ニカセム、法ニ法アリトイフコトヤアルヘ
 キ、扱、又、我が動詞ニハ、熟語法トイフモノアリテ、彼ニハ絶エテ無キガ如シ。凡ソ是等ノ事ハ、
 東西ノ語性ニ、天然ノ差異アリテ存スルモノタルコトヲ覺ルベシ。

Voice、ハ、口氣ト譯スベクシテ、辭書ニ據レバ、動詞ノ一種ノ變體ニシテ、以テ文主ト動詞ノ動
 作トノ關係ヲ指別セシムル別體ナリ、トアリ、此口氣ニ據レテ、能(Active)所相(Passive)
 トイヒ、羅甸語ニテハ、一動詞ノ語體ニ、此ノ二様ノ變ヲ具セリ。然ルニ、我が動詞ニテ、此ノ能
 所ヲ言ハバ、例ハ、バ、打ツ傳フ、能相タルハ、論ナケレドモ、其所相ヲ寫シ出サムトスレバ、別
 ニ、助動詞ノる、らる、亦、變化アリ、法アリ、ヲ添ヘテ、打タる傳へらる」ナドセズハアルベカラズ、
 而シテ、其能相ノ意義ハ、所相ニ對シテ生ズルモノナレバ、今ハ、助動詞ノる、らるノ條ニ至リテ
 説クコトトセリ、(英ノ動詞ニモ、所相ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ言フガ多シ)

Tense、ハ、時ト譯シテ、亦、動詞ノ動作ノ現在ナルト、過去ナルト、未來ナルト、ヲ示スニ就キテ起
 ル一種ノ轉化ニテ、是モ、羅甸ノ動詞ニテハ、其語體ニ、此ノ轉化ヲ具セリ。我が動詞ニテモ、打
 ツ傳フ、現在ナルハ、論ヲ待タザレド、過去ヲ寫シ出サムトスレバ、助動詞ヲ加ヘテ、打チたり
 傳へき」ノ如クシ、未來モ、助動詞ヲ加ヘテ、打タむ傳へむ」ナドトスルナリ、(此たり、き、む等、亦、
 皆、變化アリ、法アリ)因テ、是、亦、助動詞ノ條ニ説クコトトセリ、(英語ノ如キハ、過去ノ轉化ヲ、
 動詞ノ體ニ具スルアリ、或ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ示スモアリ、而シテ、未來ハ、率テ、前ニ助動詞

ヲ加フルガ如シ。
畢竟ズルニ、單ニ「打ツ」傳フトイフ語ヲ指セバ、一ノ助詞ト呼ブベキノミ。扱單ニ「打ツ」傳フトイフ語ナルガ所相ノ「扛」等ニ對スレバ、能相ノ名目ヲ生テ、過去未來ノ「打チ」等ニ對スレバ、現在ノ名目ヲ生ズルナリ。而シテ其所相トイヒ、過去未來トイフ意義ハ、スベテ助動詞ノ方ニ存スルコトナレバ、是等ノ事ハ、助詞ノ語體ノ轉化ニ生ズルモノトハ見ズシテ、他ノ助動詞ノ條ニ説カユトスルナリ。

○從來用言ノ活用ニ、四段、一段、中二段、下二段等ノ名稱アリ(第一表ノ欄上ニ記セルモノ)。其四段活用トイフハ、例ヘバ、ゆく(卷)トイフ用言ハ、其語尾、かき、く、けト活用シテ、五十音圖ニ照セバ、其圖ノ上ヨリ四段ノ諸音ニ當ルガ故ニ命名セルニテ、是レハ其理アリトセム。然ルニ、き(卷)ノ、き、る、き、れ、ト活用スルヲ、一段活用ト名ツケ、いく(卷)ノ語尾ノ、き、くる、くれ、ト活用スルヲ、中二段ト名ツケ、うく(卷)ノ語尾ノ、くる、くれ、け、ト活用スルヲ、下二段ト名ツケルナドハ、妥當ナラザルガ如シ。ソハ「き、又ハ、き、く、又ハ、く、け、」ノ音コソ、五十音圖ノ一段又ハ、中ノ二段又ハ、下ノ二段ナレ、其他ニ「き、る、き、れ、くる、くれ、ナドトアル」る、れ、ヲバ、如何ソ措キテ言ハザル。ソモ此ノ「る、れ、ハ、附屬物ノ如ク等閑ニ視ルベキモノナラザルベシ、凡ソ、用言ノ正格、變格、八種ノ活用ノ中ニテ、此ノ「る、れ、」ノ活用ナキモノハ、僅ニ、四段活用ト、真行四段二格ト、

ノ二種アルノミ、其他ノ六種ハ、皆、此ノ「る、れ、」ヲ以テ、要用ナル活用ヲ現ハシ、殊ニ、一段活用ニ至リテハ、此ノ「る、れ、」無クシテ、(古格ハ姑ク措キ第一ニ、用言ノ本體タル截斷言ヲ形作ルコトヲ得ズ、)「る、れ、」ナドト、概略ニ「掛リ、結ビ、」ヲ呼ブモ、用言ニ、此音ノ活用多キヲ知ルベシ。又、希求言ヲモ、活用ト見ルトキハ、よノ音ヲモ、活用中ニ加ヘザルヲ得ズ、(よ無クシテ、希求言ヲ成サザルモノモ、少カラズ、)此ノ如ク論ヲ、扱從來命名ノ趣意ヲ奉テ、正シク稱呼セムトセバ、加行一段活用ノ、き、る、き、れ、き、よ、ヲバ、加行一段、真行下二段、也行一段活用、ナドト呼ビ、真行下二段活用ノ、る、る、る、れ、れ、ヲバ、真行下二段、重複顛倒、及ビ、也行一段活用、ナドト呼バズバ、他ノ四段活用等ニ對シテ、其命名ノ鈞合ヲ失ハム、サレバトテ、斯ル冗長ナル名稱ハ、採ルベクモアラズ。此故ニ、今ハ、四段、一段、ナドイフ意味アル命名ニハ、從ハズシテ、單ニ第一類、第二類、第三類、第四類等ノ名ヲ命ゼリ。又、其順序モ舊圖ナルハ、四段活用、最モ五十音圖ノ順ニ適當スルガ如ク、且、其所屬ノ用言モ數多クシテ、之ヲ第一トシタルナルベク、而シテ、次下ハ、五十音順ニ據リテ次第セルナルベシ。然レドモ、今ハ、四段、一段、等ノ名稱ヲ用井ヌコトニモアレバ、其活用ニ所屬スル用言ノ多少ヲ以テ、順序ヲ改メ、四段活用ヲ第一類トシ、下二段活用ヲ第二類トシ、中二段活用ヲ第三類トシ、一段活用ヲ第四類トセリ。又、既ニ、正格活用ノ名稱ヲ改メタル上ハ、變格活用モ、舊稱ヲ存シ難クシテ、亦、第一、二、三、四類トセリ、但シ、其順序ハ、舊キニ從ヘリ。

從來ノ活用五階圖ハ、五十音圖ノ段ヲ標準トシテ、先ツ、四段活用、一段活用、等ノ名ヲ定メ、扱、其

活用ノ最モ博キ四段活用ノ音か、き、く、け等ヲ基本ト立テテ、他ノ活用ヲ、ヨシニ從ハシメテ、製セシモノナルベシ。サレバ、ゆか(行)ヲ基トシテ、他ノ(生)うけ(受)等ノ將然言トイフモノ、第一階ニ居ルナリ。然レドモ、凡ソ、用言ノ本體トイフモノハ、ゆく(行)い(生)う(受)ニテ、即チ截斷言トイフモノナレバ、先ツ、某ノ用言トテ、取出シテ記サムニハ、截斷言ヲ第一ニ置クベキ理ナラム。然ルニ、舊圖ニテハ、其本體タルベキモノ、第三階ニ居ルコトトナリテ、體裁宜シカラズ、是等モ、畢竟ズルニ、五十音順ヲ基トシ、四段活用等ノ目アルガ故ニ、之ニ從ハザルヲ得ザルニ起レルナリ。然レドモ、本篇既ニ、四段活用等ノ名稱ヲ用非ザレバ、今ハ、其順序ヲ改メテ、截斷言ヲ第一ニ置ケリ、而シテ、後ノ形狀言、助動詞等ノ表モ、皆之ニ倣ハシメタリ、殊ニ、活用ナキ助動詞ノなむ(願)じ(不)ノ如キハ、表ノ第一階ニ置キテ、下ヲ空白ニスル方、體裁好キヲ見ルナリ(舊圖ノ體ニ製スレバ、第三階ニアリテ、上下、空白トナル)且、又三種ノ掛リ、結ビ、ヲ説カムニモ、其活用ノ第三、第四、第五階ニアラムヨリハ、第一、第二、第三階ニアラム方、太ダ善アルベク、今ハ、連體言、已然言、トイフモノヲ、第二階、第三階ニ上ケテ、截斷言ニ次ガンメ、而シテ、第一階、第二階ニアリシ將然言、連體言トイフモノヲ、ソノママ、下ニ下ダタリ。又、希求言ハ、舊圖ニハ、略ケルガ多シ、然レドモ、其活用ノ體ノ異ナルモノモアルガ上ニ、奈行變格死(如)キ、甚ダ迷ヒ易キモノモアレバ、今ハ、下ニ一階ヲ加ヘテ載セタリ。而シテ、第四、五、六階ノ順序ニハ、理由ナシ、唯、上ヨリ讀下請語セムニ、口調語路ノ好カラムニ從ハリ。

又、從來五階ノ名稱ヲ、將然言、連體言、截斷言(又、終止言)連體言、已然言、トセリ。是等ノ名稱好カラズ、ニモアラズ、何、論ズベキコトアリ。先ツ、其本體ニ、用言トイフ名ヲ付シテ、又、其活用ニ、將然言、連體言、トイフ、言ノ字ヲ付スルハ、言中ニ言アルコトトナリテ、甚ダ初學ノ迷ヒテ惹キ易シ、本篇ニ用非タル法ノ字トテモ、適當ナリトハ言ヒ難ク、レド、(態)ノ字當ラムトイフコト

ハ前ニ説ケリ、尙迷ヒテ避クルニ足ラム。又、文ノ掛リ、結ビ、ノ如キモノ、その、や、ノ掛リハ、連體言ニテ結ビ、こそ、ノ掛リハ、已然言ニテ結ブ、ナドイフコトトナルモ、不都合ナリ、既ニ、連體トハ、他ノ體言ニ連ル語ナリト釋キテ、又、列の、や、ノ掛リヲ結ブ(截斷ス)トイヒ、已然ハ、過やトシテ、意ヲイフト釋キテ、又、こそ、ノ掛リヲ、現在ノ意ニテ結ブコトトモナル、體裁極マシ。又、第二階ハ、連體言トモナリ、體言トモナルニ、連體言ト定稱スルトキハ、差支ヘアルベシ。又、舊圖ニハ、各階ノ欄内ニ、助動詞、天爾遠波等ヲ、一一挿入シタレド、用言ノ活用ノミ説カム場合ニハ、甚ダ錯雜ヲ起ステ覺ニ、サルハ、將然言ノ下ニ、ゆか(行)ナドアリテハ、唯、ゆくとイフヲ現在ニ打消ス意ノモノナレバ、將然トイフ命名ニ違ヒ、截斷言ノ下ニ、ゆく(行)ナドアリテハ、連體言トモ連ル意トイフ意ニ合ハズ、連體ハ、體言ニ連ルトイフニ、ゆくなり(態)ナドアリテハ、助動詞ニモ連ル意トナリテ、初學ヲシテ、甚ダ惑ハシム。

右ノ如クナレハ、此篇ノ表ノ各階ニハ、一切意義アル名稱ヲ付セズ、階ノ名稱トシテハ、單ニ、第一變化、第二變化、第三、四、五、六變化、ト稱呼セシムルコトトセリ。而シテ、こそ、なむ、や、か、ノ掛リハ、第二變化ニテ結ビ、こそ、ノ掛リハ、第三變化ニテ結ブ、トヤウニ稱ヘシメムトス。又、各變化ト、助動詞等トノ、連續ノ則ニ至リテハ、下ニ、別表ニ掲ゲテ、唯、某助動詞ハ、動詞ノ第幾變化ニ連續ス、トノミ説キ、此場合ニハ、絶エテ動詞ノ變化ノ意義ヲ言ハズ。而シテ、直說法(截斷言)分詞法(連體言)ノ如キ意義アル稱呼ハ、階ノ稱呼ノ外ニ立テテ、其階ヲ、直ニ何法何言ナリトハ言ハズシテ、直說法ニハ、第一變化ヲ用非、接續法ノ已然ニハ、第二變化ヲ用非、將然ニハ、第四變化ヲ用非、或ハ、折說法ニハ、第五變化ヲ用非、熟語法ニモ第五變化ヲ用非ル、ナド稱ヘシムトスルナリ。

第二表 形容詞ノ語尾變化…法

類一第 (用活キック)	類二第 (用活キック)	語根	第一變化即本體	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
		(善)よ	よし	よき	よけれ	よく	よく
		(高)たか	たかし	たかき	たかけれ	たかく	たかく
		(遠)とほ	とほし	とほき	とほけれ	とほく	とほく
		(悪)あく	あくし	あくき	あくけれ	あくく	あくく
(樂)たのし	たのし	たのしき	たのしけれ	たのしく	たのしく		
(同)おふト	おふト	おふトき	おふトけれ	おふトく	おふトく		

熟語法 Compound form. 直説法 (終止) Indicative mood. 形容法 (連體) Adjective form. 已然 Subjunctive mood. (1) 將然 Imperfect. 折説法 Participle, present. 副詞法 (連用) Adverb.

○各欄内三語ヲ舉ゲタレド、各類三各三種アルニテ、唯同變化ノモノヲ三語ツ出シテマデナリ。
 ○欄上ノシキ活用シシキ活用、又欄右ノ終止、連體等、括弧内ノ名目ハ、舊稱ト對照ナリ、又表中ニ、同形ノ變化ノ重出セル事、又第五階ニ折説法、副詞法トテ併テ當テタル事等ヲ辨ハ、前ノ動詞ノ表第一表ノ裏面ノ説明ニ準ヘテ知ルベシ。
 ○舊圖ト位置、名稱ノ變ハシテ下モ、動詞ノ條ニ辨シタルニテ知ルベシ。
 ○第一類ノ變化ヲ形容詞ノしきノ變化ト稱スシ、第二類ヲ形容詞ノしきノ變化ト稱スシ(語路惡シケレバ、畧ニ從テ、僅ニ類ナレバ覺テ難カラズ)

例へば、とほし、遠みはし、強かるし、輕等ハ、第一類變化ナルニ、「とほどほし」
 おぼどほし」かるがるし、「トナシ」ハ、第三類變化トナルガ如シ。其他、いまら
 まし、急うやうやし、悉くたぐたし、煩わささし、男めめし、女ナド、疊ミタイフ
 語モ、率テ、然リ。

○おほきし、たといフ形容詞ハ、おほきき、おほきけれ、ト用非タルヲ見ズ、又、すむやけし、遊チ、
 すむやけけれ、ト用非タルヲ見ズ、トイフ、是等ハ、變化ノ關ケタル不成語ナルカ、或ハ、古書ニ、
 偶其用例ノ存セザルモノカ。又副詞、すまし(少)チ、すあしき、すあしく、ナドト、形容詞ノ如
 ク用非ルコトアルハ、誤用ナラム、サルハ、すあしチ直説法ニ用非タルヲ見ザレバナリ。(すあし
 けれ、トイフベクモアラズ) 其他、尙、委シキコトハ、文典ニ譲ル。

○法、形容詞ノ法ハ、動詞ノ法ト、大ニ似テ、少シ異ニシテ、分詞法、名詞法、命
 令法、無クシテ、別ニ、形容法、副詞法アリ。(但シ、形容法ハ、分詞法ト、粗同ジキ
 モノナリ) 卽チ、

- (一) 直説法
- (二) 形容法
- (三) 接續法

- (四) 折説法
- (五) 副詞法
- (六) 熟語法

左ニ、形容詞ノ法チ、大略ニ説カム。動詞ノ法ト同ジキハ、準ヘテ知ルベシ。

(一) 直説法 文章ノ末ヲ結フ法ニテ、コレヲ形容詞ノ本體トス。例へば、
 行ヒ、善シ。 名、高シ。 謗ルハ、惡シ。 見ルハ、樂シ。

尋常ニ直説法ハ、右ノ如シ。若シ、文中ニ、天爾遠波ノぞ、なむや、か、又ハ、おそ
 ノ入ル用ハ、第二變化、又ハ、第三變化ヲ用非ルコト、亦、動詞ノ如シ。例へば、

- 香ぞ好き。 聲ぞ高き。 謗ルぞ惡しき。 見ルぞ樂しき。
- 香なむ好き。 聲なむ高き。 謗ルなむ惡しき。 見ルなむ樂しき。
- 香や好き。 聲や高き。 謗ルや惡しき。 見ルや樂しき。
- 何レか好き。 何レか高き。 何レか惡しき。 何レか樂しき。
- 香みぞ好けれ。 聲みぞ高けれ。 謗ルみぞ惡しけれ。 見ルみぞ樂しけれ。

(二) 形容法 他ノ名詞ノ上ニ連ル法ナリ。例へば、
 色ノ好き花。 峯ノ高き山。 行ヒ、惡しき人。 心、樂しき時。

或ハ、獨立ニモ用井テ、

好よき色。 高たかき山。 惡わるしき心。 樂たのしき時。

又、下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ、直ニ、名詞ノ如クニモ用井ル。例ヘバ、

香かノ好よきヲ愛あいツ。 山やまノ高たかきニ登のぼル。

善よきト惡わるしきトヲ別わかツ。 樂たのしき、悲かなしき、様よう様ようナリ。

(三) 接續法 動詞ノ接續法ト全ク相同ジキモノニテ、亦、已然、將然ノ別アリ、其意味モ、相準ヘテ知ルベシ。例ヘバ、

已然 將然 已然 將然

善よければ、 善よくば、 惡わるしければ、 惡わるしくば、

高たかければ、 高たかくば、 樂たのしければ、 樂たのしくば、

其他ノ用法、率子、動詞ノ接續法ノ如シ。

(四) 折說法 文章ノ中間ニテ、其意ヲ言止シテ、下ノ語ニ照應スル、動詞ノ折說法ニ同ジ、相準ヘテ解スベシ。例ヘバ、

性質、善よく、品行、修しマル。 山、高たかく、海、深ふかシ。

惡わるし、且、賤いやシ。 樂たのしく、又、喜よろこバシ。

是、亦、句毎ニ言ハバ、性質、善よし。品行、修しマル。山高たかし。海、深ふかし。ナドイフベク、或ハ、「品行、修しマリ、性質、善よし。海、深ふかく、山、高たかし。」トモイフベキナリ。

數語、相連リ、又、數語ヲ隔テテ、他ノ種種ノ語ニ照應スルコアルモ、動詞ノ折說法ニ同ジ。例ヘバ、

心、善よく、善よじ、又、行いヒ、正ただしく、又、其功いそも、甚いたダ高たかし。

丈、高たかく、高たかき、又、骨、逞たくましき人。 幅、廣ひろく、廣ひろければ、又、丈、長ながければ、

○舊説ニテハ、此法並ニ、次ノ副詞法ヲ、共ニ連用言ト稱シテ、相別タズ。然レドモ、副詞法ハ、善よく修しマル、樂たのしく思おもフ、ナド、修しマル、思おもフ、ニ副ヒテ、其意ヲ言添フレドモ、折說法ハ、各自獨立ノ意ヲ言ヒテ、文句ヲ結バヌマデノモノナリ、混ズベキニアラズ。

(五) 副詞法 形容詞ノ、變ジテ副詞トナルモノナリ。(副詞ノ事、後ニ擧グ) 例ヘバ、

善く修マル。 高く昇ル。 悪しく變ル。 樂しく思フ。
甚しく寒シ。 全く無シ。 遠く遙ニ見ユ。 浅く平ニ流ル。

又、副詞法ハ、動詞ノありある、あれ、あらト連ナリテ、例ヘバ、「善くあり悪しくある」善くあれ「無くあらむ」ナド用非ラルルキ、ソノトトあト約リテ、「善かり悪しかる善かれ無かれ善からむ無からむ」ナドトナルコト常ナリ。

又、又、ソノ「善からむ」無からむ「ナド更ニ約マリテ善けむ無けむ」トモナリテ、一種異様ノ語尾ヲナシ、けめト變化セズ又「善からは善かれど」ナドモ、再ビ約リテ善けは善けどトモナル。但シ、此用法ハ、古ク、且稀ニシテ、形容詞一般ニ用非難シ。

(六) 熟語法 他語ト合シテ熟語トナル法ニテ、語根ヲ用非ル。然レモ形容詞中、此法ヲ成カザルモノモ多シ。左ニ其例ノ若干ヲ擧グ。

第一類變化ニテ、
吉詞。 長歌。 高山。 遠野。 淺瀬。

高光ル。 遠離ル。 近寄ル。 薄暗シ。 細長シ。

第二類變化ニテ、

惡し様。 同じ事。 嚴し鋒。 可憐し妹。 賢し女。
顯し身。 空し車。 空し烟。 長長し夜。 嬉し涙。

又、「無シ」ハ、第一類變化ナレバ、「神無月」「正無言」ナドト用非ルハ、尋常ナルニ、或ハ「友無し」「千鳥根無し」「言耳無し」「山」ナドトモ用非ルハ、特例ナリ。(又「空車」可憐事」ナドノ空、可憐、生得ノ接頭語ナルベク、第二類變化ノ語根ノしヲ去リテ用非タルニハアラザルベシ)

○ 語根 形容詞ノ語根ヲ稀ニ直説法ノ如ク用非ルコアリ。

アナ憂(シ)世ノ中。 アナ畏(シ)人ニ語ルナ。
アナ尊(シ) アナ憂(シ)ヤ。 アナ畏(シ)ヤ。

○ 又、語根ヲ稀ニ名詞ノ如ク用非ルコアリ。ソノ句ナルハ、句チ一團ノ語ト見ルナリ。(第一類天雨遠波ノの條見合ハスベシ)

面白ノ春ノ夜。アラ難有ノ御心。 怨シノ心。 口惜シノ事。
恥シノ事。 怪シノ法師。 アナ恐シノ事。 あさましの世ヤ。

又「無シ」ハ「味氣無」ノ世ノ中「暇無」ノ身「面無」ノ状ヤ「ナドトモ用井、又ハ「來ル
人無シ」ノ宿ノ庭御身モ甚クノ甲斐無シニテハ無ケレド「ナドトモ用井ルハ、
異ナリ。

○又、語根ニ「トイフ」接尾語ヲ添ヘテ、文ノ末ヲ結ブコアリ。但シ、第一類天
爾遠波ノ「ガ」ノ下ニ限ル。

音ノ清亮。 人の無情。 聞クガ悲シ。 言フガ侘シ。

逢ヒタルコノ嬉シ。 拾テラレムコノあまじ。

○又、語根ニ「ミトイフ」接尾語ヲ添ヘテ、副詞ノ如ク用井ルコアリ。

苦チ粗み、我が衣手ニ露ニ濡レツ。 瀬チ速み、岩ニ塞カルル瀧川ノ。
名ヲ睦し。 君チやさし。 月清み。 山高み。

其意ハ、「苦粗キガ故ニ濡ル」瀧速キガ故ニ塞カル」ナドナリ。「苦を瀧を、等ノ
をハ感動詞ナリ」但シ、此用法ハ、和歌ノ上ニ多シ。

○從來ノ語學書ニハ多クハ、形状言ノ「深み」「高み」「重み」「善み」「悪み」名詞トナルモノ
ナドノみ「け」ニテ形状言ノ活用ナリトシテ説ケルガ多シ。 サレド、是等ハ、一種ノ接尾語ノ形
狀言ノ語根ニ添ハリテ體言トナルニテ活用ニハアラズ。 サレバ形状言ニハ限ラデ、有り「け」
物思ヒ「け」思ハズ「け」或ハ、逢フニ「離ル」ニ行クニ「來ル」ニ入ルニ「ナド」作用言ニモ付
ケリ是等ヲモ活用ナリトハイハルマデ。 「け」ハ氣ナリ、ハ「狀ナリ」みモ「狀」トイフ語ナリ。 又
「降り」み「降ラズ」み「降ミ」み「降マズ」み「ナド」用井ルみハ、試ル「トイフ」作用言ノ活用ナリ、混スベキ
ニアラズ。

○英語ノ Adjective、ハ大抵名詞ニ冠ラセテ、其形状性質ヲイヘリ。 我が形容詞モ名詞ノ形状
性質等ヲイフハ、相同クケレドモ、語ノ成立ニ至リテハ、甚ダ相異ナリテ、語尾ニ、變化アリ、法ア
ルコト、動詞ノ如クニシテ、且、常ニ、名詞ノ後ニ居テ、文ノ末ヲモ結ベリ。 羅旬、佛、獨等ノ形容詞
ニハ、變化アリ、且、或ハ名詞ノ後ニ用井ルモアリ、然レドモ、共ニ、文ノ末ヲ結ブコトハ無キガ如

第三表 助動詞ノ變化法

此表中ノ變化法并ニ法ノ名目ノ事、其他、大體、ステ、前ノ第一表、助動詞ノ語尾變化表、第二表、形容詞ノ語尾變化表、三圖、シト、知ルベシ。

直説法(終) 分詞法(連) 已然 將然 折説法(連) 命令法(終)

助動詞ニハ、熟語法、名詞法、ヲ成サセ、多クハ、省ケリ、希ニアルハ、本文ニ説ケリ。

使役	受身	能力	指定	打消	過去	未來	推量	詠歎	希望
1 あむ	あむる	あむる	あむれむ	あむむ	あむり	あむらむ	あむらむ	あむらむ	あむらむ
2 すす	すすむ	すすむ	すすむ	すすむ	すすり	すすらむ	すすらむ	すすらむ	すすらむ
3 すす	すすむ	すすむ	すすむ	すすむ	すすり	すすらむ	すすらむ	すすらむ	すすらむ
4 る	る	る	る	る	り	らむ	らむ	らむ	らむ
5 る	る	る	る	る	り	らむ	らむ	らむ	らむ
6 る	る	る	る	る	り	らむ	らむ	らむ	らむ
7 る	る	る	る	る	り	らむ	らむ	らむ	らむ
8 なる	なる	なる	なる	なる	なり	ならむ	ならむ	ならむ	ならむ
9 たり	たり	たり	たり	たり	たり	たらむ	たらむ	たらむ	たらむ
10 ず	ず	ず	ず	ず	ず	ずらむ	ずらむ	ずらむ	ずらむ
11 ざり	ざり	ざり	ざり	ざり	ざり	ざらむ	ざらむ	ざらむ	ざらむ
12 つ	つ	つ	つ	つ	つ	つらむ	つらむ	つらむ	つらむ
13 む	む	む	む	む	む	むらむ	むらむ	むらむ	むらむ
14 たり	たり	たり	たり	たり	たり	たらむ	たらむ	たらむ	たらむ
15 せり	せり	せり	せり	せり	せり	せらむ	せらむ	せらむ	せらむ
16 り	り	り	り	り	り	らむ	らむ	らむ	らむ
17 けり	けり	けり	けり	けり	けり	けらむ	けらむ	けらむ	けらむ
18 む	む	む	む	む	む	むらむ	むらむ	むらむ	むらむ
19 けむ	けむ	けむ	けむ	けむ	けむ	けらむ	けらむ	けらむ	けらむ
20 らむ	らむ	らむ	らむ	らむ	らむ	らむ	らむ	らむ	らむ
21 むり	むり	むり	むり	むり	むり	むらむ	むらむ	むらむ	むらむ
22 なり	なり	なり	なり	なり	なり	ならむ	ならむ	ならむ	ならむ
23 なむ	なむ	なむ	なむ	なむ	なむ	ならむ	ならむ	ならむ	ならむ

直説法(終) 形容法(連) 已然 將然 折説法(連) 命令法(終)

○*印ノ變化ハ、此表ニテ、不用トド、文結トナラ、手手レバ、姑ク、加ヘ置ク、委シキ事ハ、本文ニ説ケリ。

指定	比況	打消	過去	推量
24 べし	べし	べし	べし	べし
25 べし	べし	べし	べし	べし
26 まじ	まじ	まじ	まじ	まじ
27 じ	じ	じ	じ	じ
28 き	き	き	き	き
29 まし	まし	まし	まし	まし
30 らし	らし	らし	らし	らし

○助動詞ハ、何レノ助動詞モ、連ルキ通則ナルニ、其中ニ、然ラズテ、表中、印アルキ、是レ、委シク、尙本文ニ説ク、又、次ノ第四表ヲ參見、
○欄内ノ空ナルハ、其變化ノ關ケタル事ナリ、但シ、變化、尙アルト、奇辭ナルハ、省ケルモナリ。

○前表ノ外ニ、助動詞ニ似タルモノ、
てむ(め) 行きてむ打てむ(下)用キルテ、是、過去助動詞ノつ(12)ノ第四變化ナレ、未來助動詞ノむ(18)ヲ連ネタル、
(め)ハ、變化ナリ、コレヲノ助動詞トスアルハ、重複ナリ、尙、此表、并ニ、次ノ第五表ノつ(12)ノ條ヲ見、
てき(て) 行きてき打てし(下)用キルテ、是、前項ニイヘル、第五變化ナレ、過去助動詞ノき(23)ヲ連ネタルニ、一語ナラ、ス(レ)ハ、多ク變化ナリ、
なむ(め) 行きてむ有りむ(下)用キルテ、是、過去助動詞ノぬ(13)ノ第四變化ナレ、未來ノむヲ連ネタルニ、一語ナラ、
前項ノてむニ準ヘテ知ルベシ(行かむ)有らむ(下)ノ希望(23)ノ下ノ回リ異ナリ、
にき(て) 行きてき有りし(下)用キルテ、是、前項ニイヘル、第五變化ナレ、過去ノきヲ連ネタルニ、一ノ助動詞ニアラズ、
せむ(せめ) 是ハ、爲トイフ助動詞ノ第四變化ナレ、未來ノむヲ連ネタルニ、コレヲノ助動詞ノ如ク見タルアルハ、太ダ誤レリ、
けむ 善けむ無けむ可けむ(下)形容詞ノ語根ニ連ルカ如キけむ、是ハ、善めむ無めむ可めむ(下)ノ約マルカ如キモノニテ、
又、一種異様ノ手ナリ(けむ)ト變化ニ尙、前ノ形容詞ノ條ニ説ケリ。

指定	打消	過去	未來	推量	詠歎	希望
9. たり	た	た	た	た	た	た
10. ず	ず	ず	ず	ず	ず	ず
11. ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ
12. つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
13. ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ
14. たり	た	た	た	た	た	た
15. せり	せ	せ	せ	せ	せ	せ
16. り	り	り	り	り	り	り
17. けり	け	け	け	け	け	け
18. む	む	む	む	む	む	む
19. けむ	け	け	け	け	け	け
20. らむ	ら	ら	ら	ら	ら	ら
21. ゆり	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ
22. なり	な	な	な	な	な	な
23. ぞむ	ぞ	ぞ	ぞ	ぞ	ぞ	ぞ

○印ノ變化ハ此表ハ、ステテ不用トド、文ノ結ビトナル
 手ヲレバ始々加ヘ置テ委シキ事ハ、文典ニ譲ル

指定	比況	打消	過去	推量
24. べし	べ	べ	べ	べ
25. ぞし	ぞ	ぞ	ぞ	ぞ
26. まじ	ま	ま	ま	ま
27. じ	じ	じ	じ	じ
28. き	き	き	き	き
29. まし	ま	ま	ま	ま
30. べし	べ	べ	べ	べ

○助動詞ハ何レノ動詞ニ連ルキ通則ナルニ、其中ニ然ラズテ、表中、●印アル者、是レテ、委シク、尙本文ニ説ス。又、次ノ第四表ヲ參見也。
 ○欄内ノ空カハ、其變化ノ關ケタル者ナリ、但シ、變化ノ向アレド、奇辭ナルハ省ケルナリ。

○前表ノ外ニ、助動詞ニ似タルモノ、

てむ(てめ) 「行きてむ」打てむト用ルナリ。是ハ、過去助動詞ノつ(12)ノ第四變化ナリ。未來助動詞ノむ(18)ヲ連ネタルナリ。
 (めむ)變化ナリ「レ」ノ助動詞トスルハ、重複ナリ。尙此表、并ニ、次ノ第五表ノつ(12)ノ條ヲ見也。
 てき(てし) 「行きてき」打てしト用ルナリ。是ハ、前項ニ似ルツ第五變化ナリ。過去助動詞ノき(28)ヲ連ネタルニテ、一語ナラズ(て)ハ、變化ナリ。

なむ(なめ) 「行きてなむ」有リテト用ルナリ。是ハ、過去助動詞ノぬ(13)ノ第四變化ナリ。未來「む」ヲ連ネタルニテ、一語ナラズ。前項ノてむニ準ヘテ知ルシ。行カもむ有ラむトド、トイフ希望ナリ。23(下)ノ固ヨリ異ナリ。
 なむ(なめ) 「行きてなむ」有リテト用ルナリ。是ハ、前項ニ似ルツ第五變化ナリ。過去「なむ」ヲ連ネタルニテ、一ノ助動詞ニナラズ。
 けむ(けむ) 是ハ、爲トイフ動詞ノ第四變化ナル爲ニ、未來「む」ヲ連ネタルナリ。レ「ノ」助動詞ノ如ク見タル者アルハ、太ダ誤ナリ。
 けむ(けむ) 「善む」無む可むトド、形容詞ノ語根ニ連ルカ如キナリ。是ハ、善むも無むも可むもトド、約メルカ如キナリ。又、二種異様ノ者ナリ、けむト變化ニテ尙、前ノ形容詞ノ條ニ説ケリ。

かり 「善む」惡シかりトド、かりナリ。是ハ、善く有リ、惡く有リノ約メルカ、別チ見テ知ルシ。尙、前ノ形容詞ノ條ニ説ケリ。
 なり 「明む」靜むり詳むりトド、なりナリ。是ハ、副詞ノ明、靜、詳、ナリ。有リノ約メルカ、別チ見テ其意義ヲ知ルシ。指定、なり(8)ニ似テ、稍異ル所アリ。詠歎ナリ。22(下)ノ固ヨリ異ナリ。尙、本文ノなり(8)ノ條ニ説ケリ。
 あり(あり) 是等ハ、あるトド、ありトド、ありトド、約メルカ、相別チテ知ルシ。
 あり(あり) 是等ハ、あるトド、ありトド、ありトド、約メルカ、相別チテ知ルシ。
 あり(あり) 是等ハ、あるトド、ありトド、ありトド、約メルカ、相別チテ知ルシ。

タルベシ。

助動詞ハ其語大抵短縮ナレドモ變化アリ法アリテ又能ク文章ノ末ヲ結ベ
リ。而シテ其意義變化ノ狀ハ動詞ニ似タルアリ形容詞ニ似タルアリ又或
ハ感動詞ノ如キモアレド尙變化アリ又其一二ニ無變化ノモノ(Defective)
モアレド亦尙能ク文章ノ末ヲ結ベリ。

助動詞ノ數凡ソ三十アリ。第三表ニ於テ其三十語ヲ載セテ其意義ト變化
ト法トノ狀ヲ示セリ。其變化ト法トノ趣ハ動詞形容詞ノ變化ト法トニ異
ナルヲ無ケレバ表中ノ名稱ノ相同ジキモノハ相對照セシメ相準ヘテ覺ル
ベシ因テ此ニハ複説セズ。但シ各助動詞ノ意義ニ至リテハ後ニ更ニ逐
條ニ説クベシ。又動詞ト助動詞ト連續スル法則又ハ助動詞ト助動詞ト連
續スル法則ハ第四表第五表ニ就キテ知ルベシ。(各表ニ附セル説明ヲモ見
ヨ)

○使役ノ助動詞 尋常ニハ「押ス」「受ク」「報ユ」「ナドイフ」ヲ他ヲ使役シテ此

動作ヲ爲サシムルニハ「押サス」「受ケ
サス」「報イ」等ヲ「ナドイフ」。此ノ「志む
す」「さす」等ヲ使役ノ助動詞トス。

- (1) 志む 上ノ三語使役ノ意ナシ
- (2) さす フロト、相同ジクシテ、
- (3) 志す 共ニ動詞ノ第四變化ニ

連ル。但シ「志むハアラユル動詞
ニ連レドモ「さすハ規則動詞ノ第一類
ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類
ト、ニ連リ、さすハ、其他ノ各類ニ連
ルコト、下ノ表ノ如シ。

「行カ」止め「畢ンヌ」「言ハセ」盡ス、「受ケ」させ侍リ、「ナド」用井ルハ、熟語法ナリ。
「使ハ」止め、「俗ニ」見セ止め「懲ラ」止め「ナド」ハ、名詞法ナリ。又古クハ「知ラ

不規則動詞				規則動詞					
第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類	尋常	使役
來	爲	死	有リ	着	報	受	押	押ス	押サ
來	爲	死	有	着	報	受	押	志む	志む
來	爲	死	有	着	報	受	押	志む	志む
來	爲	死	有	着	報	受	押	志む	志む

「見」見「見」ナドト、よヲ添ヘズシテ命令法トシタルモ見ユ。

○受身ノ助動詞 「押ス」「打ツ」「報ユ」ハ、我ヨリ他ノ上ニ働キ掛ル動作ナルヲ、他ノ其動作ヲ起シテ、我レ受身トナルキハ、る、らる、トイフ助動詞ヲ加ヘテ「押サる」「打タる」「報イらる」ナドイフ。此ノ彼我ノ動作ヲ働掛受身或ハ能相所相トイフ。

詞動則規		詞動則規不	
第一類	第二類	第三類	第四類
押ス	受ク	報ユ	着ル
押サる	受ケらる	報イらる	着らる
能相 (Active)	所相 (Passive)	第一類	第二類
變化	變化	爲	來
		爲	來
		死ヌ	有リ
		死ナる	有ラる

ノ如シ。

「言ハレ侍リ」「報イラレ候フ」ナドハ、熟語法ナリ。又、「西光切ラレノ事」(平家)其謂ハレ無キニアラズ」ナドハ、名詞法ナリ。

○西洋ノ動詞ニテハ、能相所相ハ、他動詞ニノミアリテ、自動詞ニハ、無キガ如シ。然ルニ國語ノ動詞ニハ、自他共ニ之ヲ用井ル。委シクハ、文典ニ説クベシ。

又、己ガ心ヨリ、己レニ動作ヲ起シガケラルル意ヲナスコトアリ、「昔シ懷バる」行末ノ考ヘらるる」ナドノ如シ、是等ハ、自所相トモイフベシ。

○敬語 使役受身ノ助動詞ハ、絶エテ使役受身ノ意無クテ、唯他ノ動作ヲ敬ヒ言フ語トナルコトアリ、コレヲ敬語トイフ。而シテ、使役ノ方ハ、大抵「給フ」「座ス」ナドイフ語ト共ニ用井ル。例ヘバ、「位ニ即カ^レ去^リ給フ」「行カ^レ給フ」「起キ^テ給フ」ナドノ如シ、是等「即キ給フ」「行キ給フ」「起キ給フ」「喜ビ給フ」「言ヒ給フ」考ヘ給フ」ナドイフト、太異ナシ(書狀ノ文ニ、被遊被下、ナド用井ル

モノ、是レナリ。又、重テテ用井ルハ、一層重キ敬語ナリ。「行カセらる」召サセ
 らる。「棄テさせらる」ノ如シ。但シ、「殿より使、隙なく、たまをせて、子安貝」と
 りたるかど、問をせ給ふ、「竹取ナドハ、「問をせ」ニ、使役ノ意アリ、或ハ、「猶、そ
 れ、舞はせさせ給へ」と、集て申まどひしかば、「枕草子」ナド用井タルモ、「舞ハせ」
 ニ、使役ノ意アリテ、其以下、敬語ナリ。

○或云、貴人ハ、何事ヲ爲ムニモ、自ラ手ヲ下スコト無ク、他ヲ使役シテ爲サセ、又ハ、他ニ爲ラ
 ルヨリシテ、此ノ如キ敬語ハ由テダリトイフ。然ルトキハ、自ラ使役、受身ノ縁ナキニアラス。
 ○又、生得ノ敬語アリ、聞ス、聞ス、立ス、通ス、知ス、知ス、思ス、ナド、尙多シ、是等ハ、規則動詞
 ノ第一類ナリ。す、せ、さ、し、せニ變化スル語ニテ、辭書ニハ、既ニ、各自、一語トシテ擧ゲタルバ、爰
 ニ論ゼズ。

○能力ノ助動詞 尋常ニハ、「押ス」、「讀ム」、「受ク」、「堪フ」、「ナドイフ」動作ヲ、更ニ、
 「己ガ力、能ク爲シ得ル」意ニイフトキハ、る、らる、らる、トイフ助動詞ヲ加ヘテ、「押サ
 る」、「讀マる」、「受ケらる」、「堪ヘらる」、「ナドイフ、其意ハ、「押ス」ヲ得、「受クル」ヲ

得「下言ハムガ如シ、コレヲ能力(Poten-

tia)ノ助動詞トス。(前條、受身ノ助動

詞トシテ、全ク相同ジケレバ、相混ズル

ヲ勿レ)

(6)る 上ノ二語、能力ノ意ナシ

(7)らる フヲ相同ジ、共ニ、動詞

ノ第四變化ニ連ル。但シ、るハ、規則

動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三

類ト、第四類ト、ニ連リ、らるハ、其餘

ノ各類ニ連ルヲ表ノ如シ。

○指定ノ助動詞 次ニ擧グルナリ。

り、べし、等ハ、事物ヲ指定スル意アレバ、コレヲ指定ノ助動詞トス。

(8)なり 指定解説スル語ニテ、「よて、あり」ノ意ナリ。(語原ハ、「よ、あり」ノ約

尋常				能力			
第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類
押ス	受ク	報ユ	着ル	押サる	受ケらる	報イらる	着らる
變化				變化			
第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類
來	爲	死ヌ	有リ	來らる	爲らる	死ナる	有ラる
不規則動詞	規則動詞			不規則動詞	規則動詞		

レルナルベシ。此語、動詞ニ連ルルハ、必ず、其第二變化ニ連ル。例へば、「押スなり」「受クルなる」「報ユルなれ」「爲ルなれば」ナドノ如シ。

○此語ハ、詠歎ノ意ヲイフ助動詞ノ22なりト混テ易シ。指定ノなりハ、口語ニ當セバ「押スぢや」「行クぢや」ナドノ意ヲナシ、詠歎ノなりハ、「押スわい」「行クわい」ナドノ意ヲナス。因リテ、ぢやなり、わいなりトモイヒテ、コレヲ分ツ。且、他ノ動詞ト連ル規定モ、此條ノなりハ、其第二變化ニ連リ、詠歎ノなりハ、第一變化ニ不規則動詞ノ第四類ノミハ、其第二變化ニニ連ル、尙、前ノ第四表ヲ見テ辨別スベク、後ノ(22)なりノ條ヲモ見ヨ。

此語、又獨立動詞ノ如ク、直ニ、名詞、副詞、ニモ伴ヒテ、指定解説ノ意ヲイフ。「月なり」「花なり」「是レなり」「夫レなり」「宜なり」「然なり」ノ如シ。此語、又、形容詞ノ第一變化ニモ連ル、「善キなり」「惡シキなり」ノ如シ。是ハ、其第二變化ナル形容法ヲ、名詞トシテ連ヌルモノノ如シ。

○又、靜なり、明なり、詳なり、ナドイフなりハ、此條ノなりト、似テ異ナルモノニテ、靜ニ、明ニ、詳ニ、ナドイフ副詞ノ末ノ(23)ニ、動詞ノありノ約マラナ、なりトナレルナリ。此事、尙、副詞ノ條ニ言フベシ。サレバ、ソノなりハ、尋常動詞ノありト勢力同シクテ、靜ナリシム、ナド使役ノ助動詞ニモ連ヌベク、又、いつよりも、今宵の月、さやかなれ、秋のゆふも、たどるばかり（23）、仲夏ノ命合法ニモ用井ルベシ。サルニ、此條ノなりハ、然ルコト能ハズ、尙、第三表、第五表ヲ見テ知ルベシ。因ニ云、助動詞ノ、ごとしニモ、ごとく、なりト、連テテ用井ルコトアリ、是モ「ごとく、よあり」ノ約マレルナルベシ。

(9) たり。此語ノ意義モ、「よて、あり」ト指定スルモノナリ。語原ハ、「と、あり」ノ約マレルナルベシ。此語ハ、名詞ニシテ連リテ、動詞ニハ屬カズ。例へば「あくれは、五日のあかつきに、せうとたる人、外よりきて、（たがひるふ日也）其他、「父たり」「子なる」「君たり」「人たる」ナド、常ニ用井ル。又、漢籍讀ニ「峨峨たり」「寂莫たり」ナド用井ルモ、「と、あり」ノ約マレルニテ、亦、此語ナリ。

(24) べし。心ニ推シ量リテ定ムル意ノ語ナリ、「斯クアルべし」「我レ行クべし」ノ如シ。又強ク指定シテ、命令スル意ヲモナス、「疾ク行クべし」「速ニ來べし」ノ如シ。此語ハ、衆動詞ノ第一變化ニ連ルナ規定トスレド、不規

則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ連ル。

○又、此ノ「べし」及「び」(20)「らむ」(30)「らし」等ハ、規則動詞ノ第四類ニ連ルトキ、尋常、其第一變化ニ「見ルベし」居ルラむ「表ルらし」ナド連ルニ、又或ハ、「見べし」居ラむ「表らし」ナドトモ連ルコトアリテ、甚ダ異ナリ、尙、其委シキハ、文典ニ譲レリ。

○又此語ハ、尋常ノ形容詞ト同マク、「べ」「び」「かり」ナドトモ用井ル、其用法ハ、形容詞ノ條ニ説ケルニ準ヘテ知ルベシ。

○打消ノ助動詞「押ス」「受ク」ナドハ、正面ニ説ク動作ナルヲ、其動作ヲ、反面ヨリ説キテ打消ス時ハ、「押サズ」「押サざる」「受ク」まじ」「受ケじ」ナドイフ。其正面ニ説クヲ、正説トシ、(Positive)反面ヨリ説キテ打消スヲ、反説又ハ、打消トス。(Negative)

(10) ず 動作ヲ、ソノママニ打消ス語ナリ、「押サズ」「受ケず」ノ如シ。此語ハ、アラユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。此語ハ、又、動詞、名詞、ヲ履ミテ熟語法ヲナス、「絶エず」行ク、「飽カず」思フ、「降り」試、「降ラず」試、「間ハず」語、「知らず」顔」

如シ。又、地名ニ、「親知らず」ナドアルハ、名詞法ナリ。

○此語ノ變化ノ如、ぬヲ、過去ノ助動詞ノ(13)如、ぬト別チテ、打消ノ如、ぬトイフ。又古クハ、「飽カぬ」得ぬ」ナドヲ「飽カじ」「言ヘば」得じ」ナド用井、又、「行カぬ」ニ、「言ハぬ」ニ、「ナドヲ」行カなく」ニ、「言ハなく」ニ、「ナド」延ベテ用井アルアリ、(委ハシクハ、文典ニイハル)

(11) ざり 前條ノ「ず」ト、動詞ノありト、約マレルモ「ズ」ニテ、他ノ動詞ニ連ル規則定モ「ず」ニ同ジ、「押サざり」「受ケざる」ハ、即チ、「押サず」「あり」「受ケず」ある」ノ約ナリ。

(26) まじ 推シ量リテ打消ス語ニテ、ずノ豫定ナリ、「押スマじ」「受クまじ」ノ如シ。此語、衆動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

(27) じ 前條ノ語ニ同ジクテ、其意稍強キガ如シ、諸動詞ノ第四變化ニ連ル。「押サじ」「受ケじ」ノ如シ。此語、希ニ、熟語法ヲモナス、「今夜のみ」相見て後ハ、逢はじものかも、「万葉」みだりよ人を、寄せじものをや、「後」其他、「負ケじ」

魂「ナドハ、常ニモイヘリ。此語ハ、本體アルノミ、變化ナシ。

○過去、未來、ノ助動詞「押ス」「受ク」トイフハ、其動作ノ最中ナルニイフ。其動作ヲ、既往ニ就キテイフハ、「押シキ」「受ケタリ」「ナドイヒ、又、其動作ヲ、未然ニ就キテイフハ、「押サむ」「受ケむ」「ナドイフ。此ノ如キ動作ノ差違ヲ、動詞ノ時トイヒ、其差違現在、過去、未來ノ三様ニ分ル。

現在 現在トハ、現ニ、今、動作スルナイフ、「押ス」「受ク」「生ク」「着ル」ノ如シ。過去 過去ノ意義、三種ニ分ル。

第一過去ハ、動作ノ方ニ終ハリタルナイフモノニテ、「つぬ」「たり」「三助動詞ヲ用井ル。即チ、「押シつ」「押シぬ」「押シたり」「受ケつ」「受ケぬ」「受ケたり」「生キつ」「生キぬ」「生キたり」「着つ」「着ぬ」「着たり」ノ如シ。此三語ノ意、相同ジ。又、「コレト同意ナルニ、「押セり」「罪セり」「ナドイフリ、ゼリ、アリ、未ニ説クベシ。

第二過去ハ、動作ノ過程ヲ程歴シナイフモノニテ、助動詞ノけり、き、ヲ用井

ル。例ヘバ、「押シけり」「押シき」「受ケけり」「受ケき」ノ如シ。此二語ノ意モ、相同ジ。

第三過去ハ、第二ヨリハ、一層程歴タリシナイフモノニテ、第二過去、第二過去、ノ助動詞ヲ重用ス。即チ、第一ノつぬ、たり、ノ第五變化ナルて、は、たり、ト、第二ノけり、き、トナ、重テテ、「押シて、けり」「押シは、けり」「押シたり、けり」「押シて、き」「押シは、き」「押シたり、き」ノ如シ、而シテ其意モ、皆、相同ジ。

未來 未來ハ、未ダ起ラザル動作ナイフモノニテ、助動詞ノむ、ヲ用井ル、「押サむ」「受ケむ」「生キむ」ノ如シ。

又、第一、第二、第三過去、共ニ、其動作ハ、過去ナルベキヲ、推測シテ未來ニイフコトアリ。即チ、

第二過去ニテハ、「つぬ」「たり」ノ第四變化ナルて、「な」「なら」ニ、未來ノむヲ重テテ、「押シて、む」「押シなむ」「押シならむ」「受ケて、む」「受ケなむ」「受ケならむ」「ナドイフ。

第二過去ノけり、き、ニハ、
別ニ、助動詞ノけむヲ用井
テ「押シけむ」受ケけむ「生
キけむ」ナドイフ。

第三過去ニテハ、第一過去
ノつ、ぬ、たりノ第五變化ナ
ルニ、に、たり、ニ、前ノけむ
ヲ重テテ、「押シて、けむ」押
シに「けむ」押シたり「けむ」
受ケて「けむ」受ケに「けむ」
受ケたり「けむ」ナドイフ。
以上、數様ノ時ヲ表ニ示ス
コト下ノ如シ。

去過三第 (Third past.) 去過二第 (Second past.) 去過一第 (First past.) 在現 (Present.)

着生受押 ルケクス	着生受押 ルケクス	着生受押 ルケクス	着生受押 ルケクス
着生受押 キケシ たにてり きけり	着生受押 キケシ きけり	着生受押 キケシ つてて ぬ(な、に) たり(たらたり)	着生受押 ルケクス
着生受押 キケシ たにてり けむ	着生受押 キケシ けむ	着生受押 キケシ たにてり む	來未 (Future.) 着生受押 キケサ む

○表ニ掲ゲタル助動詞ノ「押ス」ハ、規則助動詞ノ第一類ナリ、「受ク」ハ、其第二類ナリ、「生ク」ハ、其第三類ナリ、「着ル」ハ、其第四類ナリ。而シテ、現在ハ、皆、其助動詞ノ第一變化ナリ、未來ニ接スルハ、皆、其第四變化ナリ、其餘ニ接スルハ、皆、其第五變化ナリ。表ニ就キテ、其各變化ト助動詞トノ連續ノ則ヲ覺ルベシ、尙、前ノ第四表ニ照シテ見ヨ。扱、又、不規則助動詞ニテハ、ぬき(じ、じか)ノ連續ニ就キテ、異則アレバ、表ノ混雜セムヲ恐レテ、爰ニハ、掲ゲズ、其異則ノ事ハ、次ニモイフベク、前ノ第四表ヲモ參考シテ覺ルベシ。

○又、此外ニ、古文ニテハ、「成リ」に「たり」或ハ、「宮ヨリ、あす俄に御迎へ」に「と、宣はせたり」つれば、心あわただしくして、「若葉」打忘れたりつる古ハの御事をさへ、「推(お)もこ」年月歴たりぬれど、あかざりし夕顔を、つゆ忘れ給はず、「玉葉」ナド、第一過去ナルヲ、互ニ重用セルモアリ、或ハ、「けり」つる「ナド」第二過去ニ、第一過去ヲ連テタルモアリ、或ハ、「けり」ナド、第二過去ヲ、互ニ重用セルモアリ。(此事、次ニイフベシ) サンド、斯ル用法ハ、今ノ普通文ニハ、奇僻ナルベクヤ。

○右ノ助動詞ノ過去未來ノ類別ハ、全ク余ノ創意ニ出テタルモノナリ、然レドモ尙、イカガト思フコトナキニシモアラズ、世ノ語學家ノ批評ヲ待ツ。

(12) つゝ 動作ノ果テテ止マル意ナイフ語ナリ。(語原ハ、止ト、意、通フナルベシ) 此語アラユル動詞ノ第五變化ニ屬ク。但シ、此語ハ、多ク他動詞ニ屬キ、次條ノぬハ、多ク自動詞ニ屬ク、「暮ラシツ」「暮レぬ」「明カシツ」「明ケぬ」ノ如シ。(つ)ノ音ハ、鋭ニシテ、ぬノ音ハ、軟ナルガ故カ) サレド、一定ニハ、言ヒ難シ、先ヅハ概則ナリト知ルベシ。

○自動ニ、鳴キツル有リツル「來ツル」ト連ネタルモアリ、或ハ、他動ニ、浮寐爲ツラムトモ連ネ、旅寐爲ぬベシトモ連ネタルナドモアレバ、一樣ニハ定メカヌレド、先ヅハ本文ノ如シ。次條ノたりハ、此ツノ變化ノて、ありト、約マルナレド、自、他、共ニ連ル。

○押シテ「見」て「見」ナドノ「て」ハ、往、往、一語トシテ説キタルモアレド、表ニモ掲ゲタルガ如ク、其てハ、ツノ變化ニテ、コレニ、未來ノ「テ」添ヘテ用井ルモノナレバ、此篇ニハ、別ニ、一箇ノ助動詞トハセズ。

(13) ぬ 不規則動詞ノ「往」又「ヨリ」變ジタル語ナルベク、變化ノ不規則ナル状モ全ク同ジ動作ノ往キ畢レルナイフ語ニテ、其意、ツニ同ジ。此語モ、衆

動詞ノ第五變化ニ連ナレド、(多クハ、自動詞ニ連ル、尙、前條ヲ見ヨ) 不規則動詞ノ第三類ナル「往」又「死」又「ノ」ミニハ、全ク連ナラズ、尙、前ノ第四表ヲ見ヨ、此語ノ第六變化ナル命令法ハ、「押シぬ」「受ケぬ」「生キぬ」ナド用井ルモノナリ。

○此條ノぬト「往」又「ト」ハ、同根ヨリ生ツタル語ナレバ、連續セヌモ理ナリ。又、「死」ぬル「ナド」ハ、連續スベキガ如クナレド、古書ニ用例アルヲ見ズ、希ニ、「死ぬル」ナドトアルハ、「死ぬル」ナルベキヲ、併讀シタルナルベシト云。

○此語ノ命令法ニ、過去ノ意ナシ、トイフ説モアレド、尙、徹ニ、其意ヲ合メルガ如シ、「往キぬ」取リぬノ如キ、口語ニ「行ツテ去ル」取ツテ去ル「ナルベシ」。

○此語ノ變化ノぬ、ねヲ、打消ノぬ、ト別チテ、過去ノぬ、ぬ、或ハ、單ノぬ、トイフ。
○又、「押シぬ」「受ケぬ」「ナド」ノ「な」「む」ヲ、一語ト見ルモノモアレド、然ラズ、此ぬノ變化ノ「な」ニ、未來ノ「む」ヲ連用シタルナリ、表ヲ見テ知ルベシ。又、其「な」「む」ハ、希望ノ(28)「な」「む」トモ混サ易シ、過去ノ「な」「む」トイフベシ。(天爾遠波ニモ、なむトイフ語アリ、混サ思フコト勿シ)

(14) たり 「て、あり」ノ約マルルニテ、「押シたり」「受ケたり」ナドハ、「押シて、

あり受けてありナリ、而シテ、其てハ、前前條ノツノ變化ナレバ、スベテ、ツト同意ナリト知ルベシ。熟語法ニ、「爲たり顔」(俗ニ似たり具)ナドモ用井ル。此語モ、衆動詞ノ第五變化ニ連ル。

○此たりテ、前ノ(9)たりニ別テ、彼レテ、指定ノたりトシ、コレテ、過去ノたりトス。

(15) せり 「爲て、あり」トイフ程ノ意ニテ、亦第一過去ノ意ヲナス語ナリ。

(語原ハ、「爲、あり」ノ約マレルナルベシ) 此語ハ、固ヨリ、爲トイフ動詞ノ意ヲ含メルモノナレバ、獨立動詞ノ如キ力ヲナシテ、他ノ動詞ニハ屬カズ、甚ダ餘ノ助動詞ト異ナリ。例ヘバ、「蓋爾爲有」(殿造せり)「團居せる夜ハ」(家居せれば)「其他、罪せり」(導せり)「歎息せり」(工夫せり)「烈シクせり」(詳ニせり)ノ如シ。サレド、「爲」ノ過去ヲイフ語ニシテ、且、必ズ、他語ノ下ニ屬キテ文中ニ出ヅルモノナレバ、尙、助動詞タリ。

○此語、古クハ、「應せり」(む)何せり、き何せり、つるナド、第一、第二過去ト重用セルモ見ユ。

(16) せり 此語ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬ク助動詞ニテ、且、其第二變

化ニ屬ク、即チ、「行ケリ」押セリ「別テリ」ノ如シ。是等ノ意義ハ、「行キ、て、あり」押シ、て、あり」ナド解スベクシテ、亦「行ク」押ス等ヲ、第一過去ニイフタリ。規則動詞第一類ノ六種ノ語ニ連續セシメテ、左ノ表ヲ示ス。(尙、前ノ第三表、第四表ニ照シテ見ヨ)

直説法 分詞法 已然 未然 接續法 折説法

第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
行ケリ	行ケる	行ケれ	行ケら	行ケり
互セリ	互セる	互セれ	互セラ	互セり
別テリ	別テる	別テれ	別テら	別テり
飛ベリ	飛べる	飛べれ	飛べら	飛ベり
澄メリ	澄める	澄めれ	澄めら	澄メリ
去レリ	去レる	去レれ	去レら	去レり

○行ク「互セ」別テ「飛ベ」澄メ「去レ」ハ、スベテ、規則動詞第一類ノ第三變化ナリ。具、よ、世來て置けれ」ナドハ命令法ナラムカ。是等ノ用法、皆、古シ。

○接續法ノ已然ニ「ハ、難波邊に、人のゆければ、おくれめて、」將然ニ「ハ、天の川橋、互せらば、滄浪ノ水、滯メラバ以テ纏テ溜フベシ」ノ如シ。(忘

○此語、古クハ、咲ケリ、つる、咲ケリ、き給へり、き讀メリ、けるナド、第一、第二ノ過去ヲ重用シタルモ見ユ。

○此助動詞ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬クモノナリ。サルテ、誤リテ其第二類ナル「受ク」堪フ終フナドノ變化ニモ屬ケテ、「受ケリ」堪へり終へりナド混用スルコト往往アリ、注意スベシ。又、「立ツ」添フ染ム、自動ナドハ、規則動詞ノ第一類ナレバ、立テる家松ニ添へる石赤ニ染ムる衣ナド屬クルコト論無クシテ、規則動詞ノ第一類ナル「立ツル」添フル染ムル(他動)チ家ヲ立テる石ヲ松ニ添へる衣ヲ赤ニ染ムるナドイフコトアルハ、口語調ニテ、文章調ニアラズ、混シ思フコト勿レ。

17) けり つぬたりヨリ、一層程歴シ時ヲ示ス語ニシテ(語原ハ「來ハ、あり」ノ約マレルナルベシ)コレヲ第二過去トス。此語、諸ノ動詞ノ第五變化ニ連ル。

此語、時トシテハ、過去ノ意ハ薄クシテ、唯語氣ニ念ヲ入レテ言フ意ヲナス、「秋は來に、けり」天つ星とぞあやまたれけるナドナ、口語ニ寫セバ、「秋が來た、わい」まちがへられるわいトイフマデノ意ナリ。殊ニ、「心なりけり」我

身なりけるナド、なり、けりト下用井タルハ、唯、推シテ説明スル意ヲナス、古ク、「何何なりけりき」ナド用井タルアルモ、けりハ、説明ノけりニテ、きニ過去ノ意アルナルベシ。

28) き 前條ノけりト、語意同ジクシテ、第二過去ナイフ語ナリ。此語ノ變化ハ、き、し、しかニテ、衆動詞ノ第五變化ニ連ルヲ通則トスルニ、唯、不規則動詞ノ第一類、第二類ニ於テハ、き、し、しか、相分レテ、其第四變化ニモ連ルヲ、殊ニ異則ナリトス。左ニ、表ニ掲ゲテ示ス、尙、前ノ第四表ニ参照スベシ。

不規則動詞		第四變化	第五變化
第一類	來 ^キ しか	來 ^キ しか	來 ^キ しか
第二類	爲 ^キ しか	爲 ^キ しか	爲 ^キ しか

表ニ掲ゲタルガ如ク、「來^キしか」來^キしか又ハ、「來^キしか」ト、何レニモ連ル、而シテ、「來^キしか」ト用井タル方、例、多シ。扱、「來^キしか」ト用井タル例、サラニ見當ラズ。

又「爲^レき」ト「爲^レし」爲^レしか」ト、相分レテ連リ、而シテ「爲^レし」爲^レしか」又ハ「爲^レき」ナド用井タル例、更ニ無シ。

○此ノきし、しかハ、餘ノ動詞ニテハ、其第五變化ニ連ルヲ通則トス、サレバ、規則動詞第一類ノ「押ス」申ス「ナド」第五變化ハ、「押シ」申シ「ナレバ」スベテ「押シ」申シ「しか」申シ「き」申シ「し」申シ「しか」ナド、連ヌヘキ規定ナリト知ルベシ（尙前ノ第四表ヲ見ヨ）サルヲ「押ス」申スノ第三變化ナル「押セ」申セニ連ネテ「押セ」申セ「しか」申セ「しか」ナドト誤用スルコト多シ、心ヲ付クベシ（押セ、申セ、トハイフベカラザルニテ覺レ、且、瘦セ、き瘦セ、し、失セ、き、失セ、し）ナド、第二類ナルハ、其ニ相連ルニ照シテモ見ヨ。

○且又、尋常直説法ニテ文ヲ結ブトキハ、「押シ」申シ「見シ」ナドナルベキヲ「押シ」申シ「見シ」ナド結ブコトアルモ、誤ナリト知レ。

○又此語ノ變化ノしニ、第一類天爾遠波ノか（歎）ノ添ヒタルト、又ハ、其第三類ノかノ添ヒタルトアルヲ、此キノ變化ノしかト混シテ誤解スルコトアリ、注意スベシ。即チ、「我コソ行キしか」ナドハ、此變化ノしかナリ、何時ノ程ニ行キしか（歎）或ハ、「行キしか」逢ハザリキ「ナド」かかハ、天爾遠波ノか、ナリ、思ヒ分クベシ。

已然 接続法 將然

櫻の無かりしかば	櫻の無かりせば
夢ぞ知りしかば	夢ぞ知りせば
我が行けりしかば	我が行けりせば
衣なりしかば	衣なりせば

サラバ、此語ハ、きし、しか、せ、ト變化ス、トスベシ。此事先輩ノ論及アリヤ、ナシヤ、姑ク、私案トシタイフ。

(18) 未来タイプ語ニテ、アラユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。

○行カキ欲シ、聞カキ欲シ、見キ憂キ「ナド、未来ノ意タイプアリ、此語ノ第五變化トシテ、熟語法ト見ルベキカ。但シ、折説法、名詞法、トハナラズ。又、万葉集ニ、「戀ひまき思ふ見まきちかけむ」吹かまきまらす、「古今集ニ、「見まきほしむ見まきのほしき」唐錦たたまき惜しき」伏見の里のあれまきく惜し」ナドアルまきモ、同意ニテ、此まき延ハタルマテ、語ナルベキカ。（義門師ハ、此ノまきまきチ、推疊ノ(26)まきしノ轉ノ如ク説カレマシ、イカガ、尙まきしノ條ヲ見ヨ）

○世の中ノ絶えて櫻の無かりせば（古今）夢ぞ知りせば、覺めざらましを筑波根よ我が行けりせば、霍公鳥（万葉）吾妹が衣なりせば、下に着ましを（万葉）ナドタイプアリ。コンハ、此ノきし、しかノ變化中ノモノニテ、即チ「しか」ト「せば」ト相對シテ、接続法ノ已然、將然ナラト思ハル。

(19) けむ 第二過去ノけり、きナ、未來ニ推測シタイフ語ナリ。語原ハ、けりノ變化ノけらト、未來ノむトノ約マレルモノナラムカ。此語、各動詞ノ第五變化ニ屬ク。

○推量ノ助動詞 らむ、めり、まし、らし等ハ、事物ヲ推量スル意アリ、コレヲ推量ノ助動詞トス。

(20) らむ 未然ヲ推量スル語ナリ、「押スらむ」受クらむノ如シ。此語ハ、各動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ第四類ニノミ、其第二變化ニ屬ク。

○此語、規則動詞ノ第四類ニ連ルニ異則アリ、前ノ(24)ベシノ條ヲ見ヨ。

(21) めり 語原ハ、「見え、あり」ノ約マレルナルベク、事物ノ狀態、然見ユト推量シタイフ語ナリ。(口語ニ、「あるとみえる」「ない」とみえる」ナドノ意)此語動詞ノ第一變化ニ連ル、「我おどらじとやうの事、爲出づ、めり」(宿木紅葉亂れて流る、めり「古今」濡る、める人に着せてかへさむ「勢選」秋も往ぬ、めり)ノ如シ。但シ、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

(26) まし 未來ヲ推シ定メ、又ハ、然セムトスル意タイフ語ニテ、まハ、未來ナイフむノ轉ナルベシ、サレバ、むト同ジク、各動詞ノ第四變化ニ連ル。此語ノ接續法ナル「まし」かハ、「出ヅル」ハ、其末ヲ、又、ましト結ブナ、概則トス、「まし」して、龍を捕へたらまし、かハ、又、こともなく、我ハ害せられなまし」(竹取)人知れず、絶えなまし、かハ、わびつつも、無き名どとだよ、言はましものぞ、「古今」ノ如シ。

已然	接續法	將然
塞かまし、かば		塞かませば
有らまし、かば		有らませば
知らまし、かば		知らませば

即チ、「まし」かハ、「ト」ませバト相對シテ、接續法ノ已然、將然ヲナスモノナラムカ。(義門師ハ、行カキ欲シ「ナド」イフキニ、爲ノ添ハレルナラムト、ト言ハシヤレド、此ノ「せ」ニ、「爲ル」トイフ力アリ

○飛鳥川、まがらみ渡し、塞かませば、流るる水ものどにかあらし(万葉)「大舟に、妹のゑるものどに、有らませば、はぐくみもちて、行かましものぞ」(同)斯くばかり、戀ひむとかねて、知らませば、妹をば見せず、あるへかりける、(同)「ナド」ノ「ませハ、此「まし」ノ變化中ノモノナルベク、ませノ「せ」ハ、ましノ「し」ト同趣ノ音ニモアリ、

イヒテ、過去ノぬノ變化ニ起ルなむ(動詞ノ第五變化ニ連ルモノ)ト別ツ。

○サレド、規則動詞ノ第一類、第三類、第四類ハ、其第四變化、第五變化ノ形、共ニ相同クナレバ、
「受ケもむ」生キなむ、着なむ、何レモ、願フ^テなむトモ解セラレ、過去ノなむトモ解セラルルコ
トアリ能ク、其意義ヲ分チテ、解スベシ。

○比況ノ助動詞

(25) ごとし 比ブル意ナイフ語ニテ、多クハ、天爾遠波ノの、ガノ下ニ連ル
フ、他ノ助動詞ト異ナリ、「山ノ、ごとし」海ノ、ごとき「此ノ、ごとき」聞クガ、
ごとく「善キガ、ごとし」ノ如シ。又、古クハ、「見ルガ、ごとし」秋ノ、ごと涼
シ「ナドト、副詞法ニ用井タルアルモ、異ナリ。

○此語ノ變化ハ、形容詞ノ變化ノ如クナレド、其第三變化ニ、おどけれト用井タルヲ見ズ。又、
「おどく、よ」おどくなりナド用井ルコトアルモ、他ノ形容詞ニ無キナリ。(疾く、よナドモ希
ニハアルカ)

○凡ソ、此篇ニ助動詞トシタルモノ、從來ノ語學書中ニハ、スベテ天爾遠波ノ中ニ混テテ説ケ

リ。然レドモ、是等ノ語、皆變化ヲ具シ、法ヲ具シ、或ハ、希ニ變化ナキモノモアレド、其語、皆、能
ク文章ノ末ヲ結ブ。既ニ變化アリ、法アリ、又、能ク文章ヲ結ブモノ、コレヲ天爾遠波ノ中ニ混
ズベキニアラス。サレド、是等ノ語、變化アリ、法アリ、又、能ク文章ヲ結ベドモ、獨立ニハ用井ラレ
ズ、必ズ他語ノ下ニ就キテ、其意ヲ補助スル用ノモノナレバ、固ヨリ、動詞ニハアラス、因テ今ハ、
助動詞トシテ、一門ニ立テタリ。而シテ、が、の、に、を、も、ぞ、おそ等ノ、變化モナク、言語ノ間ニア
リテ、上下ヲ承接スルモノノミチ存シテ、天爾遠波ノ一門トセリ。又云、助動詞ハ、洋文典ニテ
ハ、動詞ノ條中ニ附説スルモノ多シ、然レドモ、邦語ノ助動詞ハ、變化ト法トヲ具シテ、其數モ多
ク、其規定モ繁ナルモノナレバ、一門ニ立ツベキ價直アリ。且、別門ニ立テテ説ク方、學ブ者ニモ
便ナラムト思ハル、因テ今ハ此ノ如シ。

○前ノ動詞ノ條末ニ於テモ、國語ト洋語トノ間ニ、動詞ニ天性ノ異同アルコトヲ論ツタリ。サ
ルニ、世ノ洋文法ニ據リテ國文法ヲ作ルモノ、動モスレバ、速丁ノ見ヲ以テ、此ニ助動詞トシテ説
ケル「打タル」透ケラる「打チ」透ヘキ「打タむ」透ケむ」等ノるらるる「きむ」ナドヲ、動詞ノ語尾
變化ト斷定シ、動詞ノ Voice, Mood, Tense, 等トミテ説キテ、確ク執リテ動カザルガ多クレバ、
今、反覆シテ其説ノ理ナキヲ辨ゼム。

右ノ助動詞トモテ、動詞ノ語尾變化ト見ルトキハ、第一ニ、其變化ノ稱呼ニ就キテ、甚ダ辨別ニ

副詞

副詞ハ常ニ動詞ニ副ヒ、又、形容詞ニ副ヒ、又、或ハ、他ノ副詞ニモ副ヒテ、其意味ヲ種種ニ言ヒ添フル語ナリ。例ヘバ、「只管」思フ「暫シ」留ル「甚だ」高シ「最も」遙ニ「見ユ」ナドノ、「只管」ハ、思フ状態ヲ示シ、「暫シ」ハ、留ル程ヲ言ヒ「甚だ」ハ、高キ度ヲ指シ、「最も」ハ、「遙ニ」ノ距離ヲ定ムルガ如シ。

〇副詞ノ種類 本體ノモノハ、上ニ擧ゲタル外ニ、「必ず」有リ「既」成レリ「嘗テ」聞ケリ「許多」見ユ「恰も」好シ「最麗」ハシ「頗る」詳ニ「知ル」ナド、擧ゲ盡シ難シ。

副詞ニハ、疊ミタルガ如キ語多シ、志ハ志ハ應ツラツラ「熱」は「ど」は「ど」(熱なかな)か(熱やうやう)連ノ如シ。殊ニ、形状、聲音ナイフモノニ多シ、「戸」は「ど」は「ど」叩ク「涙」は「ら」は「ら」と「落ス」から「ら」と「笑フ」さめ「さめ」と泣ク「フ」如シ。又、同語ヲ重用スルコトアリ、かくかく(斯斯)志か志か(然然)いといと(最良)よしよし(爾

爾けにけに(實實)ノ如シ。

副詞ニハ、「よ」ら「よ」か「よ」ら「か」よ「や」か「よ」ナドイフ接尾語ヲ用井ルモノ多シ「既」よ「終」よ「夙」よ「豈」よ「更」よ「殊」よ、或ハ「つ」は「ら」よ「詳」つ「よ」ら「よ」(圓)のどか「よ」(長閑)まづか「よ」(静)なひ「ら」か「よ」(平)あき「ら」か「よ」(明)すみ「や」か「よ」(速)すま「や」か「よ」(健)ノ如シ。又、「よ」ニ終ハルモノノ中ニ、不規則動詞ノ「あり」ニ連レルキ、「よ」トありト約マリテ、なりトナルモノアリ、「新なり」明なり「静なり」詳なり「ノ如シ」是等ノ語尾ノ變化ハ、即チ「あり」ニ同ジ。

〇名詞ヲ副詞ニ用井ルモノハ、「今」來ム「今日」行ク「明日」來ラム「半」成レリ「二」日「待」チテ「フ」如シ。其下ニ「よ」ヲ添ヘテ用井ルハ、「常」よ「時」よ「故」よ「誠」よ「日」よ「月」よ「フ」如シ。又、重用スルハ、「時時」夜夜「數數」又ハ「年」年「日」日「フ」如シ。漢語ヨリ入レルハ、「大抵」成レリ「一切」知ラズ「終日」勤ム「再三」聞ク「ノ」如シ。其下ニ「よ」ヲ添フルハ、「切」よ「別」よ「丁寧」よ「專一」よ「ノ」如ク、又、重用スルハ、「年」年「日日」度度「次第」第「よ」「フ」如シ。

○形容詞ノ副詞法ハ、皆副詞ニ用井ラル、高ク、昇ル、疾ク、走ル、悪しく、ナル、
樂しく、思フノ如シ。此類ニテ「能ク」タカク「夙ク」ハヤク「甚ク」トク「宜しく」ノ如キハ、全ク
副詞ノ如クナレリ。又重用スルハ、「善ク善ク」疾ク疾クノ如ク、或ハ、語原ヲ
重用スルハ、「細細」ホホホ「久久深深」ノ如シ。

○動詞ヲ副詞ニ用井ルハ、「日とく」ヒトク「願とくハ」ノゾムトクハ「恐らく」オソラク「疑ふらく」ウタガハシ「思
ふ」オモフ「打付け」ウチツケ「亂り」マシ「頻り」マシ「詮ずる」トク「案ずる」トク「絶えて」トク「敢へて」トク「總べ
て」トク「返りて」トク「譬へば」トク「例言ばは言をむや」トク「現」ノ如シ。又重用スルハ、「行く行
く」イダク「泣く泣く」ナダク「益す益す」トク「代る代る」トク「返へす返へす」トク「取り取り」トク「次ぎ次ぎ」トク「取り取り
」トク「次ぎ次ぎ」ノ如シ。

○熟語ヲ副詞ニ用井ルハ、「元より」トク「固」トク「何れか」トク「孰」トク「如何でか」トク「等」トク「何處」トク「焉」
「一重」トク「偏」トク「殊更」トク「故」トク「身づから」トク「懸」トク「已づから」トク「自」トク「餘りさへ」トク「剩」トク「請ひ願をくを」
「憂」トク「欲し」トク「まよまよ」トク「恣」トク「無」トク「が代」トク「蔑」トク「稍もすれば」トク「動」トク「ナドナリ。

○副詞ノ用法 同語ヲ重用シテ、「最最好」トク「疾く疾く」トク「行ケ」トク「ナドイフハ、其意

ヲ強クスルナリ。又、「尙暫」トク「待ツ」トク「唯」トク「只管」トク「頼ム」トク「夙」トク「早く」トク「起ク」トク「嘗て」トク「屢
見タリ」トク「雪ノ間無ク」トク「時無ク」トク「降ル」トク「ナド重用スルハ、其意ニツナガラ、下ノ動
詞形容詞ニ係ル。

又間ニ他ノ語句ヲ隔テテ係ルハ、「熟」トク「事ノ由ヲ考フルニ」トク「暫」トク「時ノ移ルヲ待
チテ」トク「ノ如シ。又動詞ノ下ニ用井ルモノハ、「待ツ」トク「暫」トク「ナリ」トク「行ク」トク「ベキカ」トク「問
否」トク「我ヲ恨ム」トク「勿」トク「色ニ出ヅ」トク「勿」トク「努力」トク「ノ如シ。此ノ勿ハ、必ズ、動詞ノ第一變化ニ
屬ク、「我ヲ恨ム」トク「人ヲ忘ル」トク「色ニ出ヅ」トク「來」トク「爲」トク「爲」トク「ノ如シ。但シ、不規則動
詞ノ第四類ノミハ、其第二變化ニ屬ク、「有ル」トク「居ル」トク「ノ如シ。

○此ノ「な」ハ、感動詞ノなト迷ヒ易シ、心スベシ。又、「恨ム」トク「勿」トク「忘ル」トク「勿」トク「出ヅル」トク「來ル」
勿レ爲ル勿レナド用井ル勿レハ、無クアレノ約マレルモノナリ、混ズルコト勿レ。

又、「な」トク「を」トク「トイフ」トク「二語ニテ動詞ヲ挾ミテ、禁止スル意ナシ」トク「副詞アリ」トク「な」トク「行
キ」トク「を」トク「受ケ」トク「を」トク「落チ」トク「を」トク「ノ如シ。或ハ、「努力」トク「を」トク「語り」トク「を」トク「現」トク「を」トク「言ヒ」トク「を」トク「甚ク」トク「な
侘」トク「を」トク「ナド、他ノ副詞ト共ニ用井、或ハ、「人」トク「を」トク「甚ク」トク「侘」トク「ビサセ奉ラセ給ヒ」トク「を」トク「竹取

ナドトモ用井、或ハ、熟語ヲ中斷シテ、「吹キな散ラシを」ナドトモ用井ル。此ノ副詞ハ、スベテ、動詞ノ第五變化ヲ挾ムヲ通則トスルヲ、上ノ諸例ノ如シ。然ルニ、不規則動詞ノ第一類、第二類ニテハ、其第四變化ヲ挾ミテ「な來を」な爲そ」下用井ルヲ異則ナリトス。第五變化ニテ、「な來を」な爲そ」ナドトモ用井ズ。

○古クハ、「雲を柳引キ」人モな忘レ「吾無シトな侘」ナド、そ無クモ用井タルヤウナリ。

又、上ノ意ヲ承ケテ下ニ移スモノアリ、「齡ハ老イヌ、然ハアレド」ナドナリ、其他、「斯ク抑も」さて」ナド、皆然リ。又、元來ハ、上ノ意ヲ承クベキモノヲ、意、輕ク、文首ニ用井ルモノアリ、「夫れ抑も」凡そ」ノ如シ。

又、副詞ニハ、其生得ノ意味ヲ、其下ノ語ニ移シテ、反應セシムルモノアリテ、反語、打消ノ語、推量ノ語、疑問ノ語等、各、一定ノ用法ヲ起サシム。是等、慣用ノ法ニ據リテ用井ルベキナリ。例ヘバ、

「え行カジ」シヤ知ラズ「せんを見エズ」よも思ハジ「さらさら無シ」豈知

らむや」縦行クトモ」よし見ルトモ」蓋し是ナラム」若し行カバ」寧コレヲ取ラム」如何ハセム」しかで知ラム」幾何アラム」疑ふらく」是レナラム」焉ぞ取ラム」ノ如キ、枚擧スベカラズ。

○以上副詞ノ解釋繁ニ涉リテ、他ニ比スレバ、不倫ナルガ如シ、然レドモ、副詞ニハ、迷ヒ易キモノモ多クシテ、今ハ此ノ如シ。

○此ノ副詞トイフモノ、從來、國學諸哲ノ論及セルモノ、チサチサ見エズ、サレバ、此ノ類ノ語ニハ、某ノ言ト、名稱ヲモ付セズシテアリ、唯、富士谷成章氏ガ、かざし抄ニ、かざしト名ツケタルノ類ノ語中ニ、往往、此副詞ヲ混シテ論シタルアレド、尙甚ダ詳悉ナラズ、サレバ、此條ハ、先哲ノ説ノ據ルベキナクシテ、創定ニ係ルルコト多シ。

接續詞

接續詞ハ、語、句、又ハ、文、ノ間ニ入りテ、ソレヲ續ギ合ハスル語ナリ。例ヘバ、
「月、又、花」春、過ギタリ、さて、夏、來ル」ノ如シ。

漢籍讀ニ用井ルハ、「コレヲ求ムルカ、抑、コレヲ與フルカ」秦カ、漢カ、將近代

カ」多クシテ、且旨シ」ナドアリ、書狀ノ文ニ、尤、旁、將又ナド用井ルモノモ、是レナリ。

動詞ヨリ來レルニハ、及び、並、尋、ナドアリ、亦漢籍讀ノ用法ナリ、書狀文ニ就テ、隨テ、依テナドモアリ。

熟語ヲ用井ルハ、「或」有ル謂ハ「斯くて」然れば「然して」而「若しくを」よりながら「然のみならず」加之、かるがゆるは「故」何となれば「是よ於て」ノ如シ。是等モ、漢籍讀ノ用法ナルガ多シ。

○月と日と山も川も蝶や花やナドノどもやナドモ、其用法ニ因リテハ、接續詞ノ意ヲナスコトモアリ、然レドモ、今ハ、類ヲ以テ天爾遠波ノ部ニ收メタリ。

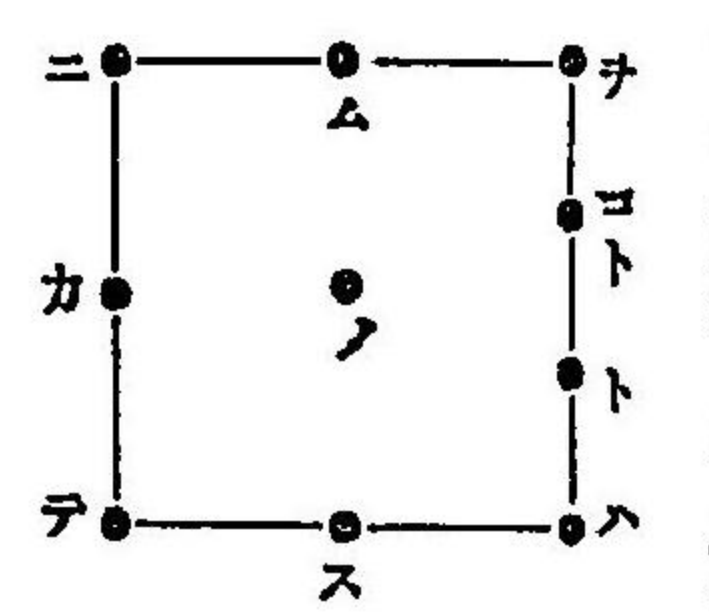
○此接續詞トイフモノ、舊説ニテハ、スベテ天爾遠波ノ中ニ雜ヘタリ。然レドモ、別ニ一種ノ意義アルモノニテ、混ヲ難キ事アリ、因テ、今ハ、別門ニ立テタリ。

天爾遠波

天爾遠波(略シテ、天爾波)ハ、言語ノ中間ニ居テ、上下ノ語ヲ承接シテ、種種ノ

意義ヲ達セシムル語ナリ。例ヘバ、「宇治山ノ僧喜撰は、詞幽カスガよして、初め、終り、確ならず、言はば、秋の月を見るよ、曉の雲よ逢へるが如し。」の、ば、て、は、を、よ、が、ノ如シ。

○古クハ、漢文ヲ譯讀スルニ、後世ノ如ク、送り假名ナド付クルコトハ無クシテ、文字ノ四方、四隅中央等ニ點ヲ付シテ、其點ニ、一定ノ則ヲ立テテ、譯讀セシナリ。下ノ圖ハ、其一則ニテ、例ヘバ、八ノ字ノ左肩ニ點アレバ、「八」ニ「ト」讀ミ、右肩ニアレバ、「八」ヲ「ト」讀ミシナリ。其右肩ノ二點ノ訓語ヲ探リテ、コレヲ「チ」コト、點ト概稱セリ。今モ、返リ點訓語道春點ナド、點トイフコトアルハ、其遺ナリ。又或ハ、其四隅ノ訓語ヲ、左肩ヨリ左肩へ、右肩ヨリ右肩へ、循環リテ讀メバ、「チ」ニ、「チ」ハ、「ト」ナルヲ探リテ、其概稱トモセリ、是レ、天爾遠波トイフ語ノ起因ナリ。



天爾波ハ、其形、多クハ短小ニシテ、且、獨立シテハ用ナ成サズ。然レモ、常ニ、文中所在ニ居テ、上下ノ語ヲ連絡セシメ、互ニ呼應シテ其意義ヲ通ジ、他語ノ方向ヲ示シ、意旨ヲ導キ、自他ヲ區別シ、彼此ヲ分合シ、言語ノ位置、顛倒、ストモ、其所在ニ就キテ指示ノ任ヲ盡スナド、關節ノ筋ノ如ク、門戸ノ樞ノ如シ。

アラユル天爾波ヲ、其用法ニ因テ、三類ニ大別シ、而シテ、逐次ニ其意義ヲ説クベシ。

第一類 名詞ニ屬クモノ。

- (一) が の (二) の が の (三) よ (四) を (五) と
- (六) へ (七) より から より (八) まで

第二類 種種ノ語ニ屬クモノ。

- (九) は は (一〇) も (一一) ぞ い (一二) な む な む
- (一三) み そ (一四) だ よ (一五) す ら (一六) さ へ
- (一七) の み (一八) は かり (一九) や (二〇) か

第三類 動詞ニ屬クモノ。

- (二一) と ど も (二二) ど ど も (二三) が は を (二四) て
- (二五) で (二六) つ づ

○第一類 此類ノ天爾波ハ、名詞ニノミ屬ク、コレヲ名詞ノ天爾波トイフ

ベシ。

(二) が の 上ニ名詞ヲ承ケテ、下ハ動詞ニ係リ、其動作ヲ起ス所ノ名詞ヲ、特ニ擧ゲ示ス意ノモノナリ。例ヘバ、「斯くと誰が言ふ」我をは君が思ひ隔つる「白雪のがかれる枝に鶯の鳴く」行交ふ人の花をたむくる」のがの如ク、「言ふ」思ふ」鳴く」手向く」ノ動作ヲ起スハ、「誰」「若」「鶯」「人」ナルコトヲ、特ニ指シ示ス。又、下、形容詞ニ係リテ、「待つ」人の無き」空の」のどけき」聞くが樂しき」無きが多し」ナドイフモ、用法同ジ。

○コレヲ、羅句ニ謂ハユル名詞ノ Nominative case (主格) ナリトスルハ、恰當ナラズ。國語ニテ、彼ノ主格ニ相當スベキ純粹ナルモノハ、「鳥啼き」花落つ」ナド、天爾波無クシテ用井ル「鳥花等」ノ位置、是レナリ。コレニがのヲ加ヘテ、「鳥が啼く」花の落つ」トイヘバ、がのヲ加ヘタル程ノ意味ハ、随テ起ルナリ、即チ本條ニ説ケル所ノ如シ。尙、委シクハ、文典ノ文章論ニ譲ル。

(二) の が 共ニ、名詞ト名詞トノ關係ヲ示スモノナリ。而シテ、其意義モ、種種ナリ。

(イ) 所有ノ意ヲ示スモノハ、「人の物君が世」ノ如シ。或ハ下ノ名詞ヲ畧シテ、「萬葉集」に入らぬ古き歌、みづからのをも、奉らしめ給ひ「此歌は、柿本の人管がなり」ナドモ用井ル。

(ロ) 由ル所係ル所、ヲ示スモノハ、「櫻の花梅が香世の中」天が下ノ如シ。是モ、下ノ名詞ヲ省キテ用井ル、「世の常の」とや思ふらむ「今の主人も、前のも、手取交はして」ノ如シ。

〇以上ノ二ツハ、英、又ハ、羅句ノ Possessive, 又ハ、Genitive case. (持格)ニ當ルガ如クナレド、次下ナルハ、又種種異様ノ意義ヲナス。

(ハ) 「依て、ある」ノ意ヲ示スモノハ、「これの歌卷」それが人人ノ如シ。

(ニ) 「に、ある」ノ意ヲ示スモノハ、「越の白山蝦夷が千島」ノ如シ。

(ホ) 「と、いふ」ノ意ヲ示スモノハ、「富士の山佐渡が島」ノ如シ。

(ヘ) 「の如き」ノ意ヲ示スモノハ、「花の顔露の命」父が倂ありノ如シ。

又、「結ぶの神行かむの心思ふが中」重きが上の「ナド」用井ルハ、上ノ語ノ

分詞法、形容法ヲ、名詞トシテ用井ルナリ。又、「都よりの音信」明日までの命君への諫行きての後「これのみ」の事「多くの人面白の夜」口惜しの事「忘れじの行末」或ハ、「君や來む我や行かむの猶豫」待つ人の來むや來じやの定めなければ「是ハ謀反ノ輩ヲ落サジが爲ノ謀ナリ」ナド、種種ノ語句ヲ名詞トシテ、接尾語ノ如ク屬ク「モアリ。而シテ、是等ハ、皆、其上下ノ係屬ヲ示ス意ヲナス。

〇前條ノが、ハ、名詞ト動詞トノ間ニ立ツモノナリ、此條ノのが、ハ、名詞ト名詞トノ間ニ立ツモノナリ、語形、同サケレド、思ヒ紛フルコト勿レ。又、第三類天爾波ニモ、が、ハ、アリ、感動詞ニモ、が、アリ、混ズベカラズ。

〇つ、のニ似テ、上下ノ語ノ係屬ヲ示スモノナリ。然レモ、用法古ク、且、慣用ニ局レル所アリテ、一般ニ用井難シ。其例、左ノ如シ。

「天の風」國の神「上つ毛野」下つ總遠つ祖「近つ淡海」内つ國「中つ國」外つ國「沖つ風」種つ物「滯つ串」

(三)に 動詞ノ動作ノ、移リ互ル所ヲ示スモノナリ。而シテ、其意義、數種ニ分ル。

(イ) 相對スルモノヲ指スハ、「人_ニ與_フ師_ニ問_フ」ノ如シ。

○_コン_ハ、羅_甸ノ格_ノ Dative (與格)ニ當ルガ如シ。然レドモ、次ナルハ、又種種ナリ。

(ロ) 地位ヲ示スモノハ、「机_ニ載_ス都_ニ住_ム山_ニ近_シ水_ニ遠_シ」ノ如シ。

(ハ) 比_フル意ナルハ、「人_ニ劣_ル我_ニ優_ル」昨日_ニ増_シテノ如シ。

(ニ) 差_抑ヘテイ_フト_ノ如キモノハ、「木_石ニ成_ル水_ヲ湯_ニナ_ス」花_ヲ雪_ニ見_テノ如シ。

(ホ) 接續詞ノ意ヲナスト_ノ如キモノハ、「日_ニ月_ニ」尾_花が風_ニ庭_ノ月_影ノ如シ。

又、重用スル動詞ノ間ニ入りテ、またノ意ヲナスモノアリ、「降_リに降_ル」聞_キに聞_キ、語_リに語_ル」ノ如シ。

(ヘ) 添_{フル}意ナルハ、「月_ニ村_雲花_ニ嵐」ノ如シ。

(ト) 「_ニ於_テ」ナドノ意ナルハ、「道_ニ聽_キテ途_ニ說_ク」朝_ニ道_ヲ聞_キテ夕_ニ死_{スト}モ」ノ如シ。

(チ) 「_ノ爲_ニ」因_テ」ナドノ意ナルハ、「花_見に行_ク」多_キに驚_ク」人_手に死_ヌ」人_に擊_{タル}」ノ如シ。

(リ) 「よ_就きて」ナドノ意ナルハ、「行_フに好_シ」悟_ルに易_シ」ノ如シ。

○此外ニ、明_ニ詳_ニ時_ニ案_ズル_ニナド_ノに_ハ、副詞ノ接尾語ト見_タリ。又、第三類ノ天爾波_ニモ_ニあり。

(四)を 事物ヲ處分スル意ヲ示スモノニテ、必ズ、他動詞ニ係ル、「書_を讀_ム」字_を記_ス」飯_を食_フ」水_を飲_ム」ノ如シ。

○_コン_ハ、羅_甸ノ Accusative、或_ハ、英_ノ Objective case (賓格)ニ當_ツベキガ如シ。

又、自動詞ニ係ルモノハ、其意義異_ナリ、「國_を去_ル」人_を別_ル」ノ如キハ、よりノ意ヲナシ、「路_を行_ク」門_を過_グ」ノ如キハ、其動作ノ行ハルル地位ヲ示スマデナリ(第三類天爾波ニモ、感動詞ニモ、をアリ)

(五)と

指ス所アル天爾波ニテ、其意義、數種アリ。

(イ) 指定スル意ヲ示スモノハ、「コレと定ム」ソレと思フノ如シ。

又、一文、一句ヲ、名詞ト見テ承クルハ、「雪降ル」と見ルハ無シ、といフ

我ハ行カジと思フアリ、ヤ、と問フ無キカ、と疑フノ如シ。

又、「此ニ」と是レヲ、「我ハ」と彼ツ、と斯く、と誰ガいふ忘草、何をか種

と思ひしに「ナド用井ルハ、畧文、畧句ヲ承ケタルナリ。

(ロ) 「の如く」ノ意ナルハ、「雪と散ル霜と消ユ」此川に紅葉と浮きて、さしかへる月日のみ、流るる水と、早ければ」ノ如シ。

(ハ) 「として」ノ意ナルハ、「花と見ル霜と置ク」ノ如シ。

(三) 又、重用スル動詞ノ間ニ入りテ、またノ意ヲナスコトアリ、「アリとアル」秋風の吹きと吹きぬる山の端に、入りと入りぬる、月なれば」ノ如シ。

此語、動詞、形容詞、助動詞ヲ承クルキハ、其直説法、又ハ、命令法等ノ、意ノ切

ルル所ヲ承クルヲ則トス。サレバ、「落つ」とは見れど、音の聞えぬ「黒鳥の下に、白波を寄す」といふ「海賊追ひ來」といふ「濡る」とは無した「心憂し」と宣ふ「日は暮れぬ」と思ふは云云「ナド、尋常直説法ヲ承クルヲ通則トシテ、扱、又「花ッ落ツル」と「花コソ落ツレ」と「花落チヨ」と「ナド、ぞ、なむ、や、か、ノ直説法、こそノ直説法、命令法等、皆、其意ノ切ルル所ヲモ承ク。但シ「恨みて歴る」と、人や見るらむ」出づる、とも、入る、とも見ゆる「一聲に、明くる、と聞けど、時鳥」ナド用井ルハ、間ニアル、ベキ名詞ヲ畧ケル筆法ナリ、混ズルコト勿レ此語、又、上畧ノ筆法ニテ、語句ノ首ニ用井ルコトアリ、「と見、斯ウ見」とモスレバ」とニ斯クニ」と「バカリ思フ」ノ如シ、是等、皆、上ニアルベキ語句ヲ畧ケルナリ。

○副詞ノ接尾語ニ用井ル、ほとほと、叩ク」からからと、笑フ」ナドノとモ、指定スル意アリ、此條ノとヨリ出デタルモノナリ。

○と 是ハ、指定スル意ハ、前項ノとニ同ジケレド、用法ハ甚ダ異ニシテ、

語句ヲ並ブルヲ、接續詞ノ如シ。(漢字ノ與ノ字ニ當レリ)而シテ、全ク上ノ語ニ附着シテ、下ニ再ビ、第一類ノ天爾波ヲ履ム。例ヘバ、「鄒魯戰フ」月と花とノ眺メ「内と外と」ニアリ「彼と此と」ヲ比ベテ「京と難波と」へ趣カムト「ナド」ノ如シ。又、「書ヲ讀ム」ト字ヲ書クト「嬉シキ」ト「悲シキ」ト「疾ク明けぬると遅ク暮ると」ナド用井ルハ、例ノ名詞ヲ畧ケルナリ。又、數語ヲ連テテモ用井ル、「流れ木と、立つ白波と、焼く鹽と」ノ如シ。

○此ノトハ、幾語重ナリヲモ、必ズ加フルヲ則トス。然ルニ、二處以上ナルヲバ、常ニ畧スルコトアルハ、非ナリ。例ヘバ、「鹽酸と硫酸と」ニテ「硫酸」ヲ注グ「ナド」記ストキハ、「鹽酸」ト「硫酸」ト「鹽類」ト「注グ」ノ意トモナリ、「鹽酸ノ鹽類」ト「硫酸ノ鹽類」トヲ注グ「ノ意」トモナリテ、大ナル誤ヲ生ズベシ。

(六) 方向ヲ示ス天爾波ナリ。例ヘバ、「前へ進ム」「左へ向フ」「奥へ深シ」「西へ長シ」ノ如シ。此へハ、方向ヲ示スモノニテ、前ノ「ノ」地位ヲ示スモノト別ツ。一文中ニテ用井分ケタルハ、「僧正遍昭が許に、奈良へまかりける」

時「桓馬の國へまかりける時に、二見の浦といふ所にとまりて」ノ如シ。

○此ノ「ト」ニテ混用スルコトアリ、心スベシ。サレバ、「前に進ム」「左に向フ」ハ非ナリ、「前へ進ム」「左へ向フ」ナルベシ(方向)又、「山へ登ル」「舟へ乗ル」ハ非ナリ、「山に登ル」「舟に乘ル」ナルベシ(地位)然レドモ、「に」ノ方は、方向ニ用井タルコト無キニシモアラズ、「東の方」に行きて、住む所求むとて「陸奥の國に、すすろに行き至りにけり」下野にまかりける女に「竹生島にまうで侍りける時に」ナドアリ。サレバ、「へ」ハ、方向ニ限リ、「に」ハ、地位ニモ、方向ニモ、通ハシ用井ルトスベキカ。

(七) より から 共ニ、二ツノ間ニ移リ行ク意ヲ示スモノニテ、地位ニモ時ニモイフ。漢字ノ自從等ノ字ニ當ル、

「人より受ク」「敵より奪フ」「彼方より來る」「後より襲フ」「天より地ニ落ツ」「夫レより程歴テ」「去年より今年マテ打續キテ」ノ如シ。又、下、名詞ニ接スルモアリ、「此處より東ノ方ハ」「咲き初めし時より後は」ノ如シ。

「明日からは若菜摘まむと」「明けぬから、船を引きつの上れども」「時鳥、まだ

鳴かぬから待たるべらなる」ノ如シ。(ゆゑにノ意ナルからハ、コレト異ナリ、ソハ、接尾語ノ中ニ收メタリ)

○Onハ、羅句ノ Ablative case、奪格ニ當ツベキカ。次ナルハ、英ノ前置詞ノ than ノ意ナリ。

○より 是ハ、比ベテ科ヲ定ムル意ヲ示シテ、前ノよりト異ナリ、「山より高シ」コレより善シ」命より、惜シ」彼より後ル」ノ如シ。又「かねてより」今までよりは「獨見むより、人と見む」憂きはものかは、戀しきよりは」ナド用弁ルハ、間ニ語句ヲ省ケルナリ。又、下、名詞ニ接スルアリ「花より先ぞ、知らぬ我身は」鳥より先よ、鳴き始めつる」ノ如シ。又、意義、一轉シテ、其物事ニ限ル意ヲナス、「我より外に、人あらじ」風より外に訪ふ人も無シ」ノ如シ。更ニ、畧シテハ、「枕より、外にまた知る人も、無き戀を」ノ如シ。

(八) まで 至リ及ブ意ヲ示スモノナリ。例ヘバ「筑紫までまかる」都まで送りまうして」行先の事まで思し知らして」ノ如シ。又、意稍轉ジテ、さへノ意ヲナス「アリ、天の川、冬は空まで、こぼるらし」跡まで見ゆる、雪のむらぎえ」ノ如シ。又「至る程に」ノ意ヲナス、「斯くまで精しき」まで思はは花と見るまで、雪ぞ降りける」月と見るまで、降れる白雪」物や思ふと、人の間ふまでノ如シ。(是ハ、間ニ、程トイフ語ヲ畧シタルニテ、即チ程ノ意ヲナスモノナルベシ)

○第三類 此類ノ天爾波ハ、上ニ、各種ノ語ヲ承ケテ、其意ヲ、下ナル動詞、形容詞等ニ通ズ。其承クル所ノ語、一定セザレドモ、亦、慣用ノ用法アリテ、妄リニ承クベカラズ。左ニ、逐條ニ、其意義ヲ釋キ、且、其用例ヲモ、若干、掲クベケレバ、其承クル所ノ種種ナルヲ見ルベシ。

(九) は 事物ヲ各自ニ差別スル意ノモノナリ。

「人は去リ、我は留ル」柳は緑ニ、花は紅ナリ」見ルは善シ」行キはセズ」善キは取ラム」樂シクは思フ」學バムは好シ」行カズはアルベカラズ」取リテは見ム」斯クマデは無シ」然はアレド」如何はセム」是ヨリは高シ」我コソは見メ」京へは行カム」我ノミはアリ」花トは見ム」感動詞ニモはアリ、混ズベカラズ)

○ば 音便ニテ前項ノばチ濁ルモノナリ。

「コレナハ取ラム、カレナハ捨テム」行カズンハアラズ爲ズンハアルベカラズノ如シ。(接續法チ形ヅクルハト異ナリ、混ズベカラズ)

(二〇)も 事物ノ同ジ狀ナルチ並列スル意ノモノニテ、接續詞ノ如シ。(漢字、亦ノ字ニ當ル)

「をどとしも、こどもことしも、をどとひも、きのふもけふも、吾が戀ふる

君」行くもアリ、歸ルもアリ」行キもセズ、歸りもスマジ」長キもアリ、短キ

も見ユ」善クもアラズ、悪シクもナシ」父トも思ヒ、師トも仰グ」寐テも思

フ」我ニも許セ」家へも歸ラズ」東ヨリも來ル」(感動詞ニモもアリ)

(二一)ぞ 多クノ中ニテ一ツチ指ス意ノモノナリ。「夫」ト指シタイフ語ノ

濁レルナラム「誰」トヤ行キセ」ナド清ミタイフ語モ、即チ是レナラム」此語

ノ文中ニ入ルキハ、其文末ノ動詞、形容詞、助動詞等ノ結法(Conjunction)ニ

ハ、必ズ其第二變化チ用井ル、左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。(前ノ動詞形

容詞、助動詞ノ各條ノ表チ參見セヨ)

「花ぞ落ツル」月ぞ澄メル」行クぞ善キ」行キぞワヅラニ」長キぞ勝ラム」早

クぞ過グル」然ぞ覺ユル」コレナぞ取ルベキ」我が世トぞ思フ」見テぞ知ル

見テモぞ思フ」我ハぞ戀フル」西へぞ行カム」袖サへぞ照ル」去年ヨリぞ見

シ」

又、指シ示ス意ニテ、言語ノ末ニ居ルコアリ。

「思ふがことは、思ふらむやぞ」斯くあるは、世のつねぞ」物思ふころぞ」思

ふばかりぞ」妹待つらむぞ」鳴きわたらむぞ」

又、同ジ用法ナレド、上ニ疑フ語アルキハ、詰問スル意トナルアリ。

「誰れ聞けど、鳴くかりがねぞ」言フハ如何ニぞ」何トスルモノぞ」誰が子

ぞ」誰ぞ、ト清ムモ、コレナリ」

○し ぞニ似テ、指ス意アリ。用法、古シ。

「神し知らなむ道し無ければ」歎きしまる」獨し寐れば」猶し慕はゆ」今

し散るらむ身にしあれば散らでし止まるものならは「國はしもさば
にはあれど無きにしもあらず待ちにし待たむ舟をしぞ思ふ」音のみし
泣かゆかかれとてしも我とし言へは「過去助動詞ノきノ變化ノしト紛
ロ易シ、心スベシ」

但シ、其下ヲ結フ動詞、形容詞、助動詞ハ、常ノ如ク、第二變化ヲ用井ル、
ニ異ナリ。(前ノ用例ヲ見ヨ) 又、「時しもあれ今日しもあれ」ナド用井タル
ガアルハ、あれノ上ニ、こそヲ省ケルナルベシ。又、「今しはし」斯くのみし、
戀ひしわたらは」ナド、重用セルモアリ。

○此ノしヲ、從來、休メ詞ナド稱シテ、意無キ天爾波トセルハ、誤ナラム指ス意アリナドニ似タ
ルコト前ノ用例ヲ味ヒテ知ルベシ。歌ノ五文字ノ句ニ、身にしあれば」ナド加フルコト常ナ
ルガ、コレ不用ノ語ナラバ、字餘リニ加フルニ及ブマデ、必ず、其意義ヲ添ヘズシテハ、カナハ
ヌ場合ナレバ、加フルベシ。

(二二) なむ ぞニ似テ、緩ク指ス意ノモノナリ。(此語、散文ニ多ク、歌ニハ少

シ) 此語モ、文中ニ入ルキハ、其末ヲ結フ動詞、形容詞、助動詞、スベテ、其第
二變化ヲ用井ル、ぞニ同シ。

「我なむ行くべき」これなむをれなる「無きなむよされる」善くなむ見ゆる」
またなむ來べき」斯くなむある「風になむ散る」これとなむ定むる」人をな
む恨むる」遇はでなむ往ぬる」

○なも なむニ同ジクテ、古シ「神になもありける」ナド用井ル、是レナリ。

(二三) こそ 多クヲ捨テテ一ツヲ取ル意ノモノナリ。(語原ハ「是ハ其ナリ」
トイフ程ノ意ナリト云) 此ノ天爾波ノ、文中ニ見ハルルトキハ、其末ヲ結
ブ所ノ動詞、形容詞、助動詞ノ直説法ハ、スベテ、其第二變化ヲ用井ル。左ノ
用例ヲ見ルベシ。(尚、前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲ參見セヨ)

「人こそ見えぬ」路こそ無けれ」行くこそ好けれ」行きこそすれ」樂しくこ
そ覺ゆれ」資しきこそ憂けれ」斯くこそ思へ」またこそ遇はめ」えこそ行か
され」行きこそ見め」花をこそ見れ」舟にこそ乗れ」ありとこそ見ゆれ」

然もこそは見ゆ行かであれされはあそ禁めつれ」相見むあをの
みあそ思へ」人知れずあそ思ひをめしか」わか君をだよあそ、形見とも
見たてまつれ」

(二四) だよ 輕キヲ舉ゲテ、餘ノ重キヲ言外ニ引證スル意ナリ。(語原ハ、
「唯ニ」ノ約ニモアラムカ)

「憂き身をは、我だにいとふいとへただ、そをだよ同じ、心と思はむ」(新古)
「夢のごと、なりよし君を夢だよ、今ハ見るだよ、難くもある哉」(六帖)「母
御息所を、かけたよおほえ給をぬを松の雪だよ、消えなくよ」さらよ、入れ
だよ入れず「見だよおくり給へかし」今暫しだよおはせなむ」女御だよ
言をせずなりぬる「鳥だよ如カザルベケムヤ」

又「蔓草だも猶除クベカラズ、況ヤ君ノ寵弟ヲヤ」ナドノだよハ、だよもノ
畧訛ナリ。

(二五) すら やばりなほナドイフ意ナリ。(語原ハ、「夫」ノ轉ニテ、指ス意ア

ルベシ) サレド、中古ヨリハ、だよト同意ニモイヘリ。

「あどとをぬ、木すらいもとせ、有とふを、ただひとり子に、あるが苦し」
「芳葉」草木すら、春にいなべて、逢阪の「春日すら、長居しつると」我が身す
ら容レラレズ」

(二六) さへ 重キガ上ニ、又、添ヒ加ハル意ニテ、(語原ハ、「添」ノ轉カ、或ハ、
「其上」ノ約ナラムトモイフ)だよトハ、引證ニ、交互輕重ヲ差アリ、混ズベカ
ラズ。

「現よ、さもあそあらめ、夢よさへ、人目をもると、見るがわびしさ」(古今)
「梓弓、おして春雨、けふ降りぬ、あすさへ降らは若菜摘みてむ」(古今)「まけ
てとやましの御心さへ、そひて」行交ふ人の、袖さへを照る」(召よさへ)あま
たりつるを、涙をさへへさほして臥したり」

(二七) のみ 一アリテニ無キ意ナリイフ。
「我のみ知ル歎キのみシテ」思フのみナリ」好きのみ取ル」悲シクのみ思

フサテのみアラムヤ斯クのみアラハ言ハテのみアルベキカ家ニのみ
アリ天ナのみ頼ム我トのみ知ル前へのみ進ム
漢籍讀ノ上ニ「而已」耳ナド訓ジテ言切ルハ下略ノ法ナリ。

(二八) ばかり()意粗のみニ同ジ。語原ハ「量」ニテ、量ノ限レル意ナラム。
「今日ばかりとぞ、田鶴も鳴くなる」我ばかりアリ「歎クばかりナリ」憂ク
ばかり思フ夫トばかり知ル「斯クばかりアラム」ほどノ意チナスばかり
ハ、接尾語ニ入ル

(二九) や 上ノ二語共ニ指シテ疑フ意ノモノナリ。此二語、文中ニ入ル
(三〇) か 其ハ、其下ヲ結ブ所ノ動詞、形容詞、助動詞ハ、共ニ、其第二變化
ヲ用井ルヲ定則トス。左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。(尙、前ノ動詞、形容詞、
助動詞ノ各條ノ表ヲモ見ヨ)

「春や來ル」花や咲ク月や物を思をする戀ひやわたらむ「行きやスル」
「惜しくや」をあらぬ百キや花ナル「知ラズやアル」斯クや思フ「花チや見ム」

人ニや遇ハム生キモやスル散ラテヤアルベキ

「誰か見ルベキ」夫かズル孰レか勝レル「何處ニかアル」何處へか行カム
「何チか取ル」何トかスベキ「四年バカリか歴ニケム」何時マテか待タム「如
何デか知ラム」

又、二語共ニ、語ノ末ニ居テ言切ルコアリ、多クハ、問掛クル意チナス。

△有りや「無シヤ」聲ハ聞ユヤ思ヒ出ヅヤ夫ト言ハムヤ來ムヤ來ジヤ

「我か」人か「有ルか」無キか「聞ユルか」出ヅルか

ヤ、かノ、動詞、形容詞、助動詞ノ下ニ連ルキハ、ヤハ、必ず、其第一變化ニ連リ、
かハ、必ず、其第二變化ニ連ルヲ定則トス。前ノ用例、並ニ、次ノ表ニ因テ
知ルベシ。助動詞ハ、前ノ助動詞表(第三表)ニ就キテ、其第一變化ト、第二
變化ト、ニ連チテ解スベシ。

○一音ノ動詞、助動詞ニハ、其別ヲ誤リ易シ。「得ヤ」得ルか「歷ヤ」歷ルか「來ヤ」來ルか「爲ヤ」爲ル
か「行カザヤ」行カヌか「行キキヤ」行キシか「ナド、必ず、其第一變化ト、第二變化ト、ヲ用井分クベ

ニテ、未定ノ意ヲ成シ、其第三變化ニ連ルルハ、濁音トナリテ、既定ノ意ヲ成ス、是レ、其別ナリ。例ヘバ「受クとも」爲とも「有リとも」ナドハ、未定ナルニイヒ、「受クレ」爲レ「有レ」ナドハ、既定ナルニイフガ如シ。又、形容詞ニモ、其第四變化ト、第三變化トニ連リテ、未定ト既定トナ別ツ、而シテ、其意、全ク同シ。下ノ表ノ如シ。又助動詞モ、前ノ助動詞ノ條ノ第三表ニ於テ、其變化ノ動詞ニ似タル

規不則動詞		規不則動詞		規不則動詞		規不則動詞		規不則動詞		規不則動詞									
第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類								
押ス	受ク	報ユ	着ル	來	爲	死ヌ	有リ	善ク	惡シク	押セ	受クレ	報ユレ	着レ	來レ	爲レ	死ヌレ	有レ	善ケレ	惡シケレ
とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも	とも
第一變化										第三變化									

モノハ、(一ヨリ23マデ)其第一變化ニテともニ連リ、第二變化ニテともニ連リ、又、形容詞ニ似タルモノハ、(24以下)其第四變化ニテともニ連リ、第三變化ニテともニ連リテ、各、未定既定ノ別ヲ成ス。正ニ、動詞、形容詞ニ同ジ。第二表ニテ、連續セシメテ、解スベシ。

①受クとも 爲とも 有リとも ナドナルベキヲ、動モスルハ、受クルとも 爲ルとも 有ルとも ナド用井ルハ、非ナリ、或ハ、トテ容シテ、受クルも 爲ルも 有ルも ナド用井、又、或ハ、善クとも 惡シクとも ナルベキヲ、善クも 惡シクも ナド用井ルハ、愈、非ナリ、注意スベシ、もノミニテハ、確ノ字ノ意ヲ成サズ。

(二三)がにを 三語共ニ、思フニ違ヒテ意ノ反ル意ナイヒ、皆、動詞、形容詞、助動詞ノ第二變化ニ連ル。

「行きしが逢はず」春とはなりつるが、空はまだ寒きに「陸奥の、志のおもぢずり、誰故に、亂れむと思ふ、我ならあくに」古今「庭の面は、まだかわかぬに、夕立の空、とりけなく、すめる月哉」新古今 又「故に」ノ意ナルハ「ただ

後れじと思ひつるに、人目も知らずばしられつるを枕草子「雨降れど露も漏らじを笠取の山はいかでか、もみぢしぬらむ」古今「つひに行く、道とはかねて聞きしかど、きのふけふとは、思はざりしを」古今

(二四)で 事終ハリテ、後ニ移ル意ナイフ。例ヘバ、「春過ぎて、夏來たるらし」雨降りて地面マル「日暮レテ」路遠シノ如シ。漢字ノ而ノ字ニ當ル此語ハ、過去ノ助動詞ノつノ第五變化ナルテナレド、稍趣ヲ變ズル所アリテ、接續詞ノ如クニモ用非ラルレバ、別ニ掲ゲテ、天爾波ニ列テタリ。又、形容詞ノ第五變化ニ連テテ、「水近くて風涼シ」心嬉シクテ、獨リ笑ム「ナドイヒ、打消ノズ」ニモ連テテ、「君來ずて、年は暮れよき」ナドイフハ、皆其間ニありテ畧セルナルベシ。

○左ノ數語ハ、此條ノテナ、他語ト重用スルモノナルガ、慣用、久シクシテ、一ノ天爾波或ハ、接續詞ノ如クナレリ。類ヲ以テ、此ニ列ヌ。
以テ 第一類天爾波ノよト、助動詞ノつノ變化ノテトニテ、其間ニ畧語

アルナリ。「よ於て」ナドノ意ナルハ、「京よて遇フ」田舎よて見ル「因て」ナドノ意ナルハ、「筆よて書ク」水よて洗フ「よアリて」ナドノ如キハ、「頭ハ人よて身ハ魚ナリ」家ハ昔よて人ハアラズ「よ爲シて」ナドノ意ナルハ、「月影ヲ、色よて咲ケル、卯ノ花ハ」ノ如シ。

して 「ありて」ノ意ナルハ、「長クして」田シ「斯クして」別ル「巧ニして」速ナリ「答ヘズして」去ル「もて」よて「ノ意ナルハ」米キして返リ事ス飯粒して鯛釣ル人ナして送ラシム「二人して」結ビシ帶ナ、一人してよして 「よありて」よて「ノ意ナリ。都よして遇ヒケル人」人よして鳥ニダニ如カザルベケムヤ」

とて 第二類天爾波ノよト、助動詞ノつノ變化ノテトノ間ニ、畧語アルナリ。「と言ヒて」ナドノ意ナルハ、「サリとて」アレンバとて「と思ヒて」ナドノ意ナルハ、「花見ニとて出テ立ッ」書ヲ讀マムとて机ニ凭ル

(二五)で 打消ノ助動詞ノズト、前條ノテト、約マレルナリ。サレバ、動詞

ノ第四變化ニ連ルコトニ同シ。「行カデアリ」歸ラデアラキム」ノ如シ。
 (二六) つつ、過去ノ助動詞ノつヲ重用スルモノニテ、動詞ヲ「行ク行ク」泣
 ク泣ク」ナド重用シテ副詞トスルト、用法同ジ。例ヘキ、「行キつゝ見ル」雪
 ハ降りつゝアリ」ハ、「行キつゝ見ル」降りつゝ降りつゝアリ」トイハムガ如
 シ。

第一類ナル名詞ニ屬ク天爾波ハ、羅匈名詞ノ格トイフモノニ似タリ、羅匈名詞ノ格ハ、語尾ノ
 變化ニテ成レリ、我が第一類天爾波モ、名詞ノ語尾ノ變化ト見テ、之ヲ格ト立テムモ可ナルガ如
 シ。サレド、我が天爾波ニハ、意義ニ異様ナルモノモアリテ、羅匈ノ格ト合ハヌモ多ク、縦ヒ合
 ハズトモ、我ハ我ニテ、名詞ノ格ヲ、特ニ數種ニ創制セムモ然ルベケレド、切、其夥多ナル意義ノ
 アル限リ、悉ク之ヲ格ト立テムモ、妥當ナラザルヲ覺ユ。且、羅匈ノ格ノ變化ハ、名詞ノ種類ニ
 因テ、其體ヲ異ニスルモノモアリテ、固ヨリ離ルベカラザルモノナレバ、(殊ニ、餘國ノ名詞ノ格
 ナ示スニ形ナク、無形ノ地位ニテ、則チ立ツルモノノ如キハ)名詞ニ就キテ、類ヲ以テ規定チ立
 ツルモ、其理ナレドモ、我が天爾波ニハ、特ニ一定ノ成形アリテ、且、何レノ名詞ニモ一様ニ接ス
 ベク、コレヲ名詞ノ語尾變化ト見テモ、何レノ名詞モ其變化ハ、がのにをを、よりまで等ニ

テ、千篇一律、サレニ異様アルコトナシ。サレバ、羅匈ノ格ハ、足ノ如ク、其名詞ニ生得シテ、離ル
 ベカラズ、我が天爾波ハ、展ノ如ク、脱シテ衆ニ通用スルコトヲ得ベシ。且、コレヲ別語トスル
 方、其意義ヲ説クニ、錯雜ヲ避クルコトヲ得テ、教フルニモ、學ブニモ、共ニ便捷ナルガ如ク思ハ
 ル、因テ、今ハ本文ノ如シ。

第二類天爾波ハ、洋語ニテ言ヘバ、副詞ニ似タルモアリ、前置詞、接續詞ノ趣ナルモアリ、或ハ名
 狀スベカラザルモアリ。然レドモ、其文中ニ立チテ、上ニ種種ノ語ヲ承ケ、下ハ動詞、形容詞等
 ニ係リテ、其意義ヲ達スルコトハ、何レモ、容同趣ナルモノニテ、サラニ相別チ難シ。此一類ノ
 語實ニ、國語ノ言類中ニテ、一種殊様ノモノナリ。

第三類ノ天爾波ハ、上下、皆動詞、形容詞、助動詞ニ係ルモノニテ、スベテ、其接續法ト立テムモ、可
 ナルモノノ如シ。然レドモ、尙分離シテ、何レノ動詞、形容詞、助動詞ニモ、通用連續セシムベキ
 コトハ、第一類ノ如シ。(篇中、此類ノばヲ、獨リ別ニ接續法ト立テタルハ、動詞、形容詞、助動詞ノ
 其變化ニ着キテ、離ルベカラザル語姿ナレバナリ)

扱以上三類ノ語ハ、皆固ヨリ、獨立ニ用非ラズ、而シテ、其他語ニ係ル規定ニ差異コソ、ハズ
 レ、其語姿ノ成立ヲ概見スルニ、三類共ニ、究竟、同臭味ノモノナリ、因テ、今ハ、類ヲ以テ別チテ、天
 爾波ノ一部門ニ總ベタリ。

○本文、天爾波ノ外ニながら、がてら、がてり等、從來、天爾波中ニアリシモノ、尙アリ、是等、本篇
 ノ類別ニ從ヘバ、(種種ノ語ニ屬クモノナレバ)第二類中ニ入ルベキニ似スレド、今ハ、既別シテ、

接尾語中ニ收メタリ。サルハ、第二類ノ天爾波ハ、其語、全ク上下ノ語ニ粘合セズシテ、試ミニ
コレヲ文中ヨリ加除セムニ、唯、其語ニ有アル意義ノ加除アルノミニテ、原文、サラニ移動スル
コト無く、上下、ソノママ連絡シ、依然トシテ文ヲ成スベシ、前ニ掲ゲタル例語句中ニ就キテ、
加除シテ試バ、必ず其然ルヲ知ラム。然ルニながら、がてらノ類ハ、全ク其上ナル語ニ粘合シ
テ、語勢ヲ變セシメ之ヲ加除セムトスレバ、原文ニ移動ヲ起サザルヲ得ズ、是レ其別ナリ、尙、後
ノ接尾語ノ條ヲ見ルベシ。

感動詞(詠歎)

感動詞ハ、喜怒哀樂等、凡ソ、人情、感動スル所アリテ發スル聲ナリ。例ヘバ、
「^{カシコ}あら喜ハシ」最も畏シ「^{カシコ}悲シキかな」ナドノ^{カシコ}あらもかなノ如ク、スベテ、其言ヲ
述ブルノミニテハ、意ヲ盡サザルニ添ヘテ、發スルモノナリ。感動詞ハ汎ク
種種ノ感情ニ通ジタイフアリ、専ラ一感情ニ局リタイフアリ。其用法モ、言
語ノ上ニ立ツアリ、中間ニ入ルアリ、下ニ添フアリ、而シテ、他語ニ連續スルニ
就キテ、亦、各、一定ノ慣用法アリ。左ニ感動詞ノ著キモノヲ擧ゲテ、其用例ノ
若干ヲ示サム。

○言語ノ上ニ立ツモノハ、

あ ああ 「ああかしこしや」

あら 「^{アツク}あら熱や」「^{ムシク}あら無慚や」

あな 「あなうらやまし」「あな苦し」「あなかしこ」

あはれ 「あはれあなおもしろ」「あはれおも寒き年哉」

いで 「思ヒ起ス時ニ發ス。」「いで我を、人などおもを」「いで御消息聞えむ」「いで

何ぞ、とて取りて見れば」

いさ 「誘ヒ立ツル時ニ發ス。」「鏡山、いさ立寄りて、見て行かむ」「いさ汲み見て

む、山の井の水」「いさ櫻我も散りなむ」「いささせたまへ」

やよ 「呼ビカクル聲ノヤトよトヲ重テタイフナリ。」「やよ如何ニ、行方も知

らぬ」「やよいづかたへ、行きにけむ」「やよや待て、山時鳥、言傳てむ」

○言語ノ中間、或ハ下ニ入ルモノハ、

も 「^{カシコ}からくも我は、老いにける哉」「玉にもぬける、春の柳か」「世をばやも、春に

しあれや「ひとりかも寐む雪かも降れる」移りも行くか「知らずもあるかな」
 いとも畏し「家やもいつく花とやも見む」またも來む「時しもあれ」無きに
 しもあらず
 草のはつかに、見えし君はも「いやとほさかる、我身かなしも」三笠の山に、
 出でし月かも「人は來ぬかも」枕さびしも「忘れかねつも」行方知らずも「春
 立つらしも」
 や「花とみや見む年ばや歴なむ」吾や思はじ「取りやかはさむ」戀ひやわた
 らむ夢路にさへや「生ひ茂る」我はもややすみこ得たり
 「ありがたの世や」あなあやにくの、春の日や「行きぬとかや」行きけるぞや
 吾嬌はや「立つを暫しや」と召しよせて「大原や」さしほの山「更科や」城捨山
 難波津に開くや「この花」時鳥啼くや「五月の」
 いとやすらかなる御ふるまひなりや「耳馴れ侍りけりや」と聞え給ふ「いみ
 じくぞあるや」ははひぞ人に似ぬや「と打ちこめきて」あぢきなきや「惜むと

もかたしや「恨みつべしや」思しやる方ぞ無きや

○動詞・形容詞・助動詞ノ第二類天爾波ノヤ疑ヒシノ下ノ結法トナルトキハ、必ズ、其第二變
 化ヲ用井、又、之ニ反シテ、其ヤノ動詞・形容詞・助動詞ノ下ニ屬クトキハ、必ズ、其第一變化ニ屬
 クヲ規定トスルコト、前ニモ述ベタルガ如シ。サルニ、此條ノヤハ、其場合ニ因リテ、種種ナリ、
 是レ、天爾波ノヤト感動詞ノヤトノ別ナリ。尙善ク用例ヲ見テ覺ルヘシ。

言ヒカクル意ナルハ、(よ)ノ如シ「匂ふや馨るや」とみな人は、花や蝶や。とい
 そふ日も「海賊や」といひて、扇を投げすて「行ケや」打テや

接續詞ノ如ク用井ルハ、「簫や琵琶や」笙の笛、筆、築など、吹きあはせたるは「
 反語に用井ルハ、「思ひきや」ひとり行かむや「況や」コレナ言ハハきヤ」人ニシ
 テ、鳥ニダニ如カザルベケムヤ」

又、「行かばや」見は、や「ナドハ、間ニ」よからむ「ナドイフ語ヲ畧シタルニテ、
 即チ希フ意ヲナス。

を「古キ感動詞ナリ。「年頃を、住みし所を、名に七負へば」昔も今も、知らず

とを言はむ「香をたよにはへ」濡れてを「行かむ」心こそ思へ「苦をあらみ」瀬をばやみ

「その八重垣を」妹待り我を「月夜清きを」船わたせを。と呼ぶ聲の「

〇言語ノ下ニ添フモノハ、

か「玉にもぬける春の柳か」空蟬の、よにも似たるか。櫻花のどかにもある

か

かな 前ノかニ、なチ重用シタルモノ。「夜半の月かな」水の聲かな「年を歴る

かな」見ゆるかな「薬しきかな」のどかなるかな「思はるるかな」以上、動詞、

形容詞、助動詞ニ添フキハ、必ズ、其第二變化ニ添フ。

かし 念チ推シテイフ意ノモノ。「さばかりぞかし」見ゆるぞかし

見ゆかし「聞ゆかし」いとよう覺えたりかし「難かるべしかし」あはれなりか

し「さは思ひつかし」打ちひとみぬかし「行き給ひけむかし」知らずかし「さ

るけはひもありきかし」思ふ心の、残るらむかし「おはやけの世繼とぞ言ひ

侍りしかしな「斯くぞ覺え侍るか」絶えずなむおはしますめるかし「えこ

そせされかし」思ひ知れかし「疾く行けかし」いざなまへかし「三種ノ直説

法、命令法等、スベテ、語句ノ切レタル後ニ添フ。

な「彼ぞ智の少將な」蟬の聲聞けばかなしな「恨みつべしな」我は戀ひむな

忘れじな「知らずな」契りきな「移りにけりな」悪しとこそ思ひたれな「心憂

くてこそおはしたれな」いとこそ問へな「老いにけるよな」去りたるよな

は「いかかはせむは」風、あらあらしう吹きたるは「かくるるまで、かへり

見しばや

又疑ヒノやかニ添ヘテ、反語ニ用非ルハ、「我れ驚に、おどらましやば」再び

とだに、來べき春かは「思ひはつべき」涙かは

よ 呼ビカクル聲。「月よ花よ我こそ、人よ」このころほそよ「行ケよ」鳴ケよ

物を思ふよ「忘れて待ち給へよ」高砂うたひしよ「人の知らぬよ」忘れずよ、

またかはらずよ」又「我はよ」妹はよ「夢かどよ」頃かどよ」ナドハ、間ニ語チ

畧セルナリ。

が 専ラ希フ意ニイフ。「老いず死なすの、薬もが」あな戀ひし、今も見てしが」伊勢の海、あそふ海士とも、なりはしが」

がな 前ノがニ、なヲ重用シタルモノ。「妻呼ぶ聲を聞きしがな」得てしがな」見る由もがな」長くもがな」無くもがな」

がも 前ノがニ、もヲ重用シタルモノ。「常にもがもな」人にもがもや」

る 古キ感動詞ナリ。「我はさぶしる」我は待たむる」

感動詞ニハ、重用スルモノ多シ「やよ」かな」がな」がも」等ハ、前ニ擧ゲタルガ如シ。其他「あなや」「さや」「いさや」「やや」「行けよや」「いつはなも」「見せばやな」

老いにけるよな」常にもがもな」人にもがもや」かくるまでは、かへりみしはや」今更に雪降らめやも」ナド擧グルニ勝ヘズ。

尋常ノ語モ、感情ニ發シテ、感動詞トナルコアリ、「こはこはをも」「いかはこは」

いかは」こは」如シ。

○行かばや見ばやノ類ノばやヲ、從來、別ニ一語トセリ、サレド、行かば見ばハ、接續法ノ將然ニシテ、其間ニ、よからむ」ナドイフ意ヲ略シテ、希望ノ意ハ、其略セル語ニアルナルベシ、因テ、本篇ニハ、やノ條ニ收メタリ。又、ちどらまじやは來べき春かは」ナドノ「やは」かは」ヲモ、一語トセルガ多ク、是等ノや、かハ、疑フ意ノ天爾波ノや、かニテ、其下ノは、も」方ニ反語トナル意アルモノナラユ、又、ひどりかも寐む」出でし月かも」ナドノ「か」モ、疑フかニテ、も」ニ感情アルナリ、因テ、是等モ、皆、は、も」ノ條ニ入レタリ。

○副詞ノち、天爾波ノが、を、は、も、や、か」等ニ、感動詞ト同形シモノアリテ、動モスレバ混淆ス、注意スベシ。

○此篇ニ感動詞トイフモノ、從來ノ語學書ニハ、詠歎ノ詞或ハ、ながめ」ナド稱シテ、スベテ、天爾波ノ中ニアリ、サレド、別ニ自ラ一類ノ語ナシ、此ニ集メテ、一門ニ立テタリ。

○洋文典ノ釋語ニ、歎息詞(Exclamation)或ハ、間投詞(Interruption)ナドイフモノ、即チ感動詞ナリ。其間投トイフハ、言語ノ間、所在ニ投ゲ入ルベキモノナレバナリ。(投間詞ナルベシ)サルニ、我が感動詞ハ、言語ノ上ニ居リ、中ニ入り、下ニ添フナド、其用法ニ、各規定アリテ、而シテ、他語ニ移動チ及ボスコトモ少カラズ、宜シク慣用ノ法ニ從フベシ、或リニスベキニアラズ。

枕詞

枕詞ハ、言語ヲ一種異様ニ用井ルモノニシテ、其用法ハ、某ノ語ヲ言ヒ出デムトスルキ、他ノ某ノ語ヲ冠セシムルモノナリ。例ヘバ、山引く、黒き、ナドイフ語ヲ言ヒ出ヅルキ、其上ニ、「足引の山」梓弓引く、ぬはたまの黒き」ナド置クガ如シ。

枕詞ハ、古代ノ用語ニシテ、其用ハ、専ラ歌ノ口調ノ足ラザルナトトノヘムトスルニ起リテ、且ハ、言辭ヲ飾ルモノナリト云フ。然レドモ、諸ノ言語、皆、枕詞ヲ冠セシムベキニアラズ、諸ノ言語、皆、枕詞トシテ用井ルベキニアラズ、某ノ語ニハ、某ノ語ヲ冠スト、自ラ局レル所アリ、足引のトイフ枕詞ハ、山トイフ語ニ用井、ぬはたまのトイフ枕詞ハ、黒きトイフ語ニ用井ルナドニテ、其所用モ、唯、其冠スベキ語ニ係ルノミ、他語ニハ關セズ、又、之ヲ用井ルト用井ザルトハ、其場合ニ因ルノミニシテ、一定ノ則アラズ。而シテ、古代ノ用語ナルガ

故ニ、其意義詳ナラザルモノモ多シ。

枕詞ノ意義ハ、解スベキト、解スベカラザルトアリ、高光る日、天飛ぶや雁、刈菰の亂る、梓弓引く、玉櫛筒開く、菅の根の長き、ナドハ、其意義知ラルベントイヘドモ、久方の天、玉鐙の道、山百敷の大宮、ナドハ、強ヒテ解キタルモアランド、諸説區區ニシテ、到底、定メ難ク辨ヘ難シ、サレバ、深ク意義ヲ求メズシテ、唯、某ノ枕詞ハ、某ノ語ニ用井ルモノトノミ知リテ、先ヅハ事足ラヌベシ。

枕詞ハ、多クハ、上古ノ用井ニ出テテ、降リテモ、奈良ノ朝ノ頃ニ言ヒ出デタリト見ユルモ少シ。今ニ傳ハレルモノ、其數、數百アリ、而シテ、今世ニ在リテモ、和歌ニハ、専ラ之ヲ用井レドモ、文章ニハ、其體ノ古キモノニノミ用井ル。○枕詞ヲ冠スルハ、名詞、動詞、形容詞、副詞ニ限ルガ如シ。名詞ニ係ルモノハ、「久方の天」あらがねの土「たらちねの母」ちはやぶる神「百敷の大宮」玉鐙の道「あらたまの年」ノ如シ。動詞ニ係ルモノハ、「天雲のたゆたふ」刈菰の亂る「篠の目の忍ぶ」梓弓引く「玉櫛筒開く」ノ如シ。形容詞ニ係ルモノハ、「ぬは

たまの黒き真木柱太き菅の根の長きノ如シ。副詞ニ係ルモノハ、「まののめのはがらほがらと」つがの木のいやつきづきに」ノ如シ。又、數語ニ通用スルアリ、梓弓ハ、引く、張る、射る、本、末、等ニ用井、十寸鏡ハ、照る、磨く、清き等ニ用井、玉櫛筒ハ、開く、蓋、與、等ニ用井ルガ如シ。又、地名ニ係ルモノハ、「空見つ大和鶏が鳴く東細波や滋賀神風の伊勢あをいよし奈良ノ如シ、此類、尙多シ。

○枕詞ハ、二語、五音ノモノ、最モ多ク、上ニ列擧セルモノニ就キテ知ルベシ、希ニハ、三音、四音、又ハ、六音ノモノアリ。三音ナルハ、「千葉の葛野」ナドナリ、四音ナルハ、「空見つ大和押照る難波不知火筑紫新治筑波春日のかすが」名細し吉野」ナド、尙アリ。六音ナルハ、「木の暮關卯月牡牛の三宅權の音のつはらつはらに」ノ如シ。

かきくらし雨ふる川、みなど入りの藍分小舟さはり多み、波間より見ゆる小島のはまひさ木
久しくなりぬ、足引の山鳥の尾のしだり尾の長長し夜、ナド、十餘音ニモ餘レルヲモ、枕詞トス

ル説モアレドモ、是レ等ハ、謂ハユル序ニテ枕詞ニハアラザルベシ 又、再妹子に、衣かすがのよじき川、よしもわらぬが妹が目を見む、是等モ、吾妹子ヲ枕詞ナリトイヒ、或ハ、吾妹子ニ衣マデテ枕詞ナリトモイヘド、然ルトキハ、よじき川ヲモ、よしもわらぬノ枕詞トセズハアルベカラズ、是等モ、序、或ハ、言ヒ掛クナルベシ。

○枕詞ヲ畧シテ用井ルコアリ、「久方の(笑)星ぬはたまの(黒)夜」足引の(山)木ノ間足引の(山)嵐吹く夜」ノ如シ。又、「たらしねの母百敷の大宮」ナルヲ、「たらしねは、かかれとてしも」百敷や、古き軒端」ナド、其枕詞ヲ、直ニ母大宮トシテ用井タルモアリ、是等、枕詞ヲ久シク言ヒ馴レテ、終ニハ直ニ其下ノ語ニ代ヘ用井ルニ至レルナリ、「春日のかすが」飛鳥の明日香」ナルヲ、枕詞ノ字ヲ取りテ、直ニ春日、飛鳥ト讀ムニ至レルモ、是レナリ。

○又、語路ニ因リテ、他語ニ移スコアリ、「天飛ぶや輕の路」ハ、雁ヲ輕ニ轉ジ、「梓弓入る」ハ、射るヲ入るニ轉ジ、「津の國の何は思はず」ハ、難波ヲ何はニ轉ジ、「山城の常に相見む」ハ、鳥羽ヲ常に轉ジ、「陸奥の忍ぶ」ハ、信夫ヲ忍ぶニ轉ズル

ガ如シ。

○又語句ヲ隔テテ用井タルアリ、ぬはたまの、甲斐の黒駒、梓弓、おして春雨今日降りぬ、朝開き、入江船なる、權の音の足引の、この傍山ノ如シ。

○縣居ノ翁ノ冠辭考ニ云、こそ、或人は、まぐら詞をいふるを、荷田大人は、かうむりことばといひつ、實に、枕詞をては、古きみやび言ども聞えず、(要)物を上に置くことを、冠らすといふも、古ノ今に通れる語なれば、これによれり、(要)公望が日本紀私記に、かの「いすくはし」ちはやぶる、なとやうのこゝをば、發語を書て侍り、されば、枕詞てふ語は、延喜承平などの御時まではなく、後にいひ出でしなりけり、源氏の物語に、云云の事を枕ごととして書けるは、古ことを藉もて、今の思ひをいふ故の語なり、此冠辭は、こそ本として、下の意をいふにあらず、ただ、歌の調へのたらはぬをよめるより起りて、かたは、詞を飾るものにて、いはれ異なり、かの「枕さうし歌枕」なるといふを思は、その頃には、いなりしなり、(要)

○枕詞ノ用法ハ實ニ國語ニ特別ナルモノニテ、名詞、動詞、形容詞、副詞等、其冠スベキ語モ、種種ニシテ、其所用モ、唯、其冠スル語、ニノミ係リテ、他語ニ係ラズ、故ニ、文章上、言類ノ分解(Analysis)ニ當リテハ、二語ヲ一熟語ト見テ解クベキモノトスベシ。

接頭語 發語

接頭語(Prefix)ハ、常ニ他語ノ頭ニ接キテ、熟語トナリテ、其意義ヲ添フル語ナリ、サレバ、固ヨリ獨立ニハ、用井ラレズ。接頭語ノ數甚ダ多カラズ、又、一定ノ慣用法アリテ、何レノ語、皆冠ラスベキニアラズ。今、左ニ、其著キモノヲ擧ゲテ、其用例ノ一斑ヲ示サム。

「初春」初花「初音」初穂「初事」初冠「初學」初立つ「新參り」新枕「新壘」小車「小舟」小川「小篠」小止む「小暗し」小家「小松」小路「小暗し」小高し「御代」御位「御心」御燈「天御」御御「眞心」眞白「眞直中」素腹「素肌」素顔「生絹」生紙「生藥」僻目「僻事」僻讀ミ「曲者」曲舞「曲事」えせ者「えせ車」えせ法師「幾年」幾世「幾久し」異國「異人」諸手「諸人」諸聲「彌増す」彌遠し「彌高し」逸先「逸早し」ほの見ゆ「ほの聞ゆ」ほの暗し「屢たたく」屢吹く」ナドナリ。

○漢語ノ「不義」不本意無位無慈悲第一第二當年當代數人數年諸事諸書衆人衆僧ナドモ、接頭語ナリ。

發語 某語ヲ言ハムトスルモ、首ニ加ヘテ發スル聲ナリ。其聲皆、一音ニシテ、大抵ハ、意義無ク、或ハ、稍、其下ノ語意ヲ強クスルガ如キモノアリ。而シテ、其用例、亦、局レル所アリ、左ニ、其著キモノヲ示ス。

「昨夜」衣「男鹿」渡る「迷ふ」

「み吉野」み熊野「み山」み空「み雪」み坂「み岬」

「を簾」を田「を野」

「け劣る」け亮ら「け壓る」け短し「け長し」け近し「け恐し」け疎し

「し行く」し向ふ「し座す」し渡る「し通ふ」し觸る」

「た忘る」た比ぶ「た謀る」た走る「た徘徊る」た靡く「た弱し」た易し「た遠し」

「か易し」か弱し「か黒し」か細し」

接尾語

接尾語(の語尾)ハ、常ニ他語ノ尾ニ接キテ熟語トナルモノニテ、他語ヲ名詞トスルアリ、動詞トスルアリ、形容詞トスルアリ、副詞トスルアリ、而シテ、亦、漫用スベカラズ、スベテ、慣用ノ例ニ據ルベシ。

○他語ニ接キテ、名詞トスルモノハ、

ども(共)物事ノ數アルヲ總ベタイフ。次ノ二語モ同ジ。「物ども」事ども「調度ども」馬ども「舟ども」男ども」

たち(連)專ラ人ニイフ。「皇子たち」親たち「大臣たち」公たち「友たち」

はら(併)亦、人ニイフ。「殿はら」法師はら「女はら」奴はら」

どち 互ニ夥伴ナル意ナイフ。「俗ノどし」ハ、此轉ナリ。「友どち」女どち「我れどち」思ひどち「思ふどち」思はむどち「若きどち」年歴ぬるどち「ちるんそどち」

ち「ちるんそどち」(千代ノどち)

ら〔等〕我ら〔汝ら〕是ら〔天ら〕少女ら〔成信重家ら〕出家し侍りける比
など〔月花など〕のながめに貴き賤しきなど、ちまきまにて院の御まじきよ
り、千賀の鹽釜などやうの御消息、をかしき物など、持てまゐりかよひたる
なども、めでたし〔枕草子〕

○此語ハ、名詞ト合シテ、下ニのをも等ヲ履ムコト、他語ヲ副詞トスルなど、後ニ擧グノ、直ニ動
詞ニ係ルト異ナリ。又、など思ふらむナドノなどハ、眞ノ副詞ナリ、混ズベカラズ。

以上二語ハ、物事ノ數アルヲ示シ、而シテ、其數ノ限リヲ列チタルニモイヒ、
〔内等〕其外ニモアルヲ畧スルニモイフ。〔外等〕

け〔無〕以下三語皆、事物ノ形狀、情態ナイフ。一人け〔外け〕心ありけ〔物思ひけ〕
思はずけ〔悪け〕重け〔惜しけ〕

る〔疾〕遠る〔深る〕善る〔悪る〕悲る〔嬉る〕逢る〔離るる〕行く〔來る〕歸
るる〔入るる〕

み〔深み〕高み〔青み〕赤み〔重み〕輕み〔無み〕

○此ノミトミトニ就キテハ、形容詞ノ語根ノ條ニモ説ケルコトアリ、尙、其條ヲ見ヨ。

か〔日〕日チ數フルニイフ。二か〔五か〕二十か〔三十か〕五十か〔百か〕幾か

べ〔邊〕邊チイフ。山べ〔川べ〕磯べ

べ〔部〕群チイフ。思べ〔物の〕下べ

へ〔方〕方角チイフ。後へ〔行へ〕片へ

へ〔重〕重チイフ。三へ〔十へ〕二十へ〔千へ〕幾へ

わ〔曲〕隠リタル所チイフ。浦わ〔川わ〕外わ〔内わ〕郭わ

り〔たり〕人チ數フルニイフ。二り〔三り〕三たり〔四たり〕幾たり

て〔入〕人チイフ。射て〔讀みて〕爲て

○漢語ノ何輩何等二箇三號三番四荷五四六枚七帖八束九段十通
ナド用井ルモノ、皆是レナルベシ。

○他語ニ接キテ、動詞、又ハ、形容詞トスルモノハ、

めく 自動詞トシテ、その如くなるナドイフ意チナス、變化ハ、規則動詞ノ

第一類ナリ。「今めく時めく春めく唐めく物怪めく山里めく時雨めくほのめく」

めかす めくノ他動ナリ、變化ハ、規則動詞ノ第一類ナリ。「今めかす時めかす色めかす物めかすほのめかす」

はむ 状態の、それとあらざる意ナイフ、自動ニテ、規則動詞ノ第一類變化トナル。「心ほむげさうほむ老いはむげしきはむ枯れはむ由はむ」

がる 「と思ふ」ナドノ意チナス、自動詞、規則第一類ノ變化ナリ。「嬉しがるゆかしがる悲しがる賢がる寒がるあはれがる艶がる情がる懇がる」

ぶ 自動ニテ、その如くにてあり「ナドノ意チナス、變化ハ、規則動詞第三類ナリ。「大人ぶ古ぶ田舎ぶ鄙ぶ都びて翁びてげさうびて尋常びたり」とらひたる」

がまし 形容詞第二類ノ變化トナリテ「の如し」に似る嫌ひあり「ナドノ意チイフ。「隔てがまし」かごとがまし「鳥詩がまし」散樂がまし」

○其他、尙、アルベシ、希フノ意ノ「行きたし」見たし「形容詞第一類變化其状ナル意チイフ、男らし女らし」同第二類其風スル意ノ「學者ぶる利口ぶる」(規則動詞第一類變化)ナラしらしぶるナドモ、是レナリ。

○他語ニ接キテ、副詞トスルモノハ、

がてら 語原ハ「縁テ雑フル」意、事ノ彼此ニ涉ル意チ示ス。「秋の野も見給ひがてら、雲林院に詣で給へり」げしきも見がてら、雪を打拂ひつつ山川を、導しがてら、まづや渡らむ「脱ぎかへがてら、夜みそハ着め」かたみがてらよ、着なむと思ふ「我宿の花見がてらよ、來る人を御子日がてら、まゐり給へかし」

ながら 語原ハ「長ら」ニテ、延アル意アルベシ。

○「そのまゝ」それごめよ「ノ意ナルハ」二年を春ながらよも暮れなむ昔しながらの、山櫻哉「あまながら、かしづきするて」御簾の内ながら、宣ふ「御子ども、六人ながら、引連れて、枝ながら、見よ」

○「なれども」(在)ノ意ナルハ「我心ながら、かかる筋よおほけなく」心ながら、胸いたく身ながら、心よえまかすましくなむ身の程よもあらずながら「春ながら、雪を降りつつ」さりながら「思ひながら」まかしながら

○「つつ」又ハ「且」ナドノ意ヲナスハ、「歩ミながら見ル」讀ミながら考フ「がてよ」「難氣よ」ノ約マレルニテ、事ノ成リ難クアル意ヲ示ス。「白露の溜れはがてよ、秋風を吹く」泡雪の溜れはがてよ「碎けつつ」などか我身の、出でがてよする「時鳥我宿をしも、過ぎがてよ啼く」行きがてよのみ、などかなるらむ「歸りがてして、別れを惜む」

はかり「許」計ノ義ニテ、程限ナイフ。第一類天爾波ニ同語アレド、用法異ナリ。○程ノ意ナルハ、「ひえの山を、はたちはかり、重ねあけたらむ程して」我はかり、物思ふ人よ、またもあらじ「我はかり、我を思をむ、人もがな」あかつきはかり、憂きものをなじ「櫻はかりの、花無かりけり」三年はかり「歴て」いはかり

「人よ思をれむはかり、めでたき事あらじ」泣きぬはかり言へば「よるべとすはかりよ」死ぬはかりなる「死ぬるはかりよ」人目よ見ゆるはかりよ「動詞、助動詞、ノ第一變化、第二變化、何レニモ連續ス。

○頃ノ意ナルハ、「宵打過ぎて、子の時はかりよ」今宵はかりや、と待ちけるさまなり「その日はかりよ、御迎へよまゐり來む」八月十五日はかりの月よ入相はかり「何時はかり」

から「故ニ」ノ意ナリ、古言、故ノ轉ナラム。よりノ意ノからト異ナリ。「いとふびんなる人から、仲忠の朝臣とひとしくなむ、形心身のさえ侍り」(うっほ)「聞き馴れ侍りける耳からよや」をしむから、戀しきものを「吹くからよ、なべて草木の、まをるれば「相見むからよ」取りしからよ」(るからよ)」

ことよ「每」語原ハ「異よ」ノ意カ、物事ノ、各、然ル意ヲ示ス。「春ことよ咲く」咲くことよ「見る」人ことよ「言ふ」年ことよ「日ことよ」
づつ「宛」一箇ニ箇ノ箇ヲ重テタル語ナラム、各、宛ノ意ヲ示ス。「どりのまを、

十づつ十ハ重ぬとも「袈裟衣」など、すべてひとくたりの程づつ、ある限りの大とくたちも賜ふ「下もみぢ」一葉づつ散る、木のもども「かたをしづつ、見るよ」少しづつ語り聞えたまふよ」

まよまよ「打任スル意ヲ示ス。「任」ニテ重用シテ約メタル語ナレド、別ニ一種ノ用法ヲナス。「秋霧の、晴るるまよまよ、見渡せば」聲のまよまよ、尋ぬるを「語るまよまよ、聞く欲しきまよまよ、取る」山風の吹きのまよまよ」

かど「杯」何と「中畧ヲヲム。「ニ定メズ、大畧ヲ指シ示ス意ノモノナリ。(他語ヲ名詞トスルなどハ、前ニ擧ゲタリ)「何事ぞなど問フ」行くべしなど言ふ「悲し」など言をむかたなし「馬になど乗りて」

がり「許」の許ま「意ナリ。「文ハ、大輔がり遣れ、と宣ふ」紀の有恆がり行きたるよ「若草の、ゆがりとへは」妹がり行けば「供の者具して、國司のがり向ひぬ」女のがり行きと「撫子を人のがりつかをしける」伊豆の守の女よて居たりけるがりよ、文やる「故左衛門がりよ、後よ物などつかをししたれば」

すがら「盡ルルマテ」ノ意ナリ。「夜すがら、いをねず」春の日すがら、またぞ忘れぬ「夜もすがら眠らず」夜もすがらよ、起き居つつ「秋の夜を、聲もすがらよ、あくる松蟲」

すがら「ながら」ノ意ナリ。「直從ノ約カ」「行くすがら、心もゆかず」秋霧の、立ちぬるすがら、心あてよ「路すがら身すがら、佩せる太刀すがら」

◎以上、其著キモノナリ。又、「夜ノ明クルる起キ出テテ」元祿十年ころ起リタル「老ユルほど壯ナリ」牛ほど大ナル「足ルくらる取ル」馬くらる捷シ「出来タルだけ送ル」是レだけアル「ナド用井ル頃程、位、丈、是レナリ。」

○明は「静」は「醒」は「常」は「丁」は「深切」は「頭」は「盛り」は「案」は「或」は「はら」は「ら」と「ほどほど」

ナド、副詞ノ語末ニ用井ル、又、い、も、接尾語ナルベシ。

◎右ニイヘル他語ヲ副詞トスル接尾語ノがてらながら、からばかり等ハ、天爾遠波ノからだに、さへのみ、ばかりナドト、同趣ノモノナルガ如ク見ユレド、用法異ナリ、委シクハ、前ノ天爾遠波ノ條末ニ辨マオケリ。

右、語法指南ハ、日本文典中ノ、此辭書ヲ使用セムニ、要アリト思ハルル所ノ
 ミナ、摘録シタルモノナリ。サレバ、若シ、コレヲ一部ノ文典ト認ムルコトモ
 アラバ、必ズ、事足ラズ思フ所モアラム、唯、善ク摘録ナルコトヲ察スベシ。但
 シ、始衷終、條條ノ叙述ニ於テ、詳畧、鈞合ハヌガ如ク見ユル所モアレド、助
 動詞、天爾遠波等ニ至リテハ、頗ル錯雜セルモノナレバ、叙述モ亦簡ナルコ
 能ハズ、言フベキホドノ事ハ、言ハザルヲ得ザルニ因レリ、又此意ヲモ諒セ
 ヲ。

(完)

本書の儀は嘗て編者先生の御編輯なる日本辭書言海の附録として發行相成
 候者に候處世上に日本文典の良書無之故に諸學校にて此語法指南の部を
 教科參考に稱贊採用可相成趣に別此語法指南のみを購求致度旨度々注
 文相受候に其旨先生まで申出候處本文載の旨も有之通り元來言海を注
 用編輯者の指南にとて附したる者にて且日本文典は後日別に一部の書とし
 て其意に背き候は如何にも遺憾千萬に存候間再三先生に懇願仕遂に強て許
 可を得て發賣の運に至候事候此事爲念爰に一言仕候也

發行 者 敬白

明治三十三年十一月三十日印刷
 全全全
 廿廿廿
 六年年
 年一十
 十一月
 月一日
 月八日
 日三再
 版版版

定價金貳拾五錢

版權所有

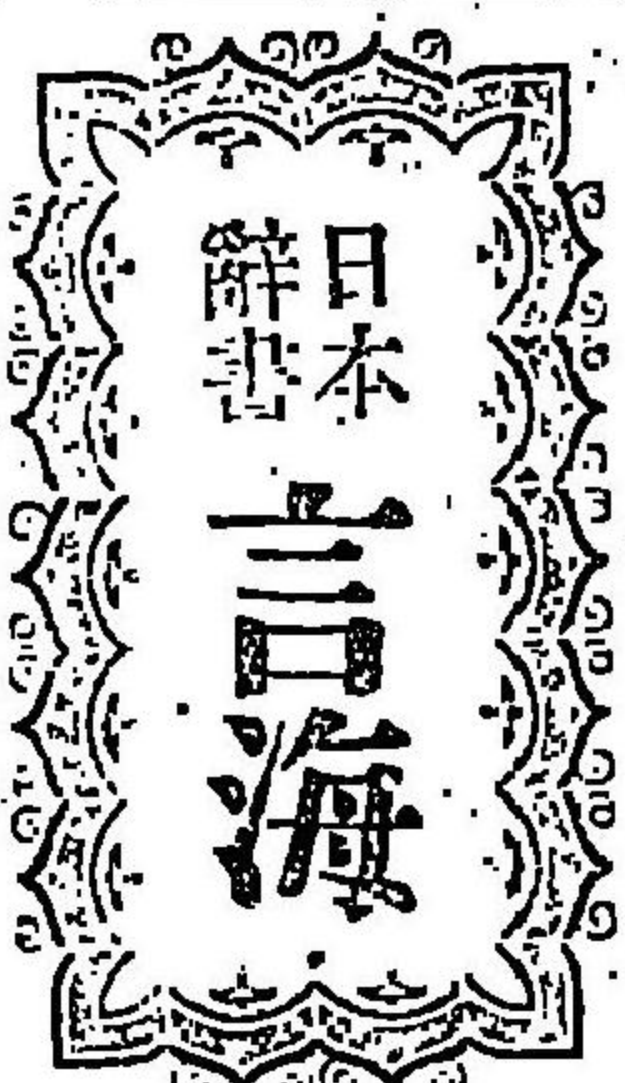
著 者
 發 行 者
 印 刷 者

大 槻 文 彦
 東京市下谷區上根岸町百十番地
 小 林 新兵衛
 東京市日本橋區通二丁目十三番地
 下 村 初太郎
 東京市日本橋區下槇町九番地

賣捌所

東京市日本橋區通二丁目
 全 神田區小川町
 大阪市中心齋橋通北久寶寺町四丁目
 小 林 新兵衛
 野 善兵衛
 牧 野 善兵衛
 三 木 佐助

大槻文彦編



洋裝大本 紙數一千 二百五十 頁 活字 五十六行 十六字 正價金四圓 紙前上等製本背皮金字入 正價金四圓 五十錢 紙製和洋紙並製本背皮金字入 正價金四圓九十錢 遞送費ハ先掲ノ

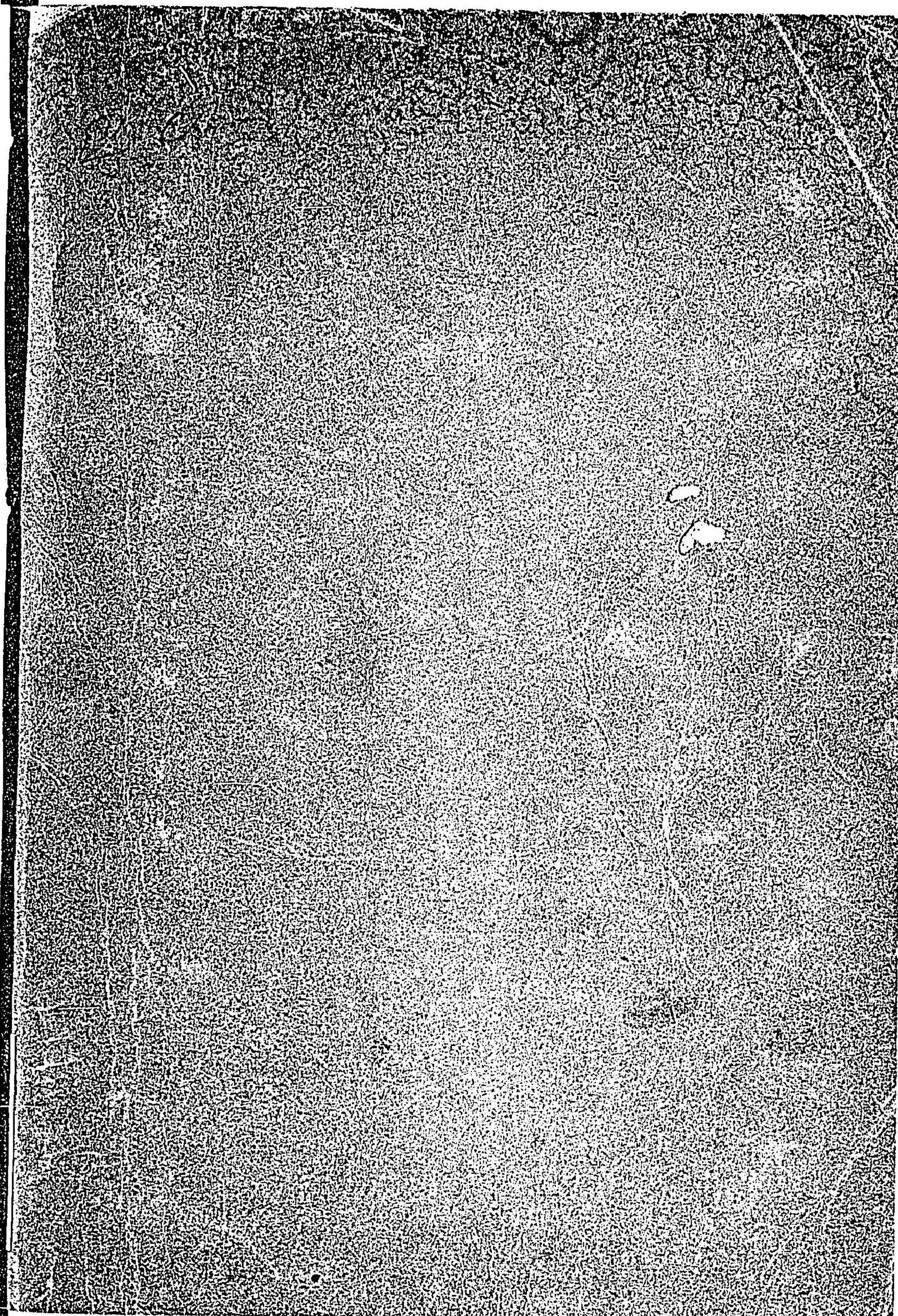
日本言海

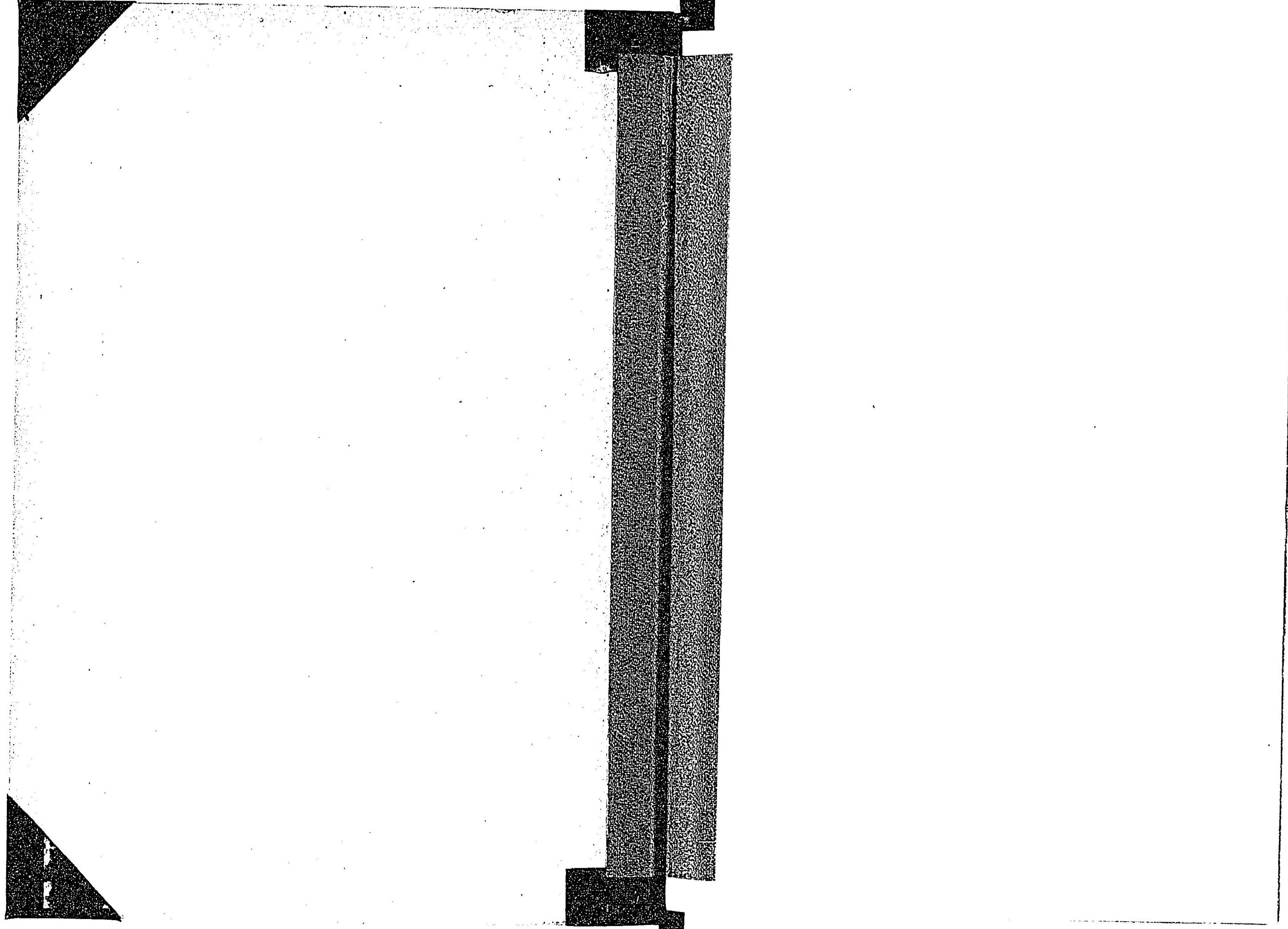
百今改編ノ趣ヲ以テ 天皇陛下下 皇太后陛下 皇太子殿下へ献上致候ニ付夫々 御前へ差上候古ハ斯道ニ裨益不少善良ノ 辭書ニシテ精勵編輯ノ段 御満足ニ被 思召候此段申入候也 明治二十四年七月二十三日 宮内大臣子爵土方久元

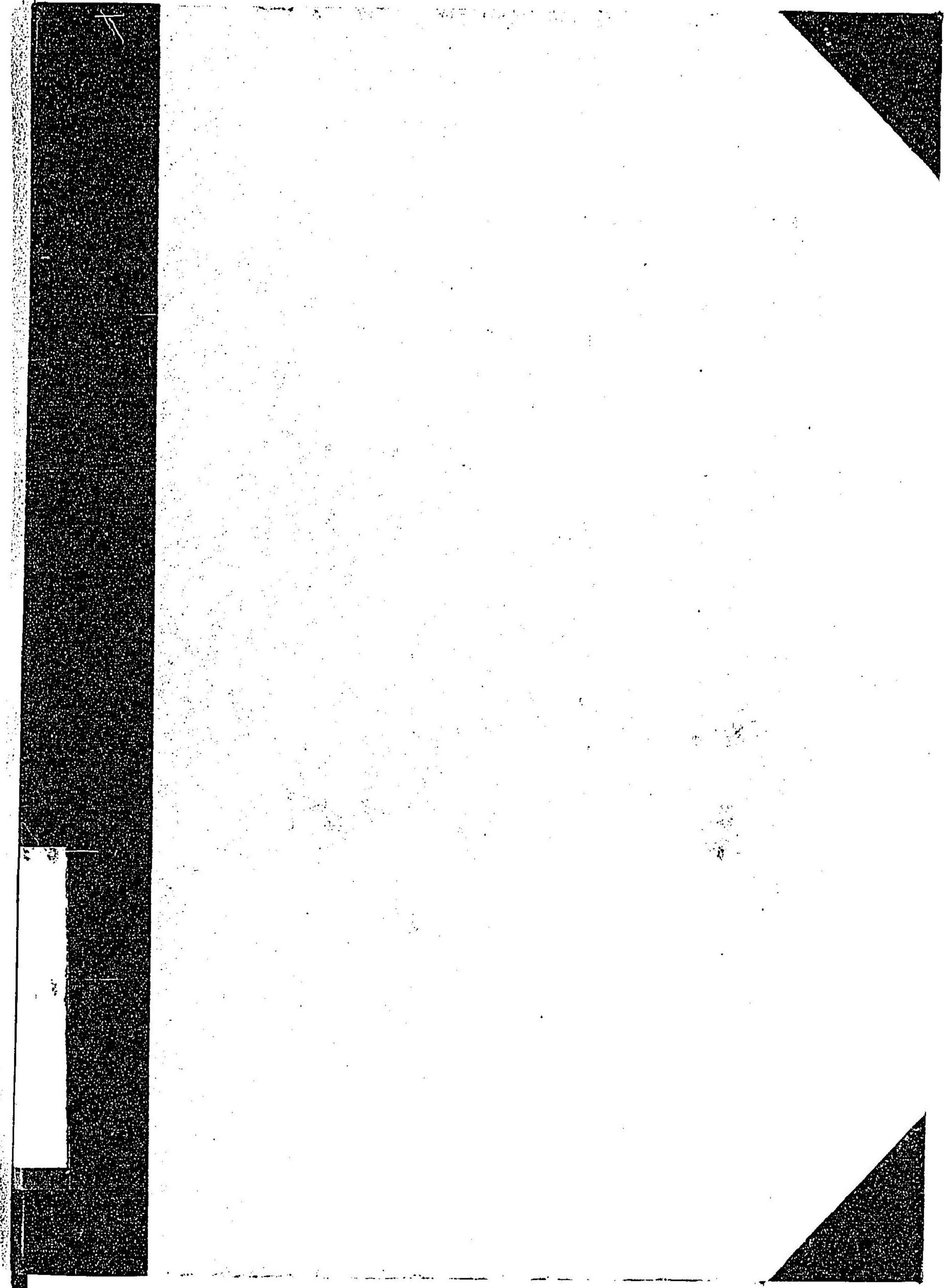
本書ノ見本ヲ要セラル、方ハ郵券二錢送

本書ハ編者ガ文部省編輯局ニ奉職中明治八年ヨリ十七年ニ涉リテ編成シタルモノニテ後ニ草稿ヲ下賜セラシメ更ニ訂正シ私版トシテ刊行シタルモノナリ 本書ハ日本語ヲ釋キタル普通辭書ニシテ凡ソ古今雅俗ノ單語熟語等ヲ網羅スルヲ四萬餘各語ヲ假名ニテ擧ゲテ五十字順ニテ排列シ漢字漢名ノ當ツベキハ當テ語毎ニ語別(Parts of Speech)語釋(Definition)ヲ付シ語釋ノ時ズル者ハ次ヲ逐ヒテ區別シ例語例句ヲモ擧ゲ又發音符(Phonetic notation)ヲ要スルモノ語原(Derivation)ノ説クベキモノハコトヲ加ヘ動詞形容詞助詞ニハ一々語尾ノ變化ヲ記シ凡ソ全篇ノ大體スベテ西洋辭書ニ倣ヒ東西同事物ノ語釋ノ如キハ準テ洋辭書ノ語釋ヲ譯シテ挿入シタリ而シテ其引用參考ニ供ヒシ和漢洋ノ書ハ凡ソ八百餘部三千餘卷ニ涉レリ其他篇首ニハ日本語典ヲ掲ゲ又凡例索引指南ヲ添ヘテ使用ニ便ナラシムル日本從來體ヲ具ヘテ完全ナル辭書ナリサレバ此書ハ日本未曾有ノ大成辭書トイフベシ

- 大槻鑿溪著 大槻文彦編 同 支那文典
- 修正古史談 全四冊 定價 金四拾錢
- 大槻文彦製 註釋 全壹冊 郵稅價 金貳拾錢
- 日本帝國一統全圖 全壹幅 正價 金壹圓
- 大槻鑿溪撰 大槻文彦解 支那文典 全二冊 正價 金四拾錢







815.

0.932g

語法指南

国立国会図書館

078380-000-6

815-0932g

語法指南

大槻 文彦/著

M26

DAC-2044

